

琵琶垣内遺跡（第1・4次）発掘調査報告

2006（平成18）年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

琵琶垣内遺跡は松阪市豊原町から安楽町にかけての範囲に所在する遺跡です。櫛田川左岸のこの地は、旧参宮街道が東西に貫き、古い町並みを感じさせる歴史深い所です。古くは、縄文時代の土器を多数出土した山添遺跡をはじめ、西側の丘陵には、天王山古墳群や山添古墳群など、多数の古墳が築造され、上流の大川上遺跡では「神宮寺」と書かれた墨書き土器が多数出土するなど、重要な遺跡が多く見られる地域でもあります。

琵琶垣内遺跡では、これまで3度の発掘調査が行われ、今回の発掘調査が4度目に調査になります。この報告書は、平成16年度道路改築事業（一）松阪環状線（豊原～上川）に伴い発掘調査を行った第4次調査の成果を報告したものに、第1次調査の成果を附したものであります。これらの成果では、当地周辺の土地開発を示す溝が多数確認され、櫛田川左岸地域の歴史を考える上で、貴重な資料であると言えます。

今回の発掘調査の成果は、記録保存によるものです。遺跡は、現状保存が最も望ましい事ですが、我々が豊かに暮らすためには、開発は欠かせないものでもあり、そのために記録保存でしか残せない事はやむを得ない事であります。われわれに課せられた使命は、こうした成果をより多くの人々に有意義に公開し、後世の豊かな文化生活に貢献することにあると考えます。

調査にあたっては、地元の方々をはじめ、松阪市教育委員会、三重県県土整備部（三重県土木部）、松阪地方県民局建設部（松阪土木事務所）、櫛田上土地改良区など関係機関から多大なご協力と暖かいご配慮を頂きました。文末になりましたが、心より厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例　　言

- 1 本書は、三重県松阪市豊原町字琵琶垣内・山際・閑淨寺地内ほかに所在する、琵琶垣内遺跡の第4次発掘調査にかかる報告書である。なお、第1次調査の成果も合わせて掲載した。
- 2 第4次調査は、平成16年度一般地方道松坂環状線（豊原～上川）道路改良事業に伴い、緊急発掘調査を実施したものである。
- 3 発掘調査および報告書作成は、次の体制で行った。

<平成16年度（発掘調査）>

調査主体　三重県教育委員会
調査担当　三重県埋蔵文化財センター（調査研究Iグループ）
技師　新名　強　　臨時技術補助員　豊田祥三

<平成17年度（報告書作成）>

三重県埋蔵文化財センター（調査研究Iグループ、支援研究グループ）
主査　伊藤裕偉、技師　新名　強、主事　奥　義次・前野謙一、
臨時技術補助員　豊田祥三
- 4 調査にかかる諸費用は、三重県土整備部が全額負担している。
- 5 発掘調査にあたっては、松阪市在住の皆様、松阪市教育委員会、および三重県土整備部・松阪地方県民局事業推進室から多大な協力を受けたことを明記する。
- 6 本報告の基となる記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
- 7 当報告書の作成業務は三重県埋蔵文化財センターで実施し、支援研究グループおよび調査研究Iグループが行った。報告文の執筆は新名・奥・伊藤が、遺物の写真撮影は豊田・伊藤が行った。本書の編集は伊藤が行った。

凡　　例

<地図類>

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、松阪市都市計画図（1975年・1993年）である。
- 2 松阪市都市計画図は、国土調査法の日本測地系による座標第VI系（旧国土地標）で表現されているものであるため、平成14年4月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。
- 3 発掘調査に関する座標は、測地成果2000に対応した新座標第VI系で表記している。挿図の方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位は西偏6°36'、真北方位は西偏0°17'34"（平成12年）である。

<遺構類>

- 4 土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。
- 5 土層図の色調と土質は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社 1967年初版、2003年第23版）を基準に、調査担当者が現地で目視した状況による。
- 6 当報告書での遺構は、それぞれの遺跡単位で通番としている。
- 7 遺構図のうち、砂目のスクリーントーンで示した部分は、焼土の範囲である。
- 8 遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。
- 9 遺構番号の頭には、見た目の性格によって、以下の略記号を付けている。
S B……掘立柱建物 S D……溝、 S F……カマド S H……竪穴住居 S K……土坑
S Z……落ち込みなど pit……ピット、柱穴

- 10 遺構は、調査時に付加した遺構番号を基本的に踏襲しているが、今回の報告にあたって変更したものもある。その異同は遺構一覧表に示した。なお、出土遺物の注記については、調査時の遺構名で基本的に実施している。

<遺物類>

- 11 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。それ以外の縮尺のものについては、その都度指示している。
- 12 遺物実測図は、第4次調査区と第1次調査区をそれぞれ別にまとめた。
- 13 当報告書での用語は、「つき」は「杯」、「わん」は「碗」に統一している。
- 14 遺物観察表は、以下の要領で記載している。

番号……………挿図掲載番号である。

実測番号……………実測段階の登録番号である。

様・質……………「弥生土器」「土師器」「須恵器」といった区分をここに示した。

器種など……………遺物の器種を示す。

グリット……………調査時に設定したグリット名を記した。

遺構・層名……………遺物の出土した遺構や層名を記した。「土器」、「石」などは、それぞれの取り上げ時の区分である。

法寸(cm)……………遺物の計測値を示す。(口)は口縁部径、(底)は底部径、(高台)は高台部径、(脚柱)は脚部上端径、(脚根)は脚台根部径を示す。なお、数値はそれぞれの部位の最大径であり、内法や、実測段階での「接地点」ではない。

調整・技法の特徴……………主な特徴を外面（外；）・内面（内；）で示した。「A→B」はAの後にBが施されたことを示す。

胎土……………小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。

色調……………その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帖』に拠る。

残存度……………その部位を12分割した際の残存度を示した。6/12は約半分、12/12は全体が残っていることになる。

特記事項……………遺物の特徴となる事項を記した。

<写真図版>

- 15 写真図版は、第4次調査区と第1次調査区をそれぞれ別にまとめた。
- 16 挿図と写真図版の遺物番号は、遺物実測図の番号と対応している。
- 17 遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

本文目次

| | |
|--------------------|-----------|
| I 調査の契機・経過と行政的諸手続 | 新名…(1) |
| 1 調査の契機 | |
| 2 調査の経過と法的措置 | |
| 3 発掘調査と記録の方法 | |
| 4 整理作業とその方法 | |
| II 柳田川中下流域の歴史的諸環境 | 奥・伊藤…(4) |
| 1 地形的環境 | |
| 2 旧石器・縄文時代の遺跡概観 | |
| 3 弥生時代の遺跡動向 | |
| 4 古墳時代の遺跡動向 | |
| 5 奈良・平安時代の遺跡動向 | |
| 6 中世前期の状況 | |
| III 第4次調査の成果 | 新名…(9) |
| 1 地形及び基本層序 | |
| 2 遺構 | |
| 3 遺物 | |
| 4 小結 | |
| IV 第1次調査の成果 | 伊藤・奥…(35) |
| 1 第1次調査の経過 | |
| 2 調査区の層位と遺構 | |
| 3 出土遺物 | |
| V 調査のまとめと検討 | 伊藤…(69) |
| 1 時期別の遺跡変遷 | |
| 2 古墳時代以前の大溝とその意義 | |
| 3 古墳時代前期の土器類 | |
| 4 墨書き土器「下厨前」と古代の集落 | |
| 5 球籠埴内遺跡発掘調査の意義 | |

挿 図 一 覧

- | | | | |
|------|----------------------------------|------|---------------------|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 第21図 | 第1次調査区遺構平面図(1) |
| 第2図 | 琵琶垣内遺跡調査区位置図 | 第22図 | 第1次調査区遺構平面図(2) |
| 第3図 | 第4次調査区位置図 | 第23図 | 第1次調査区遺構平面図(3) |
| 第4図 | 第4次調査区遺構平面図(1) | 第24図 | 第1次調査区遺構平面図(4) |
| 第5図 | 第4次調査区遺構平面図(2) | 第25図 | 第1次調査区遺構平面図(5) |
| 第6図 | 第4次調査区遺構平面図(3) | 第26図 | 第1次調査区遺構平面図(6) |
| 第7図 | 第4次調査区(西部)下層遺構平面図 | 第27図 | 第1次調査区遺構平面図(7) |
| 第8図 | 第4次調査区(東部)下層遺構平面図 | 第28図 | 第1次調査区遺構集中地点詳細図(1) |
| 第9図 | 第4次調査区周溝墓S X505平面・断面図 | 第29図 | 第1次調査区遺構集中地点詳細図(2) |
| 第10図 | 第4次調査区北壁土層図 | 第30図 | 第1次調査区遺構集中地点詳細図(3) |
| 第11図 | 第4次調査区掘立柱建物S B594平面・断面図 | 第31図 | 第1次調査区遺構集中地点詳細図(4) |
| 第12図 | 第4次調査区墓S X571平面・断面図 | 第32図 | 第1次調査区大溝S D27・96土層図 |
| 第13図 | 第4次調査区溝S D590・545・573・591 土層図 | 第33図 | 第1次調査区出土遺物(1) 繩文土器 |
| 第14図 | 第4次調査区出土遺物(1) | 第34図 | 第1次調査区出土遺物(2) |
| 第15図 | 第4次調査区出土遺物(2) | 第35図 | 第1次調査区出土遺物(3) |
| 第16図 | 第4次調査区出土遺物(3) | 第36図 | 第1次調査区出土遺物(4) |
| 第17図 | 第4次調査区出土遺物(4) | 第37図 | 第1次調査区出土遺物(5) |
| 第17図 | 第4次調査区出土遺物(5) | 第38図 | 第1次調査区出土遺物(6) |
| 第19図 | 第1次調査区G 1～3区平面・土層断面図 | 第39図 | 第1次調査区出土遺物(7) |
| 第20図 | 第1次調査区G 4～10区全体図 | 第40図 | 第1次調査区出土遺物(7) |
| | | 第41図 | 第1次調査区出土遺物(9) |
| | | 第42図 | 第1次調査区出土遺物(10) |

表 一 覧

- | | | | |
|-----|------------------|------|------------------|
| 第1表 | 第4次調査区遺構一覧(1) | 第9表 | 第1次調査区掘立柱建物・柱列一覧 |
| 第2表 | 第4次調査区遺構一覧(2) | 第10表 | 第1次調査区出土遺物観察表(1) |
| 第3表 | 第4次調査区出土遺物観察表(1) | 第11表 | 第1次調査区出土遺物観察表(2) |
| 第4表 | 第4次調査区出土遺物観察表(2) | 第12表 | 第1次調査区出土遺物観察表(3) |
| 第5表 | 第4次調査区出土遺物観察表(3) | 第13表 | 第1次調査区出土遺物観察表(4) |
| 第6表 | 第4次調査区出土遺物観察表(4) | 第14表 | 第1次調査区出土遺物観察表(5) |
| 第7表 | 第1次調査区遺構一覧(1) | 第15表 | 第1次調査区出土遺物観察表(6) |
| 第8表 | 第1次調査区遺構一覧(2) | 第16表 | 第1次調査区出土遺物観察表(7) |

写 真 図 版 一 覧

- 写真図版1 第4次調査区 遺構(1)
 写真図版2 第4次調査区 遺構(2)
 写真図版3 第4次調査区 遺構(3)
 写真図版4 第4次調査区 遺構(4)
 写真図版5 第4次調査区 遺構(5)
 写真図版6 第4次調査区 遺構(6)
 写真図版7 第4次調査区 遺構(7)
 写真図版8 第4次調査区 遺物(1)
 写真図版9 第4次調査区 遺物(2)
 写真図版10 第4次調査区 遺物(3)
 写真図版11 第1次調査区 遺構(1)

- 写真図版12 第1次調査区 遺構(2)
 写真図版13 第1次調査区 遺構(3)
 写真図版14 第1次調査区 遺構(4)
 写真図版15 第1次調査区 遺構(5)
 写真図版16 第1次調査区 遺構(6)
 写真図版17 第1次調査区 遺物(1)
 写真図版18 第1次調査区 遺物(2)
 写真図版19 第1次調査区 遺物(3)
 写真図版20 第1次調査区 遺物(4)
 写真図版21 第1次調査区 遺物(5)
 写真図版22 第1次調査区 遺物(6)

I 調査の契機・経過と行政的諸手続

1 調査の契機

a 開発工事と記録保存された遺跡

ここで報告する第4次調査の記録は、平成16年度道路改築事業（一）松阪環状線（豊原～上川）に伴って実施したものである。当該道路は、旧参宮街道の交通量増加に伴い、この道路の南側に並行して建設されるものである。また、第1次調査の記録は、昭和62年県道御麻蘭・豊原線改良事業に伴って実施したものである。第1次調査の記録については、第4次調査区に隣接しており、第4次調査の成果を正確に把握するためには不可欠な成果であるので、ここに併せて記載することとした。当該道路は、松阪市豊原町と同市御麻蘭町を結ぶ道路である。

今回調査を行った豊原町は、行政管区としては三重県松阪市豊原町である。豊原町の東側は櫛田川によって限られており、御麻蘭町は櫛田川の上流にあたる。県道御麻蘭・豊原線は、豊原町を貫く主要幹線の県道鳥羽松阪線（旧国道4号線）と国道42号線を結ぶ重要な幹線である。また、県道松阪環状線（豊原～上川）は、旧参宮街道の交通量増加に伴い、建設されるもので、先述の県道御麻蘭・豊原線と国道松阪・多気バイパスを結ぶものである。

ともに、両線は主要幹線を結ぶ重要な道路であり、交通渋滞の緩和等の効果が期待される。特に、現在使用されている旧参宮街道は、道幅が狭い上に、松阪市街地への短縮路とあって、交通量は多い。更に豊原町地内には松阪商業高校が所在していることから、松阪環状線の建設は、通学の安全確保という意味でも必要なものである。

b 範囲確認調査について

第4次調査の調査範囲については、三重県埋蔵文化財センターが実施した平成12年度に行われた県営は場整備に伴う範囲確認調査において、調査区の東半部に遺跡が存在する事が判明していた。また、調査区の西半部については、隣接地において松阪市教育委員会が実施した範囲確認調査において、遺跡の存在が明らかとなっており、当該調査区について遺

跡が存在するものと判断した。また、第1次調査区については、昭和62年度に三重県埋蔵文化財センターが範囲確認調査を実施し、遺跡の存在が明らかとなった。本調査により記録保存措置が必要と判断された部分は、ここで報告する琵琶垣内遺跡のみである。ただし、琵琶垣内遺跡の第1次調査区は、当初閑淨寺遺跡として発掘調査を行っていたものであるが、調査後、琵琶垣内遺跡と一連のものであると考えられることから、現在では琵琶垣内遺跡（第1次）としている。ここでは、当該事業にかかる範囲確認調査の結果を記す。

琵琶垣内遺跡は、櫛田川左岸の河岸段丘上に広がる遺跡である。南は県道鳥羽松阪線を境に、北は安楽町付近まで、西は天王山丘陵裾部まで広がるものと考えられる。今回報告する第4次調査区および第1次調査区は、琵琶垣内遺跡の南部にある。

琵琶垣内遺跡の範囲確認調査は、これまでに3度行われている。1度目は、第1次調査に伴い昭和60年に実施された範囲確認調査（試掘調査）で、琵琶垣内遺跡の南部4,800m²に遺跡が存在することが判明した。2回目の範囲確認調査は、県営は場整備に伴い平成8年に実施された範囲確認調査で、琵琶垣内遺跡の中央部8,900m²に遺跡が存在することが判明した。3度目は、県営は場整備に伴い平成12年度に実施された範囲確認調査で、県道御麻蘭・豊原線西側の水田一帯を対象に行われたもので、36,000m²について遺跡が存在することが判明した。

c 琵琶垣内遺跡発掘調査にむけての協議

第4次調査については、平成13年度に実施した範囲確認調査成果をもとに、当事業の主体者である三重県土整備部・三重県松阪市民局建設部と当センターとで協議を行った。その結果、事業地内の内、道路建設によって改変を受ける2,317m²（下層1,368m²を含む、累計3,757m²）については、現状保存が困難であることから、平成16年度に本発掘調査を実施し、記録保存することで合意した。

また、第1次調査については、昭和60年に実施した範囲確認調査成果をもとに、当事業の主体者であ

る三重県土木部・松阪土木事務所と三重県教育委員会文化課で協議を行った。その結果、事業地内の内、道路建設によって改変を受ける3,800m²については、現状保存が困難であることから、昭和62年度に本発掘調査を実施し、記録保存することで合意した。

2 調査の経過と法的措置

a 発掘調査の経過

琵琶垣内遺跡は、これまでに1～3次の発掘調査が実施されている。第1次調査は、三重県教育委員会が、第2・3次調査は三重県埋蔵文化財センターが調査を実施している。今回の調査は、琵琶垣内遺跡としては4回目の調査にあたるので、「琵琶垣内遺跡（第4次）」として実施した。また、第1次調査については、先述の通り、「閑淨寺遺跡」として発掘調査したものであるが、今後は「琵琶垣内遺跡（第1次）」として扱うものとする。

発掘調査を実施したのは、第4次調査が平成16年5月から9月にかけてである。6月7日に、現地の表土掘削を行い、順次グリッド設定を行った。発掘調査は6月24日から開始し、9月17日には調査を終了し、9月22日には全ての業務を完了した。なお、現地調査に関しては、㈱安西工業と発掘調査業務委託契約を交わし、現地調査にかかる発掘作業員や機材類の調達、土工管理、現地の国土座標測量、発掘調査記録業務などを実施した。

一方、第1次調査については、昭和62年5月7日から同年9月26日にかけて発掘調査を行い、調査は三重県教育委員会が、県土木部を通じて発掘作業員を募集し、直営で調査を行っている。

なお、遺物の洗浄・注記・接合といった出土品の1次処理、遺構図面類・記録写真類の整理などの業務については、第4次調査で平成17年度に、第1次調査については、昭和63年度に行っている。

b 発掘調査の普及・公開

当該発掘調査にかかる普及・公開事業としては、第4次調査については、調査概要を発掘調査作業員および地元住民に対して配布した。また、第1次調査においては、発掘調査の進捗にあわせて発掘調査ニュースを隨時作成し、地元住民に配布した。さらに昭和62年9月に現地説明会を実施し、現地遺跡およ

び出土遺物を広く一般に公開している。

c 文化財保護法等にかかる諸通知

第4次調査にかかる文化財保護法（以下、法）の諸通知は、以下により文化庁長官宛に行っている。

・法第57条の3第1項（文化庁長官宛）

平成16年4月12日付け松建第152号（県知事通知）

・法第98条の2第1項（文化庁長官宛）

平成16年5月13日教委第12-2-18号（県教育長報告）

・遺失物法にかかる文化財の発見・認定通知（松阪警察署長宛）

平成17年1月19日教委第12-4-26号（県教育長通知）

3 発掘調査と記録の方法

a 掘削の方法

範囲確認調査では、地表下約70cm付近で黒褐色土を確認し、この層の上面で遺構を確認している。発掘調査ではその知見に従い、基本的に地表下約60cmまでを重機掘削し、その後は人力による掘削したが、それより上位で黒褐色土を確認した場合は、随時重機掘削を停止し、人力掘削に切り替えている。

重機掘削面から約5～10cm削り込んだところを遺構検出面として精査した。なお、第4次調査では、部分的に2層の遺構面が認められた。また遺構の重複が激しい部分については、最初に検出した遺構を上層遺構、別の遺構の底面より確認した遺構を下層遺構として扱っている。

b 地区設定

琵琶垣内遺跡では、調査が複数年にわたっているため、調査区も多岐に及んでいる。第4次調査では、第3次調査の地区名を引き継いで大地区名を付与した。第3次調査は、6地区に分かれて調査が行われていることから、大地区名を便宜的にA～F地区と付け、これに続く第4次調査は、大地区名をG地区とした。また、各地区内の小地区については、4m四方のグリッドを設定し、西→東方向に数字を、北→南方向にアルファベットを付与している。

一方第1次調査については、大地区名を設定していないが、県道鳥羽松阪線から旧参宮街道の間を3分割してG1～G3地区、旧参宮街道から藤陽集落

までの間を7分割してG4～G10の小地区を設定している。

また、遺構番号については、すべて通番で付与している。さらに報告書作成段階で、第1次調査から第4次調査まで遺構番号が重複しないように、第4次調査は501から、第1次調査は21～150の間の遺構番号を改めて付与した。

c 出土遺物の回収

出土遺物は、出土年月日と層位・遺構の区別を行い、小地区単位で取り上げている。それぞれの遺物には専用のラベルを現地で入れたうえで、洗浄などの作業を行う当センターもしくは整理所へ搬送した。

d 遺構図面

遺構検出段階で、1/40の略測図を作成している。これは「遺構カード」として用いるものであり、遺構毎の出土遺物や埋土の状況を記録している。遺構カードはグリッド単位で作成している。

1/40の略測図をもとに、さらに1/100の遺構配置図を作成している。これは、調査区全体の遺構配置を早い時期に認識する必要があると考えたためである。

発掘調査終了後に、正確な全体図作成を作成した。調査区の平面図は1/20で手書き実測した。なお、第1次調査では、航空写真測量で平面実測行っている。

また、個々の遺構で、遺物出土状況などが重要と判断したものについては、1/10の個別実測図を作成した。土層図は1/20で作成した。

e 遺構写真

遺構関連の写真是、重要なものについて第4次調査では4×5版で、第1次調査では6×7版（プロニ）撮影し、細かな記録には35mm版を撮影した。それぞれのフィルムは、白黒とスライドを同時に作成している。

4 整理作業とその方法

a 遺物類の整理

発掘調査現地から当センターおよび整理所へ出土遺物を搬送した後に、洗浄・注記・接合作業を実施した。

第4次調査では、発掘調査を実施した平成16年から17年度にかけて、発掘調査担当者が報告書掲載用遺物と未掲載遺物に区分した。報告書掲載遺物につ

いては、実測作業等を行った。第1次調査については昭和63年度に上記の作業を行ったが、平成17年度にも、一部再整理を行っている。未掲載遺物は袋詰めにし、整理箱に収納した後に、専用収蔵庫へと搬入した。報告書掲載遺物については、それぞれ1枚づつラベルを付加し、収蔵後の混乱を避けている。

出土遺物は、整理の結果、報告書掲載分および参考資料としての手元保管分（A遺物）、報告書未掲載分（B遺物）として区別して保管している。後者については、当センターが占有する収蔵庫で保管し、前者は当センター内の収蔵スペースで保管している。

b 圖版作成と遺物写真撮影

実測図等が完成した遺物類は、平成17年度に報告書作成のための観察や図版作成を行った。これらの遺物類は、報告書掲載順に収蔵し、報告書完成後の利活用に備えた。また、実測図そのものも、記録保存の一環として保存している。

報告書用に作成した版下類やトレース図類については、報告書完成後に廃棄した。

報告書掲載遺物は、報告書用の写真を6×9版（プロニー）で撮影した。遺物写真的撮影は、報告書掲載資料全てではなく、掲載資料のうちの主立ったものとした。実測図の作成は平成16度に、遺物写真撮影と図版作成、および遺物の収蔵については平成17年度に実施した。

c 記録類

発掘調査にかかる記録類には、調査関連図面（平面図・土層断面図など）、遺構カード（1/40縮尺）、調査日誌、写真類がある。これらは、所定の番号を与え、当センター専用収蔵スペースで保管している。

（新名）

II 櫛田川中下流域の歴史的諸環境

1 地理的環境

琵琶垣内遺跡は、松阪市東部の櫛田川西岸部にある。ここは、櫛田川下流の広大な氾濫平野の起点となる位置で、標高はおよそ10mである。

遺跡の付近は、大きく見れば櫛田川が形成した氾濫平野面に相当する。中下流域の櫛田川氾濫平野は、西側（琵琶垣内遺跡側）と東側とは少し様相が異なる。東側では、櫛田川のかつての本流とされる祓川東岸に「明和台地」と呼ばれる段丘中位面が見られ、琵琶垣内遺跡付近よりも2kmほど下流部まで続いている。古代の官営施設である斎宮跡も、安定したこの台地を利用して形成されている。

それに対し西側、すなわち琵琶垣内遺跡付近では、明和台地のような明確な台地・段丘が見られず、琵琶垣内遺跡付近を起点に広大な氾濫平野が形成されている。古代後半期には源流を持つと考えられる条里型地割も、この沖積地を中心に展開している。

このため、櫛田川下流部西岸地域のなかで、恒常的に安定した場所は、琵琶垣内遺跡付近にはほぼ限定されると見てよい。当地の遺跡展開は、このような地形的環境をも含めた評価が必要である。（伊藤）

2 旧石器・縄文時代の遺跡概観

第1次・3次調査で若干の縄文時代遺物が認められた。この機会に櫛田川下流域、とりわけ沖積地を中心とした、この時代の遺跡分布を一瞥しておきたい。まず、この地域の旧石器・縄文土器出土遺跡の立地を地形区分から大別すると、

A 櫛田川本流と分流の祓川との河川間および両岸に展開する沖積地の自然堤防や微高地に立地するもの

B 櫛田川左岸と祓川右岸の台地および丘陵上とその縁辺に立地するもの

に分けられる。このうちAの地域では、從来は不明であったが、近年の調査の進展によって、やっと本遺跡を含め、6遺跡を数えるようになった。この内訳は櫛田川左岸の3遺跡（山添・琵琶垣内・瀬干）、

櫛田川と祓川の河川間の2遺跡（中ノ坊・古賀通りB）、祓川右岸の1遺跡（神殿）をさす。これらを個別に見っていくと、山添遺跡では前期・北白川下層IIc式主体の豊富な資料があり、堅穴住居は同期の3棟、中期1棟が確認され、県内の数少ない前期遺跡の調査事例に新たな成果を加えた^①。櫛田川・宮川・雲出川水系など、この時期の代表的な遺跡は川にへばりつくような傾向があるので、おそらく河流を間にした立地環境で居住城を形成していたものと考えられる。

これに対し、瀬干遺跡出土の馬見塚式^②は本遺跡同様、隣近の未知の遺跡からの二次堆積による可能性が高い。中ノ坊遺跡では後期中葉ごろの土器微量と未報告資料の中に楔形石器（サスカイト製）や剥片（チャート製）などがある。古賀通りB遺跡では晩期末・氷1式相当の浮線文土器と馬見塚式土器がわずかに出土^③。神殿遺跡では微量の馬見塚式土器がみられる^④。この3遺跡とも縄文時代の遺構は認められないが、遅くとも後期中葉には櫛田川・祓川の両河川間に進出し、活動の痕跡を残したことがうかがえる。要するに、A地域はB地域の遺跡分布に比べ、縄文時代後晩期頃までは、まだ安定した生活空間にはなりえていなかったようで、このような状況は当地域に限らず、海岸線を控えた伊勢湾西岸・沖積地一般の占地傾向として共通性がある。その卑近な例が、松阪市街東方・近鉄線以北の平地の場合、前述の瀬干遺跡以外に縄文遺物は何ら確認されていないという現状である。

次に、Bの地域に目を向けよう。櫛田川頭首工より下流左岸では流域に面するような遺跡はまだ知られておらず、本遺跡の西方約600m、天王山丘陵西斜面に晩期末・馬見塚式期を中心とした土器棺墓6基・土壤墓14基の中谷遺跡や、早期・大川式・神宮寺式土器片出土の丸野遺跡^⑤しか、判っていない^⑥。これと対照的なのが祓川右岸側で、旧石器時代以降、概ね各時期の遺跡が認められる。まず、旧石器ではナイフ形石器が比較的まとまったコドノA遺跡^⑦があり、断片的出土の遺跡は他にもある。縄文草創期で

は神子柴系石器群を組成とするコドノB遺跡や東谷C遺跡をはじめ、斎宮跡などで単独出土の有舌・木葉形尖頭器の遊離資料もセトルメントの違いを示すものとして見逃すことができない。なお、東谷C遺跡では当地域では珍しく有柄尖頭器1点が混じっている。⁽²⁰⁾ 早期では神宮寺式期の集石炉2基検出のコドノB遺跡⁽²¹⁾ があげられる。もっとも少し上へ行けば、多気町相可付近までの間に、坂倉・鴻ノ木・射原垣内・鐘突・牟山など良好な遺跡が目白押しに並び、前半期押型文化期における一連の遺跡群が形成されている。⁽²²⁾

ところがそれ以降、前期を通じてめぼしい遺跡は分かっていない。対岸の山添遺跡のような下流域・微高地進出の例は県内初見である。中期も前半は稀にしか見られず、末葉頃に資料がやや増加する。斎宮池⁽²³⁾・金剛坂⁽²⁴⁾遺跡などがそれである。後期は初葉頃は乏しく、金剛坂遺跡に前葉頃の資料が比較的まとまっている。晚期は前半が欠落し、末葉の突宍文段階になってコドノA・西出遺跡などに比較的良好な資料が認められるものの、大抵の遺跡では断片的にしか分かっておらず、小遺跡が著しく拡散した様相が特徴的である。⁽²⁵⁾

なお、特殊な遺物として土器・土製品には金剛坂遺跡の環状壺形土器や西出遺跡の人面土版があり、石製品には城山遺跡に北陸特有の鈇をもつ大型石棒、神殿遺跡には独鉢状石製品がある。⁽²⁶⁾ 石製品の厳密な所属時期は不明であるが、前者はおよそ中期、後者は晚期後半頃と推定される。これらは、いずれも戱川右岸側に偏在している。^(奥)

3 弥生時代の遺跡動向

弥生時代になると、低地部での顕著な遺跡展開が見られる。櫛田川西岸部では、琵琶垣内遺跡の北西約2kmに位置する村竹コノ遺跡で前期中葉頃の土器が出土しており、遺跡の形成が開始される。⁽²⁷⁾ 村竹コノ遺跡は後期に最盛期を迎える大規模環濠集落であるが、おそらく前期から後期まで継続的に集落が営まれた場であろう。他にも、中後期を中心とする湧早崎遺跡や、後期の堀町遺跡・草山遺跡・天王山遺跡など、琵琶垣内遺跡周辺では盛んな集落形成が見られる。後期後半頃になると、琵琶垣内遺跡でも人

の活動が観察されるようになっている。

櫛田川東岸部では、琵琶垣内遺跡の南東約3kmにある金剛坂遺跡で前期前葉頃から集落の形成がはじまる。その後、金剛坂遺跡をはじめ、斎宮跡古里地区（古里遺跡⁽²⁸⁾）や馬渡遺跡・佐田西出遺跡など、重要な集落遺跡の形成が認められる。

4 古墳時代の遺跡動向

弥生時代後期の集落形成は、古墳時代前期頃で大きな画期を迎える。村竹コノ遺跡の終焉に象徴されるように、この時期に途絶する集落が多い。この時期は、琵琶垣内遺跡の中心時期のひとつである。また、櫛田川下流域にあたる瀬干遺跡ではこの時期の墳墓群が検出されている。

前期後葉以降は、櫛田川東岸の古轡通りB遺跡に精緻な井戸⁽²⁹⁾が見られるものの、他にはあまり目立つたものが無い。5・6世紀の須恵器を伴う集落も、琵琶垣内遺跡や天王山遺跡以外は明確ではない。

古墳では、琵琶垣内遺跡の西隣に5世紀後半から6世紀前葉頃の天王山古墳群が形成される。天王山1号墳では蛇行剣が副葬されており、やや特殊な被葬者であることを示唆する。また、6世紀後葉頃に、琵琶垣内遺跡の南方約1kmにある山添2号墳には馬具類や捻り環頭太刀と思われる遺物がある。⁽³⁰⁾ 断片的ではあるが、小規模古墳に特殊な遺物が副葬されているという点に、この地域の特徴があるようと思われる。

5 奈良・平安時代の状況

律令制の施行に伴い、当地は伊勢国飯野郡として把握される。平安時代中後期に編纂された『和名類從抄』によると、飯野郡には、乳熊・兄國・黒田・長田・漕代・神戸の6郷が記載されている。ただし、隣接する多気郡に櫛田郷の記載があり、誤記と考えられることから、飯野郡は櫛田郷を含めた都合7郷と考えられる。琵琶垣内遺跡付近は櫛田郷と考えるのが自然である。

飯野郡内における奈良・平安時代のまとまった遺跡には、堀町遺跡と今回報告する琵琶垣内遺跡がある。また、甘チ遺跡では、湿地状の土層中から7~8世紀頃の刀形木製品や完形の土器が出土しており、

何らかの祭祀遺跡と考えられる。この他には、東隣にあたる豊原西町遺跡で奈良時代の土器が出土していることが確認されるのみである。この他に、奈良時代後期から平安時代前期頃の寺院として、柳田地内には大雷寺廃寺があったとされている。平安時代中期頃の神宮寺の存在を示唆する墨書き土器「神宮寺」⁽²⁰⁾が多量に出土した大川上遺跡は、琵琶垣内遺跡の上流約2kmにある。また、多気郡境付近には大安寺に施入された中村野が存在し、王権との関係が指摘されている。⁽²¹⁾

飯野郡の古代を考える上で重要なのが、古代伊勢道、飯野郡条里、そして斎宮跡である。古代伊勢道は、飯野郡条里型地割と同じE15°Sを軸線とする官道で、斎宮跡地内では側溝を有する幅約9mの直線道として確認されている。飯野郡内の古代伊勢道推定位置は足利健亮氏が示しており、近世伊勢参宮街道とはほぼ同じ位置と考えられている。この官道は琵琶垣内遺跡地内も通過しており、当地の集落形成を考えるうえで極めて重要な存在である。⁽²²⁾

斎宮跡は、琵琶垣内遺跡の東方約3kmにある。前述のように、琵琶垣内遺跡の出土土器は斎宮跡出土土器の傾向と極めて類似している。斎宮跡を、飯野郡から相対化して考察することも必要である。

6 中世前期の状況

王朝国家期を含む平安時代後期から鎌倉時代にかけて、飯野郡内でもいくつかの荘園が形成される。残された同時代史料は少ないが、後世に認められた記録類を見ると、この時期に神宮領御厨・御園が数多く形成されたものと考えられる。柳田郷地内の御厨・御園には柳田河原御厨があり、当遺跡近隣に存在していたと推測できる。この時期の遺跡は各地で断片的に見られるが、まとまったものとしては斎宮跡地内に形成された集落遺跡がある。⁽²³⁾（伊藤）

<註>

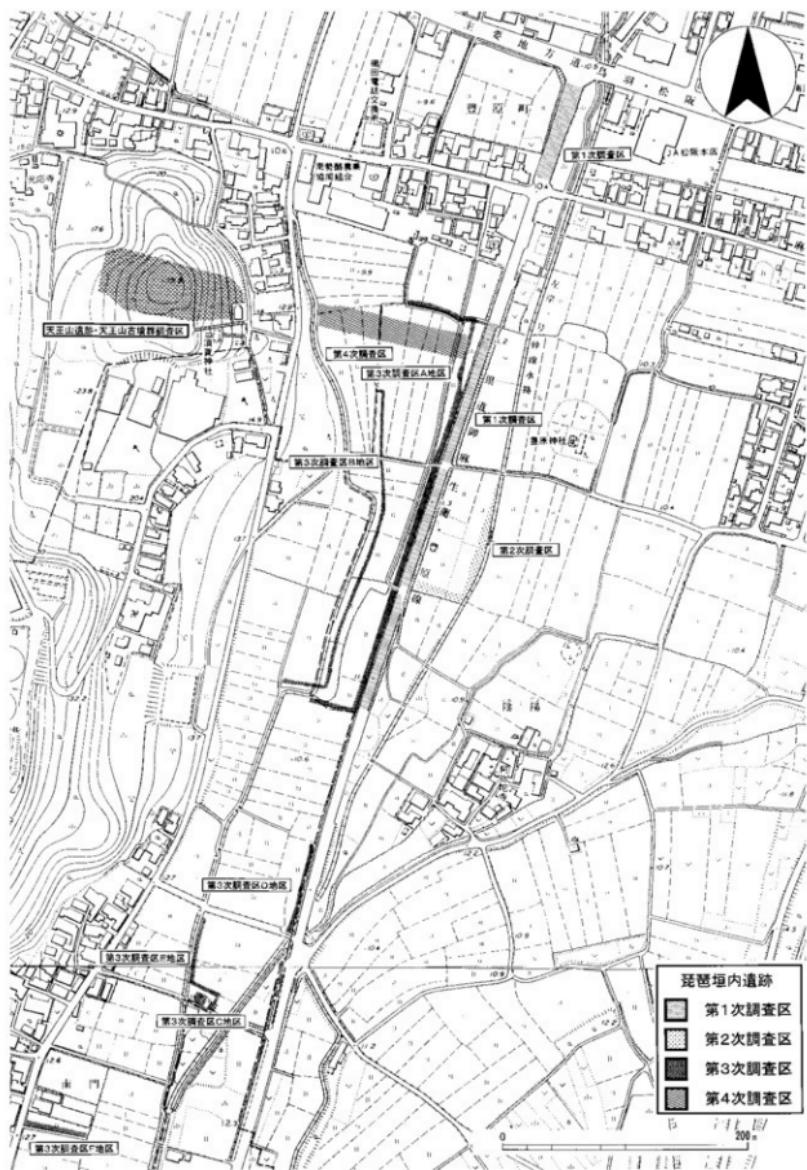
- (1) 三重県埋蔵文化財センター『山添遺跡（第3次）発掘調査報告』（2002年）、小澤寅『山添遺跡の石器』（『純文時代の石器Ⅱ・関西の編文期・中期』（関西純文化研究会 2003年））
- (2) 三重県埋蔵文化財センター『御子遺跡（第2次）発掘調査報告』（2000年）。ただし、中期とされた17の土器については弥生土器の可能性がある。
- (3) 三重県埋蔵文化財センター『中の坊遺跡』（1997年）
- (4) 三重県埋蔵文化財センター『古御通りB遺跡・古御通り古墳

群発掘調査報告』（2000年）

- (5) 昭和60年度三重県教育委員会調査。
- (6) 三重県埋蔵文化財センター『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』（2003年）
- (7) a. 三重県埋蔵文化財センター『コドノA遺跡・コドノB遺跡（第1次）発掘調査報告』（1998年）、b. 森田幸伸『旧石器・純文時代』（『明和町史』史料編 第1巻 自然・考古（明和町 2004年））
- (8) 三重県埋蔵文化財センター『コドノB遺跡（第2次・第3次）発掘調査報告』（2000年）
- (9) 奥義次『河田古墳群C支群（東谷C遺跡）出土の先土器・純文時代遺物』（『河田古墳群発掘調査報告Ⅱ』多気町教育委員会 1986年）
- (10) 奥義次・笠笠明『東への視点と西への視点－三重県東谷C遺跡の男女貴富型頭部から』（『長野県考古学学会誌』59・60号 1990年）
- (11) 訂 (7) aに同じ
- (12) 三重県埋蔵文化財センター『大桑遺跡』（1994年）の考察の中で触れられている。
- (13) 三重県埋蔵文化財センター『宮川用水第2期地区埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ』（2000年）
- (14) 明和町教育委員会『金剛坂遺跡発掘調査報告』（1971年）
- (15) 三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財年報』昭和53年度（1979年）。人面土偶は三重の考古遺物集編委員会『因縁 三重の考古遺物』（1981年）に写真が掲載されている。
- (16) 奥義次『三重県における凸帯文土器出土遺跡の分布相』（『Michistory』vol.1 三重歴史文化研究会 1990年）。その後、遺跡数ははば増し、県下各地で良好な土器階層群が検出された。しかし、当時指摘した基本的な傾向はあまり変わっていない。
- (17) 皇學館大學考古学研究会『明和町の遺跡』（1987年）。三文式は削まれていないようである。完形品での発見かなことは言えないが、御物石器の側面観や作出生法に似た部分も見受けられ、もしさであるならば晚期に属する可能性もある。
- (18) 奥義次『三重県神殿遺跡出土の独眼古石製品について』（『研究紀要』第15-1号、三重県埋蔵文化財センター 2006年）
- (19) 平成17年度三重県埋蔵文化財センター発掘調査成果による。
- (20) 三重県埋蔵文化財センター『駒町遺跡』（2000年）
- (21) 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査報告』（1986年）
- (22) 三重県埋蔵文化財センター『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』（2006年）
- (23) 蓬山主子『斎宮の弥生時代』（『斎宮歴史博物館研究紀要』15 2005年）
- (24) 松阪市教育委員会『山添2号墳発掘調査報告書』（1998年）
- (25) 京都大学文学部国語学国文学研究室編『諸本集成と名従抄』（1966年）
- (26) 三重県埋蔵文化財センター『山ノ花・廿千・北上遺跡』（1995年）
- (27) 三重県埋蔵文化財センター『豊原西町遺跡発掘調査報告』（2006年）
- (28) 三重県埋蔵文化財センター『大川上遺跡発掘調査報告』（1998年）
- (29) 山中章『伊勢国飯野郡中村野大安寺領と東寺大國主』（『三重大史学』第2号 2002年）
- (30) 伊藤裕作『斎宮寮・伊勢道・条里』（『斎宮歴史博物館研究紀要』14 2004年）
- (31) 足利健亮『日本古代地理研究～畿内とその周辺における土地形画の復元と考察～』（大明堂 1985年）
- (32) 『神祇錄』（『書類叢』第一輯）
- (33) 伊藤裕作『中世の斎宮』（『明和町史』斎宮編（明和町 2005年））



第1図 遺跡位置図 (1:50,000)【国土地理院「松阪」「国東山」1:25,000による】



第2図 琵琶堀内遺跡調査区位置図 (1:4,000)

III 第4次調査の成果

1 地形及基本层序

琵琶垣内遺跡は、櫛田川左岸の低位段丘上に立地する。今回の調査区は、琵琶垣内遺跡の北西部に位置し、西側背後には天王山遺跡・天王山古墳群が所在する丘陵が控える。ここでは、弥生時代後期の集落跡や古墳時代中期から後期の古墳、飛鳥から奈良時代前期の集落跡が確認されている。

今回の調査は、天王山遺跡のある丘陵の裾から櫛田川に向けての水田部分のうち、道路建設によって改変されることになった累計3,757m²（平面2,317m²・下層1,440m²）に対して調査を行った。

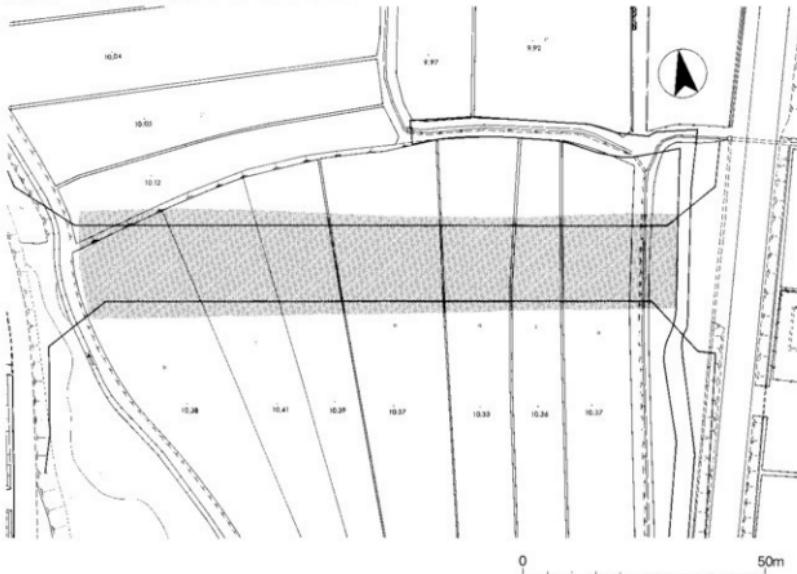
基本層序について、調査区西端部では近現代の盛土が他の地点に比べて30~50cm程度厚く行われており、盛土以前に削平を受けた痕跡が見られる。盛土下では黒褐色シルトの包含層が堆積し、その下で基盤層となる黒色シルト層（いわゆる「黒ボク層」）を確認し、この面で遺構を検出した。D557やS D567

など西側の溝群以東では、近現代の削平が激しく行われておらず、表土下に中世以降と考えられる灰色や暗紅色シルト層が堆積しており、その下で砂の混じる黒褐色シルト層や黒オリーブ層を確認し、この下で黒ボク層を確認している。今回の調査では、砂混じり黒褐色層の上面で確認された遺構を上層遺構、黒ボク層上面で確認した遺構を下層遺構とし、溝の底面において確認した遺構についても、下層遺構としている。

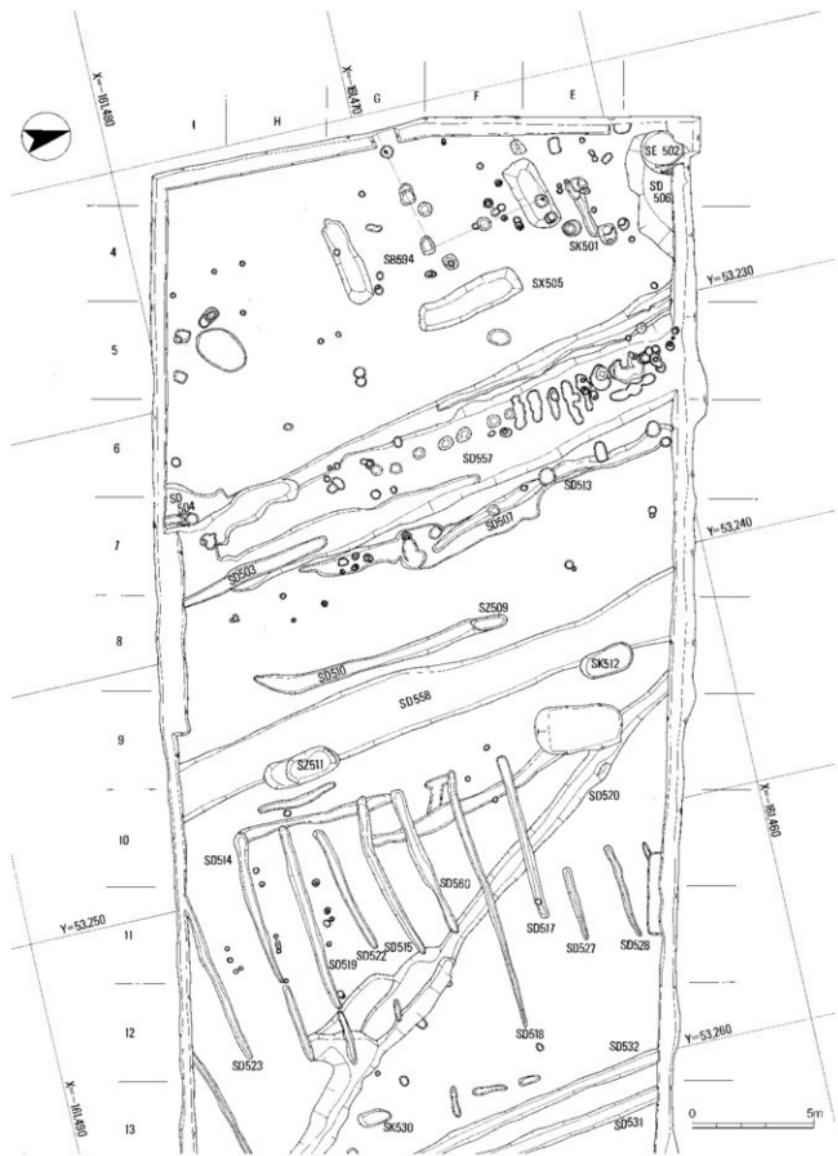
2 遺構

今回の調査では、弥生時代から中世前期の遺構を確認している。遺構の大半は溝であり、これらは概ね南側から北側に向かって流れている。ここでは遺構を4期にわけて、主要な遺構について述べる。その他の遺構については、遺構一覧表（第1・2表）を参照されたい。

a 弥生時代～古墳時代前期



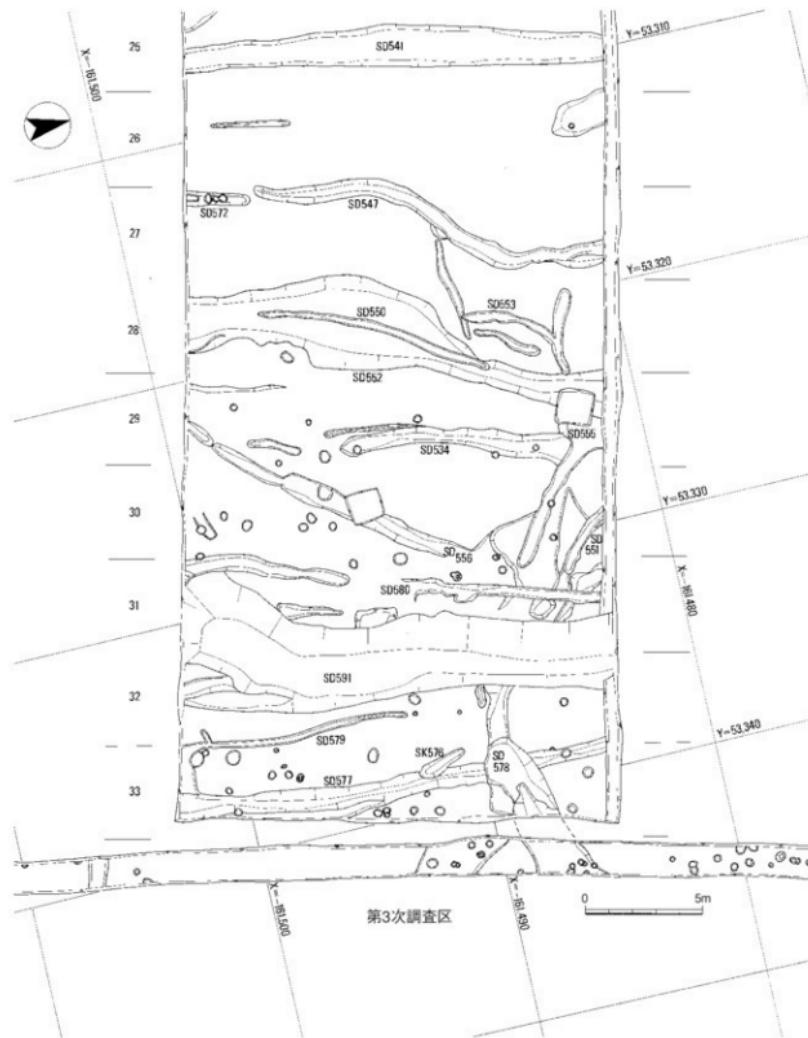
第3図 第4次調査区位置図（1:4,000）



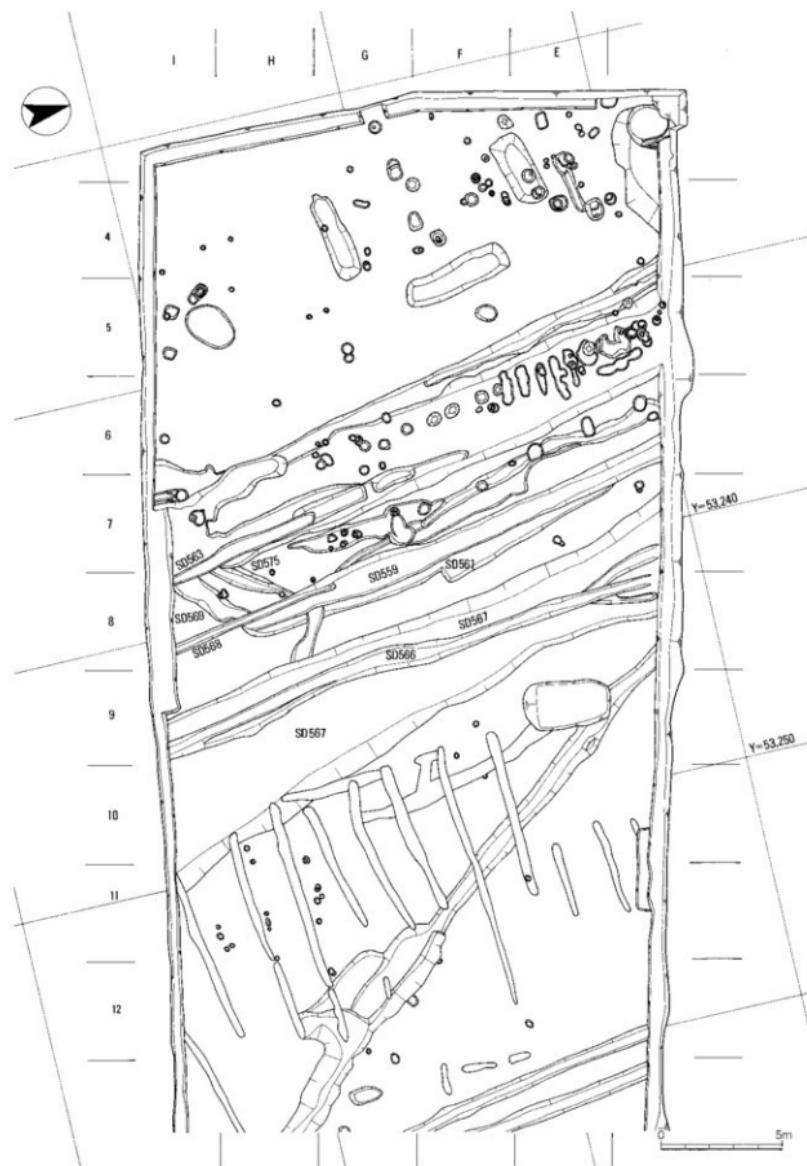
第4図 第4次調査区遺構平面図(1)(1:200)



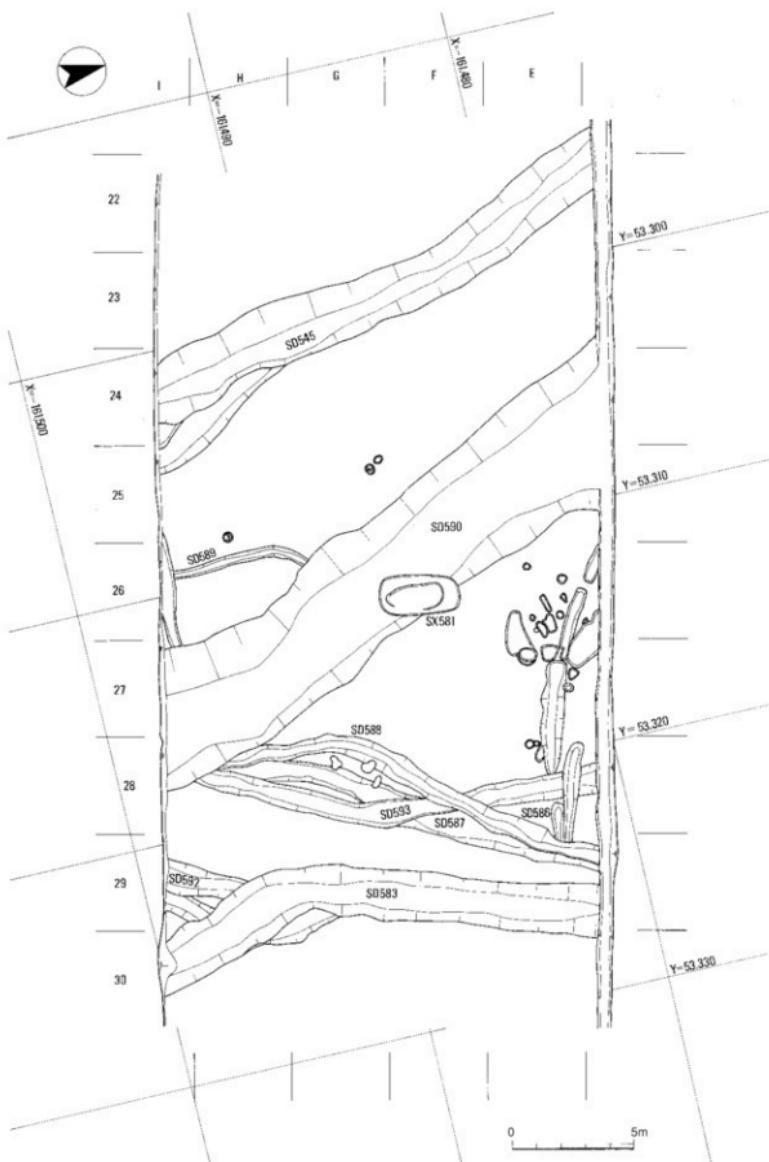
第5図 第4次調査区遺構平面図(2) (1:200)



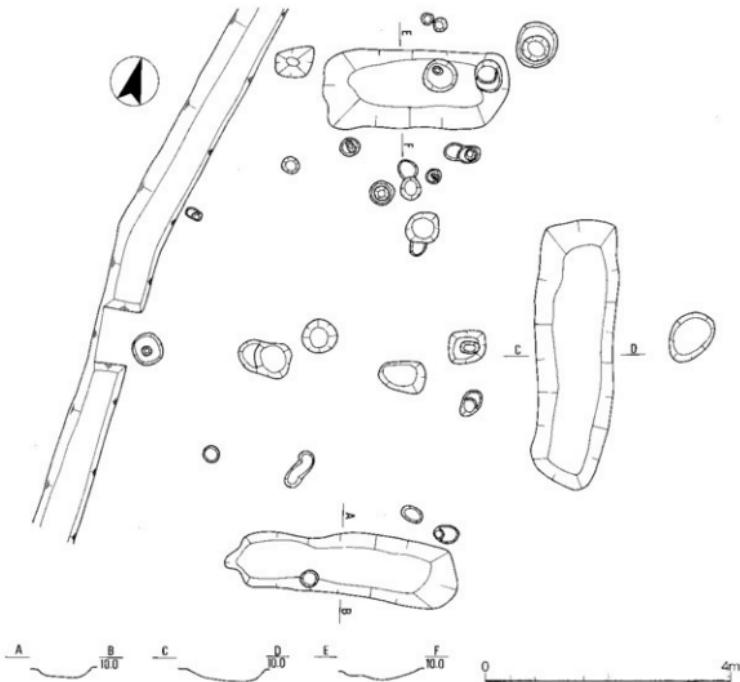
第6図 第4次調査区遺構平面図（3）(1:200)



第7図 第4次調査区（西部）下層遺構平面図（1：200）



第8図 第4次調査区（東部）下層遺構平面図（1：200）



第9図 第4次調査区周溝墓 S X 505平面図・断面図 (1 : 80)

周溝墓・土坑・溝が確認されている。出土遺物からみても、この時期の遺物は少ない。

周溝墓 S X 505 調査区西端に位置し、長さ3~4.5m・幅1~1.3mの3つの溝で構成される。深さはいずれも0.2m。形状から方形周溝墓と考えられる。西側の溝は調査区外に存在するか、当初より無かった可能性も考えられる。溝間の距離は、南北で内側6.7m、外側9m。弥生土器の小片が出土しているが、詳しい時期は決定できない。

土坑 S K 506 調査区北西隅に位置する土坑で、深さ6m。北半部は調査区外に展開する。S X 505と同じく黒色の埋土で、弥生土器片が出土している。

溝 S D 520 調査区中央部を南北に流れる溝で、幅1.2m・深さ0.3m。埋土から高杯(18)が出土していることや、他の溝と方向を異にしていることから弥生時代後期の溝と考えられるが、僅かに志摩式製

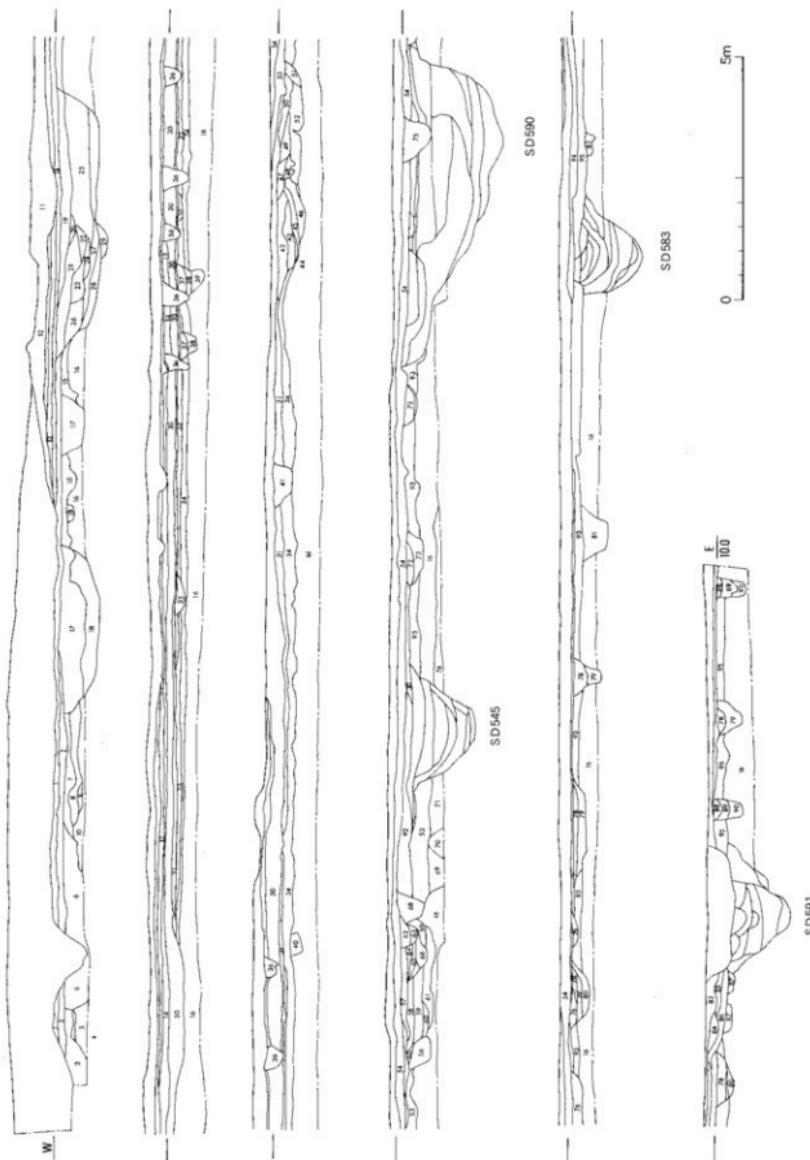
塙土器片が上層で確認されており、奈良時代に下る可能性も考えられる。

溝 S D 567 下層で確認した溝で、SD 558・SD 566に切られる。幅は2~7mと安定しない。深さ1m。土師器高杯(1~3)や壺(4~5)が出土しており、古墳時代前期初頭に埋没したものと考えられる。

溝 S D 590下層 調査区東半を南北に流れる大きな溝で、幅4.4m・深さは1.8m。断面は、東側の傾斜が陥しく西側が緩いことから、水流は東寄りに流れていたものと考えられる。上層は後世に掘り直されている。下層の出土遺物は極めて少ないが、土師器壺(6)が出土しており、古墳時代前期に埋没したものと考えられる。

b 奈良時代

掘立柱建物や土坑、溝が確認されている。溝は調



第10図 第4次調査区北壁土層図 (1 : 100)

| | | | |
|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 10E/18/1黒色シルト質土器底色合質ノット | 28 10E/18/1黒色シルト質合む | 56 2. 5B/2 黄色合質ノット | 82 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 2. 3. 518/2 黄色シルト質土器底色合質ノット | 57 10E/2/18/1黒色合質ノット | 57 10E/2/18/1黒色合質ノット | 83 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 3. 2. 517/2 黄色シルト質土器底色合質ノット | 58 10E/2/18/1黒色合質ノット | 58 10E/2/18/1黒色合質ノット | 84 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 4. 10E/2/18/1黒色シルト質土器底色合質ノット | 59 10E/2/18/1黒色合質ノット | 59 10E/2/18/1黒色合質ノット | 85 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 5. 10E/2/18/1黒色シルト質土器底色合質ノット | 60 10E/2/18/1黒色合質ノット | 60 10E/2/18/1黒色合質ノット | 86 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 6. 10E/2/18/1黒色シルト質土器底色合質ノット | 61 10E/2/18/1黒色合質ノット | 61 10E/2/18/1黒色合質ノット | 87 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 7. 5M1. 7/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 62 10E/2/18/1黒色合質ノット | 62 10E/2/18/1黒色合質ノット | 88 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 8. 10E/2/18/1黒色合質ノット | 63 10E/2/18/1黒色合質ノット | 63 10E/2/18/1黒色合質ノット | 89 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 9. 10E/2/18/1黒色合質ノット | 64 10E/2/18/1黒色合質ノット | 64 10E/2/18/1黒色合質ノット | 90 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 10. 10E/2/18/1黒色合質ノット | 65 10E/2/18/1黒色合質ノット | 65 10E/2/18/1黒色合質ノット | 91 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 11. 表土 | 66 10E/2/18/1黒色合質ノット | 66 10E/2/18/1黒色合質ノット | 92 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 12. 7/18/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 67 10E/2/18/1黒色合質ノット | 67 10E/2/18/1黒色合質ノット | 93 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 13. 5M2/2 黑色シルト質土器底色合質ノット | 68 10E/2/18/1黒色合質ノット | 68 10E/2/18/1黒色合質ノット | 94 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 14. 5M2/2 黑色シルト質土器底色合質ノット | 69 10E/2/18/1黒色合質ノット | 69 10E/2/18/1黒色合質ノット | 95 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 15. 5M1. 7/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 70 10E/2/18/1黒色合質ノット | 70 10E/2/18/1黒色合質ノット | 96 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 16. 10H/2/18/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 71 10E/2/18/1黒色合質ノット | 71 10E/2/18/1黒色合質ノット | 97 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 17. 7/18/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 72 10E/2/18/1黒色合質ノット | 72 10E/2/18/1黒色合質ノット | 98 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 18. 10H/2/18/1 黑色合質ノット | 73 10E/2/18/1黒色合質ノット | 73 10E/2/18/1黒色合質ノット | 99 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 19. 10H/2/18/1 黑色合質ノット | 74 10E/2/18/1黒色合質ノット | 74 10E/2/18/1黒色合質ノット | 100 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 20. 10H/2/18/1 黑色合質ノット | 75 10E/2/18/1黒色合質ノット | 75 10E/2/18/1黒色合質ノット | 101 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 21. 10H/2/18/1 黑色合質ノット | 76 10E/2/18/1黒色合質ノット | 76 10E/2/18/1黒色合質ノット | 102 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 22. 2. 515/2 黑色シルト質土器底色合質ノット | 77 10E/2/18/1黒色合質ノット | 77 10E/2/18/1黒色合質ノット | 103 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 23. 2. 515/2 黑色シルト質土器底色合質ノット | 78 10E/2/18/1黒色合質ノット | 78 10E/2/18/1黒色合質ノット | 104 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 24. 7/18/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 79 10E/2/18/1黒色合質ノット | 79 10E/2/18/1黒色合質ノット | 105 10E/2/18/1黒色合質ノット |
| 25. 5M1. 7/1 黑色シルト質土器底色合質ノット | 80 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 80 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 106 10E/2/18/1 黑色合質ノット |
| 26. 10H/2/18/1 黑色合質ノット | 81 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 81 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 107 10E/2/18/1 黑色合質ノット |
| 27. 2. 513/2 黑色シルト質土器底色合質ノット | 82 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 82 10E/2/18/1 黑色合質ノット | 108 10E/2/18/1 黑色合質ノット |

査区全体にわたって多数錯綜しており、奈良時代中期の遺構が主体を占めている。

掘立柱建物 S B594 桁行2間(4.4m)以上・梁行2間(5m)の掘立柱建物で、方位はE-12°-Nである。西半は調査区外に展開する。柱間は、桁行2.2m・梁行2.5m。堀方は隅丸方形を呈し、埋土から奈良時代と考えられる土師器片が出土している。

土坑 S K512 長径3.2m・短径1.2mの不定形の土坑で、深さは0.2m。土師器甕(136)が出土している。

溝 S D 557 調査区西端を南北に流れる溝で、幅4.2m・深さ0.4m。方位は概ねN-13°-Wである。幅が広い割に、深さは浅く一定している。底面からは、長さ1.3~1.9m・幅0.3~0.8mの細長い土坑と直径0.5~0.6m程のピットが列んで確認されている。細長い土坑は深さが0.05mと浅く、波板状土坑の可能性が考えられる。この遺構は、幅の割に深さが浅く、埋土の状況からも水が流れていった可能性は低いことから、溝と言うよりは道路遺構の可能性も考えられる。出土遺物は、土師器甕(38~50)・皿(54)・高杯(56)・鉢(57)・甕(58~62)・鍋(63~65)・把手(66~67)・須恵器杯(51~52)・高杯(53)などが出土している。奈良時代中期から後期の遺構と考えられる。

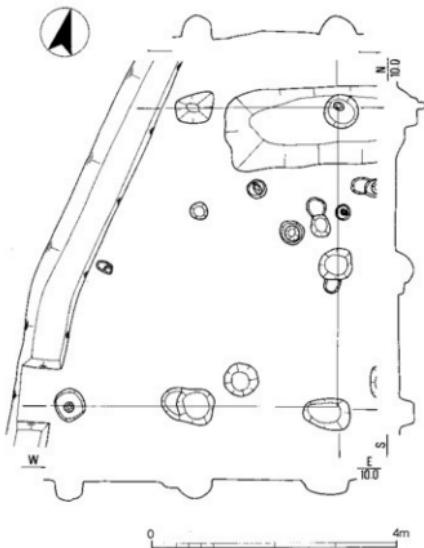
溝 S D 559 下層面で確認した溝で、幅0.8m・深さ0.2m。南北方向で流れるが、調査区南端で西方に曲がり、S D 557に切られる。土師器甕(21~24)・高杯(33)・甕(25~30)・壺(31~32)・須恵器杯(34~35)・高杯(36)・土鍤(37)が出土している。

溝 S D 569 下層で確認された溝で、S D 559を切る。幅0.9m・深さ0.1mの浅い溝で、調査区南端で西方に曲がる。S D 559を切り、調査区中程で終息するS D 565とつながることも考えられる。埋土は砂で、土師器甕(158)・高杯(159)が出土している。

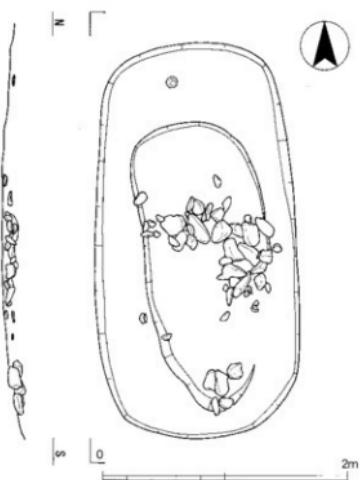
溝 S D 561 S D 559に切られる溝で、大半部分が重複している。土師器甕(137)が出土している。

溝 S D 586 下層で確認された溝で、S D 551に重複し、S D 580に切られる。土師器甕(141)・甕(142)が出土しており、奈良時代中期の遺構と思われる。

溝 S D 532 幅0.5m・深さ0.3mの溝で、S D 531に並行して走るが、調査区南端で、この溝に切られ



第11図 第4次調査区掘立柱建物
S 594 平面図・断面図 (1 : 80)



第12図 第4次調査区墓 S X 581
平面図・断面図 (1 : 40)

る。土師器や須恵器が出土している。

溝 S D 531 調査区中央部を南北に流れる溝で、幅0.8m・深さ0.5m。土師器壺(139)や須恵器壺が出土している。

溝 S D 540 幅0.9m・深さ0.2mの浅い溝で、S D 545を切り、S D 537に切られる。土師器壺(133～135)が出土している。

溝 S D 545 幅2.1m・深さ0.7mの溝で、断面は台形を呈する。遺物は僅かに土師器壺片とミニチュアと考えられる土台(19)が出土しているのみである。

溝 S D 551 幅0.5m・深さ0.1mの浅い溝で、ミニチュア土器の鉢(20)が出土したのみである。

溝 S D 577 調査区東端部を南北に流れる溝で、S D 577・S K 576に切られる。幅1.0m・深さ0.4m。土師器皿(8・9)・椀(10)・蓋(11・15)、須恵器杯蓋(14)の他に、ミニチュア土器(13・14)や勾玉形土製品(15)、鏡形土製品(16)も出土しており、祭祀が行われた可能性が考えられる。

溝 S D 563 S D 557を切る溝で、S D 503に切られる。幅1.5m・深さ0.1の浅い溝で、調査区中程で終息する。埋土は砂で、土師器片を多量に含んでいた。土師器杯(118・119)・須恵器高杯(120)が出土している。

c 平安時代

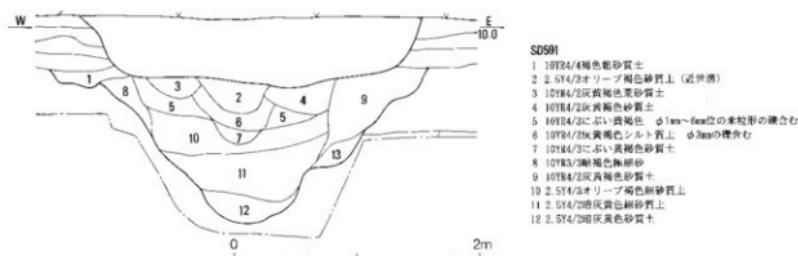
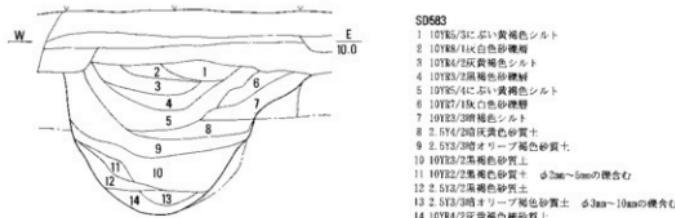
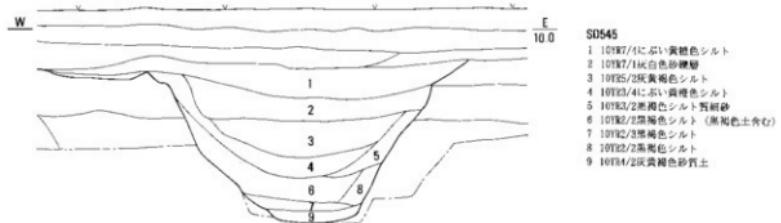
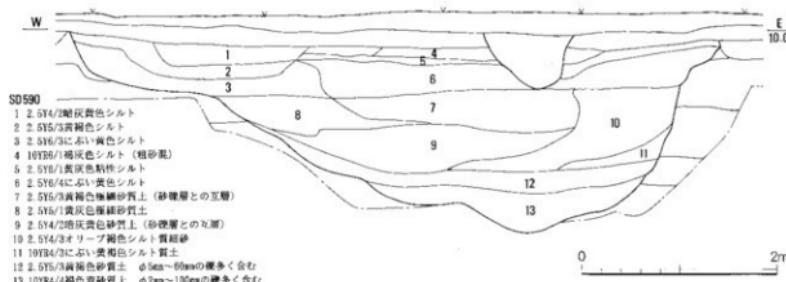
この時期は遺構・遺物ともに少ないが、井戸1基・溝3条を確認している。

井戸 S E 502 調査区西北端で確認された素堀の井戸で、調査区外に展開する。堀方は直径1.9mの梢円形を呈し、深さ1.9m。周囲の地盤は砂質で崩落が激しく、十分に断面を観察することができなかった。遺物は土師器皿(89)、土師質土器皿(90・91)、山茶椀(92・93)が出土している。

溝 S D 538 幅0.7m・深さ0.6mの溝で、断面は逆台形を呈し、S D 537と並行する。黒色土器杯(129)や土師器杯(130)・壺(131・132)が出土している。

溝 S D 558 調査区西半部を南北に流れる溝で、幅2.5m・深さ0.7m。S D 556・567やS D 511に切られる。土師器杯(67・68)・皿(69)・壺(75)、土師質土器椀(70・73)・皿(74)、山茶椀(71・72)が出土している。

溝 S D 541 調査区東半部を南西から北東に流れ



第13図 第4次調査区溝 S D590・S D545・S D583・S D591土層図 (1 : 40)

る溝で、S D 538と並行する。幅1.3m・深さ0.3m。土師器杯(98~107)・皿(110)・鍋(111)、灰釉陶器碗(108)、山茶碗(109)が出土している。出土遺物は概ね平安後期のものである。

溝 S D 590上層 S D 559に切られる溝で、幅3.7m・深さ0.4m。古墳時代前期の溝を掘り直して使用し、上部がさらに近世以降の溝に削平されている。土師器杯(7)や壺、須恵器壺などが出土している。

d 鎌倉時代

遺構は墓1基の他に溝7条を確認しているが、遺物の出土はやや少なくなる。

墓 S X 581 調査区東半部で確認された土壙墓で、長径3.3m・短径1.6mの隅丸長方形を呈する。中央部は長径1.9m・短径1.1mの範囲で僅かに深くなり、深さは0.2m。埋土には焼土や炭を若干含むが、被熱は見られない。底面には集石が部分的に残っており、南北方向を向いていることから、墓と考えられる。土師器小皿(83・84)・山茶碗(85~88)が出土している。

溝 S D 537 幅0.7m・深さ0.1mの浅い溝で、土師器杯(94)・土師質土器皿(95)・山茶碗(96・97)が出土している。鎌倉時代中期の遺構と考えられる。

溝 S D 534 調査区中央部を南北に流れる溝で、幅1.1~2.4m・深さ0.3m。S D 570に切られる。土師器把手(78)・土師質土器碗(79・82)・山茶碗(80・81)が出土している。

溝 S D 550 調査区東半部を南西から北東に流れる溝で、調査区内で終結する。幅0.4m・深さ0.1m。山茶碗(76・77)が出土している。

溝 S D 552 調査区東半部を南西から北東に蛇行しながら流れる溝で、幅3.9m。土師器杯・高杯・壺・瓶・須恵器杯蓋・杯・高杯・壺、綠釉陶器碗、山茶碗、志摩式製塙土器など多彩な土器が出土しているが、いずれの土器も小片であった。底部でS D 588・589・593を確認していることから、これらの溝の上層重複部分の可能性も考えられる。

溝 S D 566 S D 558の底面で確認された遺構で、S D 566を切る。幅0.9m・深さ0.3。土師器碗(112)・皿(114)・壺(116)・把手(117)・土師質土器碗(113)・山茶碗(115)が出土している。

溝 S D 587 S D 552の底部で確認された遺構で、S

D 588・593に切られる。幅0.8m・深さ0.2m。土師器杯(146・147)・山茶碗(148・149)が出土している。

溝 S D 588 S D 552の底部で確認された遺構で、S D 593を切る。幅0.8m・深さ0.5m。山茶碗(143・144)が出土している。

溝 S D 587 調査区東半部の南端下層面で確認された遺構で、東西方向に伸びる。幅0.4m・深さ0.1m。山茶碗(150)が出土している。

e 時期不明の遺構

土坑 S K 521 長辺1.3m・短辺0.6mの長方形を呈する土坑で、深さは0.3m。遺物は土師器の小片を含むのみで、時期は不明である。土坑の縁辺部には焼土や炭化物を多数含み、拳大の礫も1点出土していることから、火葬墓の可能性も考えられる。

溝 S D 514~519・522~525・527・528 調査区中央部で確認された溝群で、東西方向に並行して伸びる。幅0.4m・深さ0.1~0.3mで、方位はE~2°~17°~Nであった。1.3~1.6m間隔で並行して列んでおり、耕作溝であると考えられる。上層は削平を受けているため、畠部分は残っていない。これらの溝からは、土師器や須恵器の小片が僅かに出土しているのみで、詳しい時期は決定できない。奈良時代以降の遺構である。

溝 S D 554 調査区西端で確認した溝で、幅1.2m・深さ0.5m。底面は丸い。溝は調査区南端で、東南方向に折れ曲がる。遺物は土師器片が出土しているのみである。

溝 S D 591 調査区西端で確認した大溝で、幅3m・深さ1.5m。断面はV字状を呈する。調査区南端で東西方向に折れ曲がる。遺物は全く出土していない。その他の遺構 確認された溝の大半は、土師器や須恵器などの小片しか出土しておらず、詳しい時期決定はできない。他の遺構から考えて、奈良時代から鎌倉時代の遺構と考えられる。

| 遺構 | 性格 | 大地区 | 小地区 | 遺構面 | 計測値(m) | | | 時期 | 備考 |
|-------|-------|-----|---------|-----|------------|-----------|-----|-----|--------------------|
| | | | | | 長さ (長径) | 幅 (短径) | 深さ | | |
| SD501 | 溝 | G | F3～F4 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD502 | 井戸 | G | D3 | 上層 | 1.7 | 1.6 | 1.9 | 3期 | |
| SD503 | 溝 | G | G7～17 | 上層 | - | 0.6 | 0.1 | 2期～ | |
| SD504 | 溝 | G | 17 | 上層 | - | 0.5 | 0.2 | 2期～ | |
| SX505 | 方形四溝基 | G | F4～G5 | 上層 | - | 1.3 | 0.2 | 1期 | |
| SK506 | 土坑 | G | D3～D4 | 上層 | - | 1.2 | 0.3 | 1期 | |
| SD507 | 溝 | G | D6～H7 | 上層 | - | 0.8 | 0.1 | 2期～ | |
| SZ508 | 不明造形 | G | F7～G7 | 上層 | - | - | - | 2期～ | |
| SD509 | 溝 | G | F8 | 上層 | - | 0.7 | 0.1 | 2期～ | |
| SD510 | 溝 | G | H8～H8 | 上層 | - | 0.5 | 0.1 | 2期～ | |
| SK511 | 土坑 | G | G9～H9 | 上層 | 2.1 | 1.0 | 0.1 | 2期～ | |
| SK512 | 土坑 | G | D8～E8 | 上層 | 3.2 | 1.2 | 0.2 | 2期 | |
| SD513 | 溝 | G | F6～F7 | 上層 | - | 0.6 | 0.3 | 2期～ | |
| SD514 | 耕作溝 | G | H10～H11 | 上層 | - | 0.5 | 0.3 | 2期～ | |
| SD515 | 耕作溝 | G | G10～G11 | 上層 | - | 0.4 | 0.2 | 2期～ | |
| SD516 | 耕作溝 | G | F9～F11 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD517 | 耕作溝 | G | F9～E11 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD518 | 耕作溝 | G | F9～E12 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD519 | 耕作溝 | G | H10～G12 | 上層 | - | 0.3 | 0.2 | 2期～ | |
| SD520 | 溝 | G | D8～H5 | 上層 | - | 1.2 | 0.3 | 1期 | 志摩式製塙工具上 |
| SK521 | 土坑 | G | F14 | 上層 | 1.3 | 0.6 | 0.2 | 2期～ | 焼土を多く含む。土坑壁? |
| SD522 | 耕作溝 | G | G11～H10 | 上層 | - | 0.4 | 0.2 | 2期～ | |
| SD523 | 耕作溝 | G | H11～H12 | 上層 | - | 0.4 | 0.3 | 2期～ | |
| SD524 | 耕作溝 | G | H10～G9 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD525 | 耕作溝 | G | H12 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD526 | 溝 | G | E9～G10 | 上層 | - | 0.8 | 0.1 | 2期～ | |
| SD527 | 耕作溝 | G | E10～E11 | 上層 | - | 0.3 | 0.1 | 2期～ | |
| SD528 | 耕作溝 | G | D11～E10 | 上層 | - | 1.1 | 0.2 | 2期～ | |
| SD529 | 溝 | G | G12～H12 | 上層 | - | 1.1 | 0.2 | 2期～ | |
| SK530 | 土坑 | G | G13 | 上層 | 1.3 | 0.6 | 0.3 | 2期～ | |
| SD531 | 溝 | G | D13～H15 | 上層 | - | 0.8 | 0.4 | 2期 | 1次SD2に接続か。 |
| SD532 | 溝 | G | D12～H14 | 上層 | - | 0.5 | 0.3 | 2期 | 1次SD2に接続? |
| SK533 | 土坑 | G | H5 | 上層 | 0.6 | 0.6 | 0.1 | 2期～ | 施土含む |
| SD534 | 溝 | G | D20～E21 | 上層 | - | 2.1 | 0.3 | 4期 | SD570より古 |
| SD535 | 溝 | G | D21～G22 | 上層 | - | 0.5 | 0.2 | 2期～ | |
| SD536 | 溝 | G | F21～G22 | 上層 | - | 0.6 | 0.1 | 2期～ | |
| SD537 | 溝 | G | D23～G23 | 上層 | - | 0.7 | 0.1 | 4期 | SD540より新 |
| SD538 | 溝 | G | D24～F24 | 上層 | - | 0.7 | 0.6 | 3期 | SD545より新 |
| SZ539 | - | - | - | - | - | - | - | - | 抹消 |
| SD540 | 溝 | G | E22～G24 | 上層 | - | 0.9 | 0.2 | 2期 | SD545より新、SD537より古 |
| SD541 | 溝 | G | D25～G25 | 上層 | - | 1.3 | 0.3 | 3期 | |
| SZ542 | 落ち込み | G | D26～F26 | 上層 | - | 1.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD543 | 溝 | G | G22～F22 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |
| SD544 | 溝 | G | E19～F19 | 上層 | - | 0.5 | 0.1 | 2期～ | SD583と重複 |
| SD545 | 溝 | G | D22～F23 | 上層 | - | 2.1 | 0.7 | 2期? | ミニチュア土器出土、SD540より古 |
| SD546 | 溝 | G | D21～G24 | 上層 | - | 0.3 | 0.1 | 2期～ | SD545より新 |
| SD547 | 溝 | G | D27～G27 | 上層 | - | 0.8 | 0.4 | 2期～ | |
| SZ548 | - | - | - | - | - | - | - | - | 抹消 |
| SD549 | 溝 | G | E28～F28 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 2期～ | |

第1表 第4次調査区遺構一覧(1)

| 遺構 | 性格 | 大地区 | 小地区 | 遺構面 | 計測値(m) | | | 時期 | 備考 |
|-------|------|-----|---------|-----|------------|-----------|-----|----------------|--|
| | | | | | 長さ (長径) | 幅 (瓶径) | 深さ | | |
| SD550 | 溝 | G | F28～G28 | 上層 | - | 0.4 | 0.1 | 4期 | |
| SD551 | 溝 | G | D30～E31 | 上層 | - | 0.5 | 0.1 | 2期 | ミニチュア土器出土 |
| SD552 | 溝 | G | D28～G30 | 上層 | - | 3.9 | - | 4期 | 志摩式彌座土器出土 SD587・588・593より新、印:SK552 |
| SD553 | 溝 | G | F28～F28 | 上層 | - | 0.5 | 0.1 | 2期～ | |
| SD554 | 溝 | G | E29～G29 | 上層 | - | 1.0 | 0.3 | 2期～ | |
| SR555 | 溝 | G | D29～E31 | 上層 | - | 1.3 | 0.1 | 2期～ | |
| SD556 | 溝 | G | F30～G30 | 上層 | - | 0.9 | 0.1 | 2期～ | |
| SD557 | 溝 | G | D4～F7 | 上層 | - | 4.2 | 0.1 | 2期 | 車輪状遺構? |
| SD558 | 溝 | G | D7～G9 | 上層 | - | 2.5 | 0.7 | 3期 | SD556と重複、印:SR558 |
| SD559 | 溝 | G | D6～G8 | 下層 | - | 0.8 | 0.2 | 2期 | SD556と重複、SD557より古 |
| SD560 | 溝 | G | G10～F11 | 上層 | - | 0.4 | 0.2 | 2期～ | |
| SD561 | 溝 | G | E7～G8 | 下層 | - | 0.9 | 0.2 | 2期 | SD559より古 |
| SD562 | 溝 | G | H8 | 下層 | - | 0.5 | 0.1 | 2期～ | |
| SD563 | 溝 | G | F6～I7 | 上層 | - | 1.5 | 0.1 | 2期 | |
| SD564 | 溝 | G | F7 | 下層 | - | 0.5 | 0.3 | 2期～ | |
| SD565 | 溝 | G | F7 | 下層 | - | 0.3 | 0.3 | 2期～ | |
| SD566 | 溝 | G | D8～I9 | 下層 | - | 0.9 | 0.3 | 4期 | |
| SD567 | 溝 | G | F8～I9 | 下層 | - | 2.0 | 1.0 | 1期 | 印:SR567 |
| SD568 | 溝 | G | G8～I8 | 下層 | - | 0.4 | 0.2 | 2期～ | |
| SD569 | 溝 | G | G8～I8 | 下層 | - | 0.9 | 0.1 | 2期 | |
| SD570 | 溝 | G | E23～H23 | 上層 | - | 0.6 | 0.2 | 2期～ | |
| SD571 | 溝 | G | H23～I24 | 上層 | - | 0.9 | 0.4 | 2期～ | SD534より新 |
| SD572 | 溝 | G | H27～I27 | 上層 | - | 0.6 | 0.2 | 2期～ | |
| SD573 | 溝 | G | E29～I29 | 上層 | - | 2.5 | 1.0 | 2期～ | |
| SD574 | - | - | - | - | - | - | - | - | 採泥 |
| SD575 | 溝 | G | I18 | 下層 | - | 0.5 | 0.2 | 2期～ | |
| SK576 | 土坑 | G | F33 | 上層 | - | 0.6 | 0.1 | 2期～ | |
| SD577 | 溝 | G | F33～E33 | 上層 | - | 1.0 | 0.4 | 2期 | 鏡形土製品・勾玉形土製品・ミニチュア土器出土 SD578・SK576より古 |
| SD578 | 溝 | G | E32～F33 | 上層 | - | 2.2 | 0.3 | 2期～ | 1次SD21・23・28に接続する |
| SD579 | 溝 | G | F32～I33 | 上層 | - | 0.3 | 0.1 | 2期～ | |
| SD580 | 溝 | G | D31～G31 | 上層 | - | 0.5 | 0.2 | 2期 | |
| SX581 | 墓 | G | F26 | 下層 | 3.3 | 1.6 | 0.2 | 4期 | SD590より新 |
| SD582 | 溝 | G | D31～E31 | 上層 | - | 0.6 | 0.1 | 2期～ | |
| SD583 | 溝 | G | G29～I30 | 下層 | - | 1.2 | 0.5 | 2期～ | |
| SD584 | 溝 | G | D26～E27 | 下層 | - | 1.2 | 0.1 | 2期～ | |
| SD585 | 溝 | G | G31～I31 | 上層 | - | 0.7 | 0.2 | 2期～ | |
| SD586 | 溝 | G | E30～E31 | 上層 | - | 0.6 | 0.1 | 2期 | |
| SD587 | 溝 | G | D28～G28 | 下層 | - | 0.8 | 0.2 | 4期 | |
| SD588 | 溝 | G | D28～G28 | 下層 | - | 0.8 | 0.5 | 4期 | |
| SD589 | 溝 | G | I26 | 下層 | - | 0.4 | 0.1 | 4期 | |
| SD590 | 人溝 | G | H27～I25 | 下層 | - | 4.4 | 1.8 | 上層:3期 下層:1期 | SX581より新 |
| SD591 | 人溝 | G | E31～I31 | 上層 | - | 3.0 | 1.5 | 2期～ | |
| SD592 | 人溝 | G | H29～I29 | 下層 | - | 1.1 | 1.0 | 2期～ | |
| SD593 | 溝 | G | D28～G28 | 下層 | - | 1.0 | 0.4 | 4期 | |
| SB594 | 樹立建物 | G | E3～G4 | 上層 | 5.0 | 4.4 | - | 2期 | |

第2表 第4次調査区遺構一覧(2)

3 遺物

S D 567 出土遺物(1~5) 1~3は高杯。1は流路下層から出土したもので、上村安生氏の伊勢湾西岸の弥生土器編年⁽¹⁾V~3様式に属する。2~3はIV~2~3様式に属する。4・5は台付壺の底部。

S D 590 出土遺物(6・7) 6は土師器ヒサゴ壺。丁寧なミガキ調整が施される。7は上層で出土した土師器碗で、底部に糸切り痕が見られる。

S D 577 出土遺物(8~17) 8~9は土師器皿。9の内面底部には煤が付着する。10は土師器碗で古墳時代後期のもの。11は土師器蓋で、外面にはミガキ調整が施され、内面には暗文が見られる。都城の土器編年⁽²⁾の平城II~III期に属する。15は土師器杯蓋のつまみ部分。12は土師器壺、外面には煤が付着する。13・14はミニチュア土器。手捏ねで鉢の様な形を呈する。16は勾玉形土製品で調整はやや粗い。直径2mm程度の孔を穿つ。17は鏡形土製品で勾玉形土製品と同様に調整はやや粗い。鏡の部分は欠損しており、痕跡のみが残っている。鏡面は、外側に向けて弧を描いている。

S D 520 出土遺物(18) 高杯の杯部。外面には横方向の、内面には縱方向のミガキ調整が施される。

S D 545 出土遺物(19) 台状の土製品で、ミニチュア土器と考えられる。外面には斜め方向の指オサエ・ナデ痕が残る。

S D 551 出土遺物(20) 手捏ねのミニチュア土器。外面には指オサエ痕が残り、口縁部や底部に黒斑が見られる。

S D 559 出土遺物(21~37) 21~23は土師器杯。21は外面に粘土紐痕が残り、内面には工具痕が見られる。24は口縁部が外に開き、外面体部下半から底面にかけて指オサエ痕が明瞭に残る。25~30は土師器壺。25~27は口径13~17cmとやや小ぶりのであるが、28~30は口径23cm以上と大きい。31は土師器壺で、口縁端部に面を持つ。32も土師器壺であるが、細頸で、口縁端部に刺突文が見られる。33は土師器高杯脚部で、やや歪みが見られる。34・35は須恵器杯。36は須恵器高杯で歪みが見られる。37は土鍤。

S D 557 出土遺物(38~67) 38~50は土師器杯。いずれも粗製で、外面に粘土紐の痕跡が残るものも

多い。口縁部が内側するものと、端部を外反させるものが見られる。42は内面底部に、47は内面体部に「×」状のヘラ記号が見られる。54は土師器皿。内面底部に暗文が施される。都城の土器編年の平城II期に属するものと考えられる。56は土師器高杯で、杯部下半に指オサエ痕が残る。57は土師器鉢。内外面ともケズリ後ミガキ調整が行われる。58~62は土師器壺。61・62は体部が球形を呈する。63~65は土師器鍋。65は外面にハケ調整がなされた後に下半はナデが行われ、内面下半にはケズリ調整が見られる。66・67は須恵器杯。66はヘラ切り後ナデ調整が行われる。67は外部底面にロクロケズリが行われる。51・52は須恵器杯。これらの土器は概ね8世紀中頃の遺物と考えられる。

S D 558 の出土遺物(68~75) 68は土師器杯。体部内外面にミガキの様な調整が見られる。69は土師器皿で、内面体部に放射状のミガキ、内面底部に螺旋状の暗文が施される。70・73は土師質土器碗。70は口縁は端部で外反し、底部には糸切り痕が見られる。74は土師質土器皿で、底部には糸切り痕が見られる。75は土師器壺で、体部外面には指オサエや工具ナデの痕が残る。口縁端部は肥厚し、内面が僅かに突出する。71・72は山茶碗。71は渥美産と考えられる。72は内面に炭化物が付着する。藤澤良祐氏の山茶碗編年(以下「藤澤編年」)⁽³⁾第4~5型式(1)のものと考えられる。

S D 550 出土遺物(76・77) ともに山茶碗。藤澤編年第7型式のものと考えられる。

S D 534 出土遺物(78~82) 78は土師器鍋の把手。79・82は土師質土器碗で、82は柱状高台をもつ。80・81は山茶碗で、81は内面に使用痕が見られる。藤澤編年第7型式のもの。

S X 581 出土遺物(83~88) 83・84は土師器皿で、共に体部外面に指指オサエ痕が残る。85~88は山茶碗で、85・88は内面に使用痕が見られる。藤澤編年6~7型式のもの。

S E 502 出土遺物(89~93) 89・90は土師器皿で、89は体部外面に指指オサエ痕が残り、90は底部に糸切り痕が残り、口縁端部が外に開く。91土師質土器皿。底部は厚く、糸切り痕が残る。92・93は山茶碗で、93は内面に使用痕が見られる。藤澤編

年第3型式のもの。

S D 541出土遺物(98~111) 98~107は土師器杯、ほとんどのものに体部下半に指オサエ痕が残る。口縁端部が外反するものと、外反せず丸く収まるものがある。110は土師器皿。外面とも体部下半に指オサエ痕が残る。111は土師器壺で、口縁端部を内側につまみ上げる。外面には煤が付着する。108は灰釉陶器。109は山茶碗で藤澤編年第7型式があたるが、混入したものと考えられる。

S D 566出土遺物(112~117) 112は土師器椀、113は土師質土器椀。114は土師器皿。116は土師器壺で、体部が外面には指オサエが、内面は板ナデが施される。117は土師器鍋の把手。115は山茶碗で、内面底部には胎土目が残る。

S D 563出土遺物(118~120) 118は土師器杯。底部外面には指オサエ痕が残る。119土師器杯。体部外面下半にはケズリ後にナデ調整が施される。120は須恵器高杯で杯部内面底部に「×」字状のヘラ記号が見られる。

S D 552出土遺物(121~128) 121は土師器杯で、口縁端部は外反する。体部下半には指オサエ痕が残り、底部には墨書が見られる。122~125は土師器壺で、122~124は内面に炭化物のような物が付着する。126~127は須恵器杯。127は外面底部に墨書がある。一文字目は「成」で、二字目は「利」であろうか。128は山茶碗で、藤澤編年第5~6型式のものと考えられる。

S D 538出土遺物(129~131) 129は黒色土器杯で、内面にはミガキ調整が施される。田中琢氏の分類のA類にあたり、内面及び口縁部外面に黒色化した部分が見られる。130は土師器皿で、口縁端部はナデ調整によって外反し、外面体部下半には指オサエ痕が見られる。131~132は土師器壺で、共に口縁部端部が内側に折り返され、体部は球体を呈する。132は外面体部中位に煤が付着する。

S K 540出土遺物(133~135) 133~134は土師器壺。135は土師器鍋で把手が付くものと思われる。

S K 512出土遺物(136) 土師器壺で、外面には煤が付着している。

S D 561出土遺物(137) 土師器壺で、口縁部は肥厚し、端部は外反する。摩滅が激しい。

S D 580出土遺物(138) 土師器壺。口縁部は横ナデが行われるが、部分的にハケメが残る。

S D 531出土遺物(139) 土師器壺で口縁端部はつまみ上げられる。

S D 537出土遺物(140) 陶器捏鉢で外面には自然釉がかかる。

S D 586出土遺物(141・142) 141は土師器椀で外面には粘土紐痕が残る。内面には煤が付着している。142は土師器壺で、口縁端部までハケメが残る。

S D 588出土遺物(143・144) 143は陶器捏鉢で外面には自然釉がかかる。144は山茶碗で高台には砂痕が残る。藤澤編年の第6~7型式にあたる。

S D 547出土遺物(145) 須恵器杯蓋で天井部はへたり切り痕が残る。

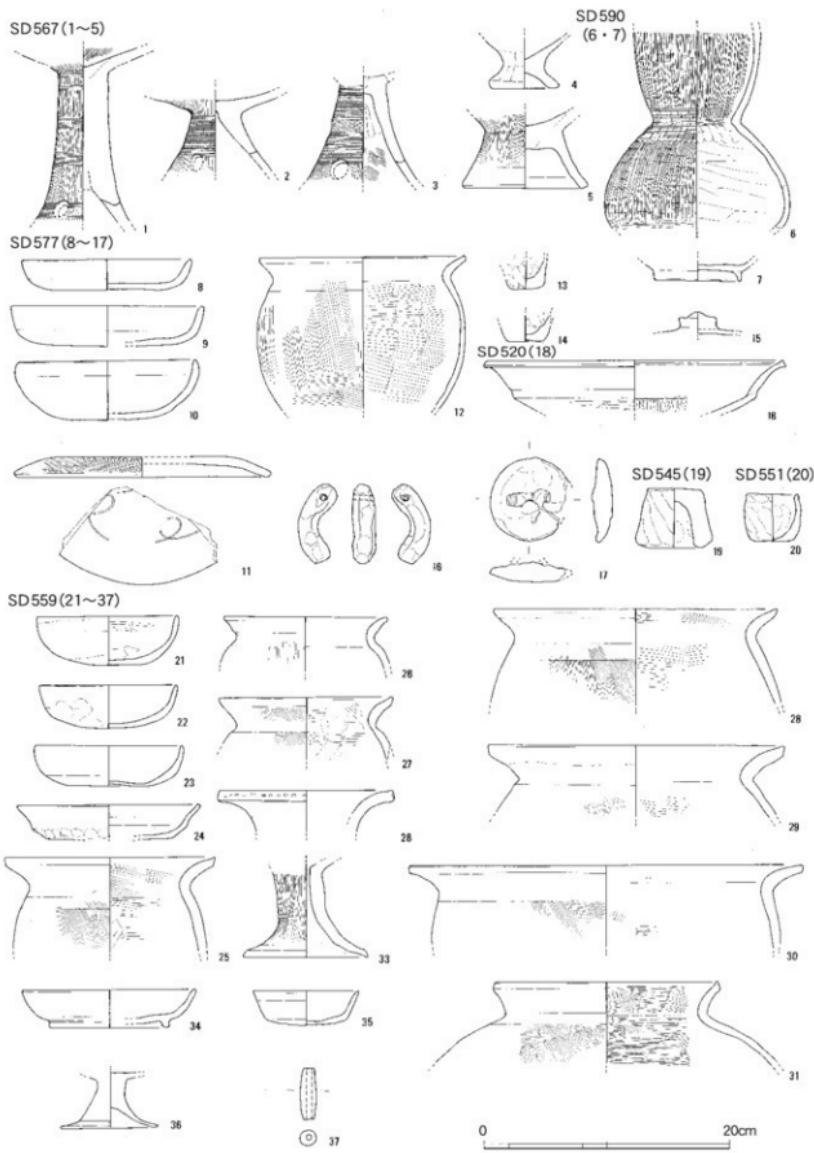
S D 587出土遺物(146~149) 146~147は土師器杯。146は内面には粗いミガキ調整が施され、外面体部下半にはケズリ調整が、底面にはミガキ調整が施される。147は体部外面下半に指オサエ痕が見られ、底面はケズリ調整が施される。また、底面には線刻も見られる。148~149は山茶碗。149は内面に墨痕が見られ、高台部には粗穀痕が残る。共に藤澤編年第7型式のものと思われる。

S D 589出土遺物(150) 山茶碗で、内面には使用痕が見られる。藤澤編年第6型式のもの。

Pit出土遺物(151~157) 151は鉄釘。152は土師器の把手。153は土師器杯で、外面には粘土紐痕が残る。154は土師器皿で、内面には暗文状の痕跡が見られる。155~156は土師器壺。157は土師器瓶。

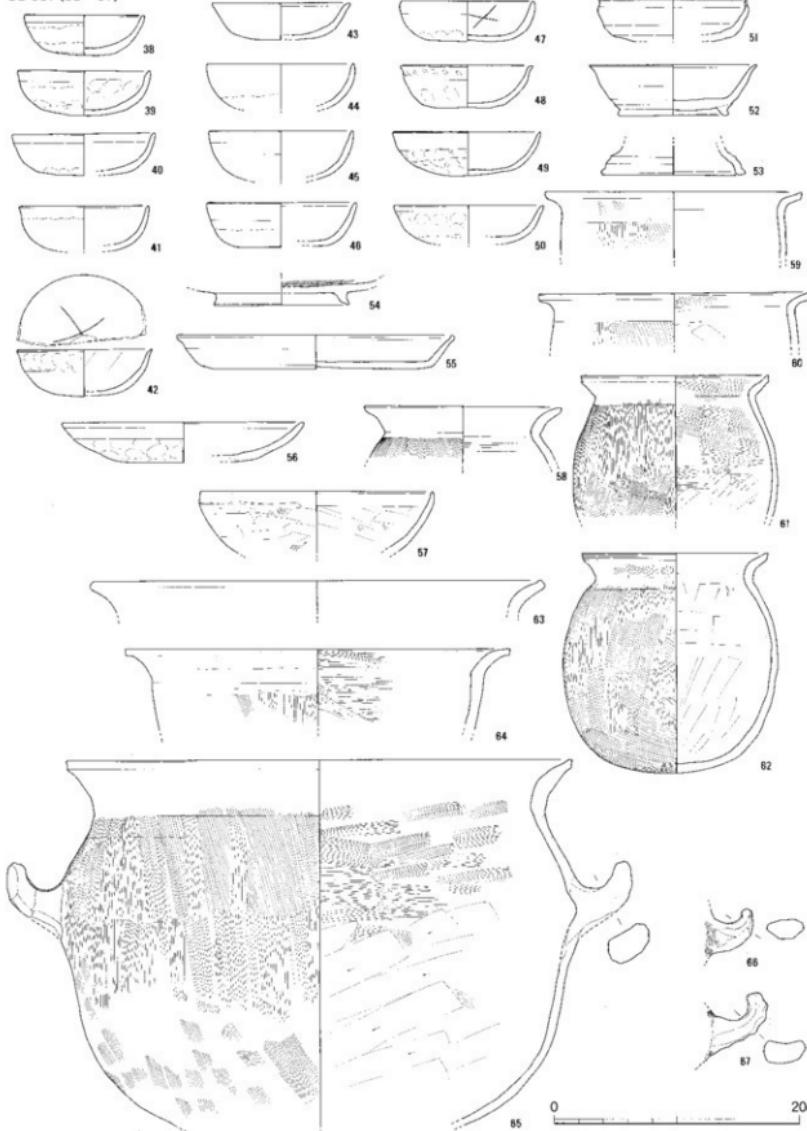
S D 569出土遺物(158・159) 158は土師器壺。159は土師器高杯で、脚部には縱方向の工具ナデが施される。

包含層出土遺物(160~194) 160は石錐。先端部は欠損しており、全体的に風化している。161は土師器高杯の脚部。外面はミガキ調整が施され、三方透かしが見られる。162~163はS字状口縁付壺。162は外面に煤が付着する。口縁部や肩部に刺突文が見られ、赤塚次郎氏の分類のO類にあたる。163は脚部で、内面には炭化物が付着している。164~165は須恵器杯。166~171は土師器杯。166は口縁端部が外反し、内面に面を持つ。外面体部下半には指オサエ痕が少し残る。167は外面体部下半にケ

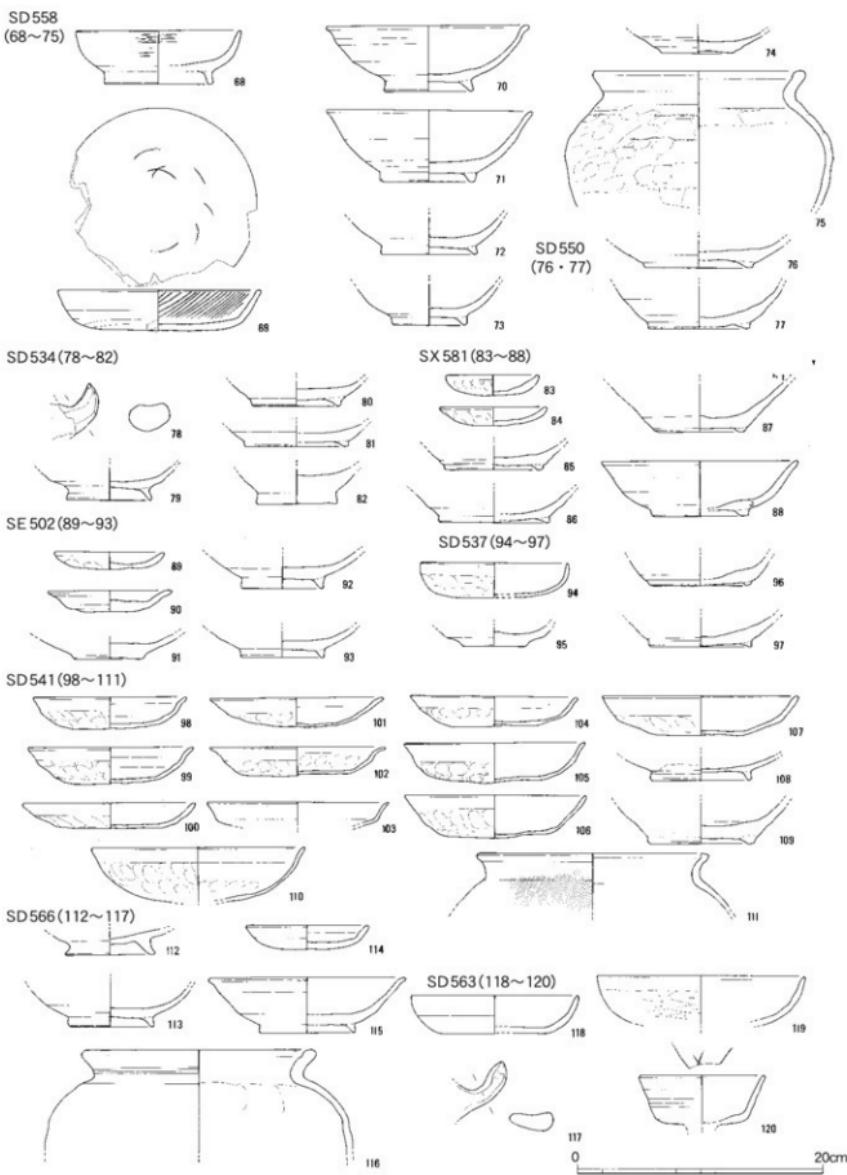


第14図 第4次調査区出土遺物 (1) (1:4)

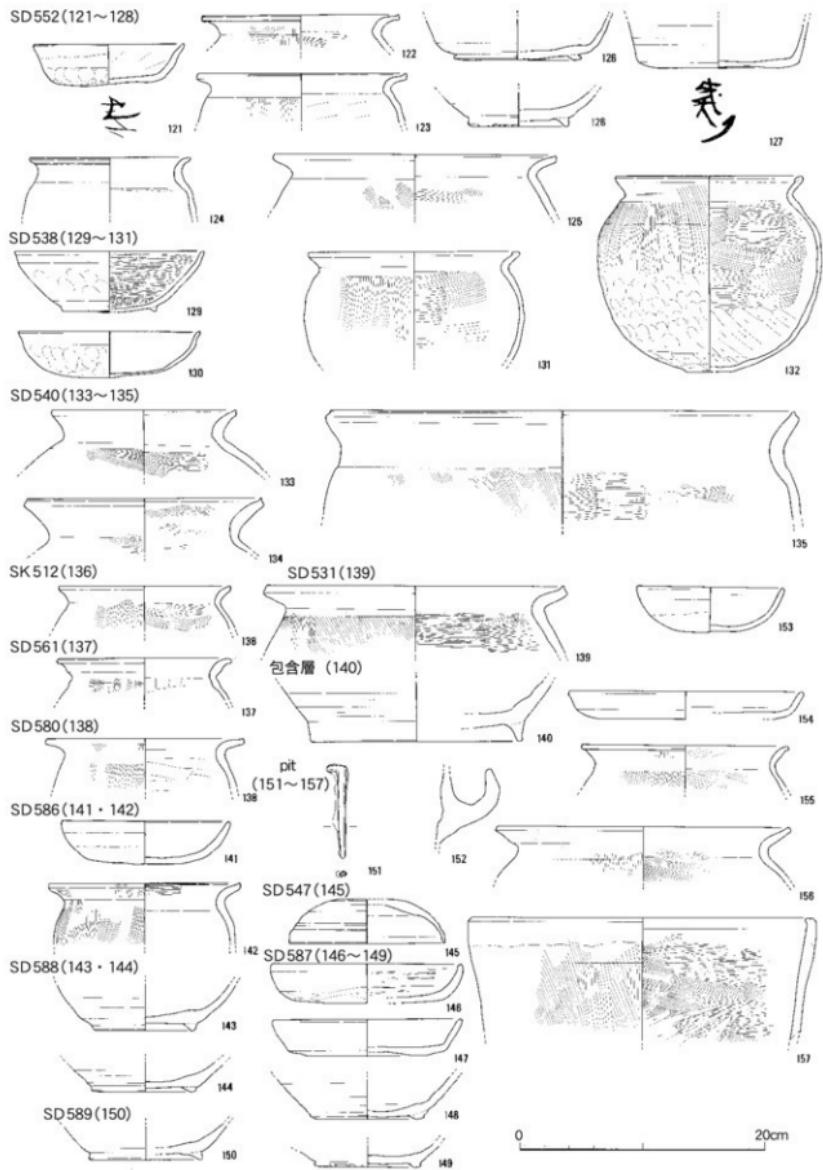
SD557(38~67)



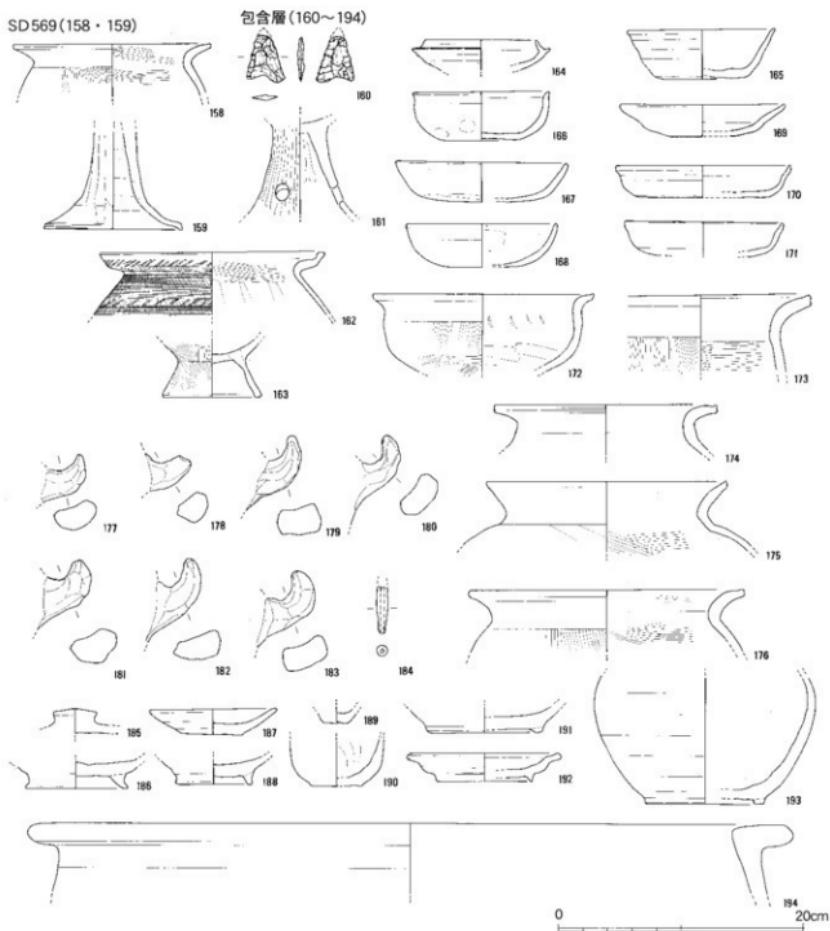
第15図 第4次調査区出土遺物（2）（1：4）



第16図 第4次調査区出土遺物（3）（1：4）



第17図 第4次調査区出土遺物(4)(1:4)



第18図 第4回調査区出土遺物（5）（1：4）

ズリが施される。168は口縁内部に工具ナデの痕跡が残る。169は器高は浅く、口縁は外に大きく開く。170は外部底面にケズリが施される。171は土師器の鉢であろうか。口縁端部が外反する。内面下半はケズリは施され、体部中位には、ケズリを行った際の工具の当たり痕が見られる。173～176は土師器甕。173は外面に煤が付着する。177～183は土師器甕や鍋の把手。184は土鍤。185は土師器杯蓋

でつまみ部分。186は土師質土器皿で、底面には糸切り痕が残る。187・188は土師質土器椀で、ともに内面に炭化物が付着する。189・190は土師器鉢。189はミニチュア土器と考えられる。191は山茶椀。192は瀬戸産の小皿。193は常滑の大甕。近世のもの。

| 特考 | 実測 等分 号 | 幅員、地形 | グリッド 高程・標高、 地化 | 計測値(cm) | | 測量・検定の結果 | 前土 成度 | 色調 | 堆存度 | 物質状況 |
|----|---------------|------------|----------------------|----------|----------|----------------------|----------|---------------------|---------|---------|
| | | | | 右端 脚印 | 左端 右端 | | | | | |
| 1 | 10-2 | 千葉県 市川市 | H10 SD567 | - | - | - ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、黄褐色 10%W/H | 堆積5/12 | |
| 2 | 12-2 | 土崎町 新潟県 | G9 SD567 | - | - | - ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 3 | 13-6 | 千葉県 市川市 | I19-10 SD567 | - | - | - ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 4 | 12-9 | 千葉県 市川市 | G9 SD567 | - | - | - ハケ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積5/12 | |
| 5 | 14-1 | 土崎町 新潟県 | H10 SD567 | - | - | 16.2 ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積12/12 | |
| 6 | 36-1 | 千葉県 市川市 | H12 SD569 | - | - | 外ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積5/12 | |
| 7 | 30-2 | 千葉県 市川市 | H12*28 SD569 | - | 7.2 | ハクモナガ+底泥-名残物 | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | |
| 8 | 19-3 | 土崎町 新潟県 | H3 SD577 | 12.8 | 2.5 | - ナツ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積5/12 | |
| 9 | 17-4 | 土崎町 新潟県 | H3 SD577 | 16.6 | 3.0 | - ナツ+シズリ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 10 | 16-5 | 千葉県 市川市 | I13 SD577 | 14.3 | 1.9 | - ハケ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 11 | 19-1 | 土崎町 新潟県 | G35 SD577 | 20.8 | 1.3 | - ナツ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 12 | 18-1 | 土崎町 新潟県 | H33 SD577 | 16.8 | - | - ハケ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積11/12 | |
| 13 | 10-2 | 千葉県 市川市 | G39 SD577 | - | 2.6 | オサユニアシダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積12/12 | ミネチアブト綿 |
| 14 | 2-1 | 土崎町 新潟県 | H33 SD577 | - | - | - ナツ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | ミネチアブト綿 |
| 15 | 19-3 | 土崎町 新潟県 | G33 SD577 | - | - | - ナツ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積12/12 | |
| 16 | 19-3 | 千葉県 市川市 | G33 SD577 | - | - | - | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 12/12 | |
| 17 | 2-5 | 千葉県 市川市 | H33 SD577 | - | - | - | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 10/12 | |
| 18 | 12-1 | 千葉県 市川市 | G13 SD589 | 24.6 | - | - ナツ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積2/12 | |
| 19 | 30-1 | 千葉県 市川市 | G23 SD589 | - | 6.2 | セリユニアシダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 11/12 | ミネチアブト綿 |
| 20 | 39-1 | ミネチア ト綿 | K39 SD589 | 4.2 | 3.9 | 3.0 オサユニ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 8/12 | |
| 21 | 38-1 | 土崎町 新潟県 | F7 SD589 | 11.6 | 4.0 | - ナツ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積10/12 | PG |
| 22 | 90-2 | 千葉県 市川市 | R8 SD589 | 11.7 | 3.5 | - 内ハケナガ+ナツ+シダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積11/12 | PG |
| 23 | 25-9 | 千葉県 市川市 | H7 SD589 | 12.1 | 3.3 | - ハクモナガ+底泥-底泥はシロハコロウ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積11/12 | PG |
| 24 | 24-4 | 土崎町 新潟県 | G7 SD589 | 15.0 | - | - オサユニアシダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 11/12 | |
| 25 | 27-2 | 千葉県 市川市 | B8 SD589 | 17.0 | - | - ハケ+シダ+シズリ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 26 | 26-2 | 千葉県 市川市 | B8 SD589 | 18.2 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 27 | 22-2 | 土崎町 新潟県 | S8 SD589 | 14.2 | - | - ハケ+シダ+シズリ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積11/12 | |
| 28 | 36-1 | 千葉県 市川市 | H8 SD589 | 23.0 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積3/12 | |
| 29 | 34-2 | 千葉県 市川市 | 7 SD589 | 24.0 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 30 | 27-3 | 土崎町 新潟県 | H8 SD589 | 32.0 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 31 | 16-4 | 千葉県 市川市 | G8 SD589 | 18.2 | - | - オサユニアシダ+ナツ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 32 | 17-2 | 千葉県 市川市 | I17 SD589 | 14.3 | - | - ハケ+御前河 | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積2/12 | |
| 33 | 38-1 | 土崎町 新潟県 | 9 SD589 | - | - | 16.1 ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積9/12 | |
| 34 | 28-6 | 千葉県 市川市 | B8 SD589 | 14.2 | 3.1 | 9.8 ナツ+ホトトギス+底泥-切羽ナ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積2/12 | |
| 35 | 28-3 | 千葉県 市川市 | B8 SD589 | 8.6 | 2.8 | 2.8 ハクモナガ-底泥-ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積5/12 | |
| 36 | 25-1 | 千葉県 市川市 | 9 SD589 | - | - | 8.0 ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | |
| 37 | 26-6 | 千葉県 市川市 | B8 SD589 | - | - | - | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 12/12 | |
| 38 | 20-4 | 千葉県 市川市 | F6 SD587 | 9.8 | 3.3 | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 39 | 20-2 | 千葉県 市川市 | I7 SD587 | 10.0 | 3.2 | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 40 | 20-5 | 千葉県 市川市 | B8 SD587 | 11.6 | 3.4 | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 41 | 3-4 | 千葉県 市川市 | H7 SD587 | 10.4 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積1/12 | PG |
| 42 | 32-2 | 千葉県 市川市 | H9 SD587 | 11.0 | 3.9 | - オサユニアシダ、内ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積11/12 | PG |
| 43 | 2-2 | 千葉県 市川市 | G6 SD587 | 11.2 | 3.0 | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 44 | 2-3 | 千葉県 市川市 | D+T6 SD587 | 12.0 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 45 | 32-1 | 千葉県 市川市 | H6 SD587 | 11.8 | - | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 46 | 34-4 | 千葉県 市川市 | H7 SD587 | 12.1 | 3.3 | - ハクモナガ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 47 | 20-6 | 千葉県 市川市 | H7 SD587 | 11.0 | 3.3 | - オサユニアシダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積6/12 | PG |
| 48 | 33-6 | 千葉県 市川市 | G6 SD587 | 10.7 | 3.5 | 外ハクモナガ+オサユニアシダ | 泥質 | 12.5-、白褐色 10%W/H | 堆積7/12 | PG |

第3表 第4次調査区遺物観察表(1)

| 番号 | 実測高さ | 幅別形態 | 計測値(cm) | 測定・記述の特徴 | 生长期 | 色調 | 現存度 | 特記事項 | |
|----|------|------------|-----------------|---------------------|--------------------------|----------|----------------|----------|-----------------|
| | | | | | | | | 内面 深さ | 外側 深さ |
| 19 | 33.5 | 土壌凹 形 | F5 SD357 | 12.1 3.6 — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡黄緑 7.5W7H6 | 口輪6/12 | 弱G |
| 20 | 20.9 | 土壌凹 形 | F7 SD357 | 12.2 — | オサエ・ナダ | 前 月 | 淡黄 7.5W7H4 | 口輪4/12 | 弱G |
| 31 | 3~6 | 土壌凹 形 | F7 SD357 | 12.0 — | コクコナデ・駆付高ナダ | 前 月 | 淡黄 7.5W7H4 | 口輪3/12 | |
| 32 | 21.1 | 土壌凹 形 | H1 SD357 | 13.6 4.2 — | コクコナデ・駆付高ナダ | 今小葉 月 | 淡黄 5W6H1 | 底部6/12 | |
| 33 | 3~7 | 土壌凹 形 | H4 SD357 | — — | ムコロゲ | 前 月 | 暗灰 3S3.0 | 口輪3/12 | |
| 34 | 21~2 | 土壌凹 形 | H4 SD357 | — 11.0 — | ムコロゲ・ミカタ・駆付高ナダ 内・駆突あり | 前 月 | 暗灰 2.5W7H6 | 底部6/12 | 強J1 |
| 35 | 4~8 | 土壌凹 形 | H7 SD357 | 22.6 2.8 — | ナダ | 今小葉 月 | 淡青 5W7/1 | 口輪6/12 | |
| 36 | 21~1 | 土壌凹 形 | H8 SD357 | 19.8 3.3 — | オサエ・ナダ | 前 月 | 淡青 5W6H6 | 口輪6/12 | |
| 37 | 21~3 | 土壌凹 形 | H9 SD357 | 19.0 — | ナダ・メスリーベルキ | 前 月 | 淡青 2.5W7H6 | 口輪3/12 | |
| 38 | 2~1 | 土壌凹 形 | H9~10 SD357 | 16.0 — | ハナ・ナダ | 前 月 | 淡青 7.5W7H5 | 口輪6/12 | |
| 39 | — | 土壌凹 形 | H9~10 SD357 | 21.0 — | ハナ・ナダ | 前 月 | 淡黄 10W7H3 | 口輪6/12 | |
| 40 | 1~3 | 土壌凹 形 | H9~10 SD357 | 15.0 — | ハナ・ナダ・ナダ | 前 月 | 淡青 4.5W5H5 | 口輪2/12 | |
| 61 | 31.3 | 土壌凹 形 | H16~7 SD357 | 15.2 — | ナダ・ハメケツリ | 前 月 | 淡青 7.5W7H7 | 口輪6/12 | |
| 62 | 31~2 | 土壌凹 形 | H17~10 SD357 | 13.1 18.1 — | ハナ・ハメケツリ | 前 月 | 淡青 10W7H2 | 口輪6/12 | |
| 63 | 1~2 | 土壌凹 形 | H17~10 SD357 | 37.0 — | ナダ | 前 月 | 淡青 5W7H5 | 口輪2/12 | |
| 64 | 4~1 | 土壌凹 形 | H17 SD357 | 31.2 — | ハナ・ナダ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 口輪6/12 | |
| 65 | 1~11 | 土壌凹 形 | H17 SD357 | 41.2 — | ハナ・ハナ・ナダ 内・駆突あり | 今小葉 月 | 淡黄 7.5W8H6 | 口輪3/12 | |
| 66 | 21~5 | 土壌凹 形 | H17~10 SD357 | — — | オサエ・ナダ・ナダ | 今小葉 月 | 淡黄 7.5W7H4 | 口輪6/12 | |
| 67 | 21~6 | 土壌凹 形 | H16~7 SD357 | — — | オサエ・ナダ・ハナ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 5W7H6 | 口輪6/12 | |
| 68 | 22~1 | 土壌凹 形 | H6 SD358 | 13.4 4.4 — | ハナ・ナダ | 前 月 | 淡青 5W6H6 | 口輪6/12 | 弱B |
| 69 | 22~5 | 土壌凹 形 | H6 SD358 | 16.5 3.3 — | 内・駆付高ナダ 内・駆突折断・放状折断 | 前 月 | 淡青 5W7H6 | 口輪6/12 | |
| 70 | 35~2 | 土壌凹 形 | H6 SD358 | 16.5 5.4 — | コクコナデ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 前 月 | 淡青 7.5W7H5 | 底部6/12 | |
| 71 | 22~1 | 山苔類 | G9~10 SD358 | 16.2 5.9 — | コクコナデ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 前 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J |
| 72 | 22~2 | 山苔類 | H9 SD358 | — — | ムコロゲ・底部柔軟切 | 前 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J・底段 |
| 73 | 22~3 | 山苔類 | H9 SD358 | — — | コクコナデ・駆付高ナダ | 前 月 | 淡青 5W7H5 | 底部6/12 | |
| 74 | 11~2 | 土壌質下凹 形 | H9 SD358 | — — | コクコナデ・底部柔軟 | 前 月 | 淡青 10W7H1 | 底部6/12 | |
| 75 | 14~3 | 土壌凹 形 | H9 SD358 | 14.3 — | オサエ・ナダ・ナダ | 前 月 | 淡青 10W7H1 | 口輪6/12 | 弱J・輪付着 |
| 76 | 32~6 | 山苔類 | H9~10 SD359 | — — | コクコナデ・駆付高台 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J |
| 77 | 32~3 | 山苔類 | H9~10 SD359 | 8.2 — | コクコナデ・駆付高台 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 加多・駆付 |
| 78 | 15~6 | 土壌凹 形 | H10 SD359 | — — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 10W7H3 | 口輪6/12 | |
| 79 | 25~2 | 土壌質下凹 形 | H10 SD359 | — — | ナダ・駆付高ナダ・ナダ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 7.5W7H3 | 底部6/12 | |
| 80 | 21~6 | 山苔類 | H12~1 SD359 | 7.2 — | コクコナデ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |
| 81 | 15~3 | 山苔類 | H12~1 SD359 | — — | ムコロゲ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |
| 82 | 16~1 | 土壌質上凹 形 | H12~1 SD359 | — — | ナダ | 前 月 | 淡青 7.5W7H3 | 底部6/12 | 弱J・高台 |
| 83 | 12~5 | 土壌凹 形 | H12~6 SD359 | 7.6 1.7 — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 10W7H2 | 口輪6/12 | |
| 84 | 7~6 | 土壌凹 形 | H12~6 SD359 | 8.7~ 1.6 9.0 — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 10W7H3 | 口輪6/12 | |
| 85 | 6~3 | 山苔類 | H12~6 SD359 | — — | ムコロゲ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 口輪6/12 | 弱J・使用組 弱J・駆付 |
| 86 | 8~6 | 山苔類 | H12~6 SD359 | 9.0 — | コクコナデ・駆付高台・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 口輪6/12 | 加多・駆付 |
| 87 | 8~1 | 山苔類 | H12~6 SD359 | — — | ムコロゲ・駆付高台・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |
| 88 | 8~2 | 山苔類 | H12~6 SD359 | 16.0 4.6 — — | ムコロゲ・駆付高台・高台細胞 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 口輪6/12 | 弱J・使用組 弱J・駆付 |
| 89 | 7~7 | 山苔類 | H12~6 SD359 | 8.9 1.5 — — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 7.5W7H2 | 口輪6/12 | |
| 90 | 4~3 | 土壌質下凹 形 | H13~5 SD359 | 10.0 1.8 — | ムコロゲ・駆付高台 | 今小葉 月 | 淡青 10W7H3 | 口輪6/12 | |
| 91 | 6~7 | 土壌質上凹 形 | H13~5 SD359 | 5.7 — | ムコロゲ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 口輪6/12 | |
| 92 | 8~3 | 山苔類 | H13~5 SD359 | 6.5 — | コクコナデ・駆付高台・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |
| 93 | 8~4 | 山苔類 | H13~5 SD359 | 6.8 — | コクコナデ・駆付高台・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5/0 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |
| 94 | 34~1 | 土壌凹 形 | H13~5 SD359 | 11.8~ 2.9 12.5 — | オサエ・ナダ | 今小葉 月 | 淡青 10W7H3 | 口輪6/12 | |
| 95 | 16~5 | 山苔類 | H13~5 SD359 | — — | ムコロゲ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 10W7H3 | 底部6/12 | |
| 96 | 15~2 | 山苔類 | H12~5 SD357 | 8.3 — | コクコナデ・駆付高ナダ | 今小葉 月 | 淡青 2.5/1 | 底部6/12 | 加多・駆付 |
| 97 | 15~1 | 山苔類 | H12~5 SD357 | — — | ムコロゲ・駆付高ナダ・底部柔軟 | 今小葉 月 | 淡青 2.5W7/1 | 底部6/12 | 弱J・駆付 |

第4表 第4次調査区遺物観察表（2）

| 番号 | 実験番号 | 種別形態 | グリル構造部位 | 計測値(cm) | 調査・反映の特徴 | 出土後成 | 色調 | 埋合度 | 特記事項 | |
|-----|-------|-----------------|--------------|----------|-------------------------|-----------------------|----------|----------|--------------|--------------|
| | | | | | | | | | □底 | 最高 |
| 99 | 20-1 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 12.4 2.6 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 99 | 3-2 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 12.3 3.9 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 100 | 18-4 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.9 3.1 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫5/12 | | |
| 101 | 3-3 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.9 2.4 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 102 | 20-3 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.1 2.4 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 103 | 18-6 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.6 - | - ナゲ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫3/12 | | |
| 104 | 20-2 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 13.6 2.5 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 105 | 18-5 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.6 3.4 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 106 | 18-2 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 14.7 3.5 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫8/12 | | |
| 107 | 18-6 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 15.9 3.2 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 108 | 25-5 | 灰褐色 土陣器 灰 | G25 S0241 | - - | 8.2 0.9 | クロコナデ・駒村高台ナデ・底部ロクロケイズ | やや赤 白 | 灰白 ±灰 | 表6/12 | |
| 109 | 24-5 | 土陣器 灰 | E25 S0241 | - - | 8.2 | クロコナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | やや赤 白 | 灰白 ±灰 | 表5/12 | 底に少しだけ 粘多 |
| 110 | 24-3 | 土陣器 灰 | G25 S0241 | 17.2 - | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 111 | 25-1 | 土陣器 灰 | E25 S0241 | 18.8 - | - ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ロクロケイズ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 112 | 30-6 | 土陣器 灰 | H25 S0266 | - - | 7.4 | ナゲ・駒村高台ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 底6/12 | |
| 113 | 30-5 | 土陣器 灰 | G25 S0266 | - - | 7.0 | ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 底4/12 | |
| 114 | 30-10 | 土陣器 灰 | H9 S0266 | 16.9 2.9 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫4/12 | | |
| 115 | 30-8 | 土陣器 灰 | G9 S0266 | 16.9 4.5 | 7.8 ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫5/12 | 灰ノ・粘 | |
| 116 | 31-1 | 土陣器 灰 | H9 S0266 | 19.0 - | - オサエ・ナデ・ハニカ? | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 117 | 31-3 | 土陣器 灰 | G8 S0266 | - - | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | | |
| 118 | 10-4 | 土陣器 灰 | H7 S0262 | 13.6 3.1 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫8/12 | 粉G | |
| 119 | 10-5 | 土陣器 灰 | H7 S0262 | 17.0 - | - クロナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 粉C | |
| 120 | 10-8 | 土陣器 灰 | G9 S0262 | 16.9 - | - クロナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 内面に黒点記号 | |
| 121 | 6-2 | 土陣器 灰 | H25 S0252 | 12.2 3.3 | - オサエ・工具ナフ・工具痕 | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫6/12 | 底部に黒点みみ | |
| 122 | 8-2 | 土陣器 灰 | H25 S0252 | 16.9 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 内面に炭化物ナガ付着 | |
| 123 | 8-3 | 土陣器 灰 | G25 S0252 | 17.0 - | - ハニカ?・E.具ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 内面に炭化物ナガ付着 | |
| 124 | 8-1 | 土陣器 灰 | E25 S0252 | 13.0 - | - ナゲ・E.具・E.具ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 125 | 8-4 | 土陣器 灰 | E25 S0252 | 23.0 - | - ハニカ? | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫1/12 | | |
| 126 | 13-5 | 粘土器 灰 | F28 S0252 | - - | ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | 淡 白 | 灰 白 | 底6/0 | 灰色ノ | |
| 127 | 6-3 | 粘土器 灰 | F28 S0252 | - - | - ロクロナデ・ロロケイズ | 淡 白 | 灰白 ±灰 | 底6/12 | 底部外側に半島から成り? | |
| 128 | 8-6 | 土陣器 灰 | E25 S0252 | - - | ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | 淡 白 | 淡黄褐 白 | 底4/12 | 灰ノ・粘 | |
| 129 | 28-2 | 風呂土器 灰 | E24 S0258 | 15.4 5.0 | 7.6 オサエ・ナデ・ハニカ?・駒村高台 | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 黑色上部A系 | |
| 130 | 24-2 | 土陣器 灰 | B24 S0258 | 14.8 3.8 | - オサエ・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫3/12 | | |
| 131 | 27-4 | 土陣器 灰 | G24 S0258 | 17.2 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫1/12 | | |
| 132 | 24-1 | 土陣器 灰 | G24 S0258 | 15.2 - | - オサエ・ハニカ?・ナデ・ナシ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 133 | 29-3 | 土陣器 灰 | F25 S0246 | 15.0 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫1/12 | | |
| 134 | 29-2 | 土陣器 灰 | E25 S0246 | 19.4 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 135 | 29-1 | 土陣器 灰 | F23 S0246 | 39.4 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |
| 136 | 29-2 | 土陣器 灰 | E8 SK512 | 14.0 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | 外側に糊付着 | |
| 137 | 29-4 | 土陣器 灰 | S061 | - - | - ハニカ?・ナシ・ナシ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫1/12 | | |
| 138 | 5-5 | 土陣器 灰 | E31 S0296 | 16.1 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡 白 | 口縫2/12 | | |
| 139 | 17-1 | 土陣器 灰 | H4 S0311 | 24.6 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫3/12 | | |
| 140 | 15-5 | 土陣器 灰 | E25 S0296 | - - | 17.4 ロクロナデ・ロクロナデ・駒村高台ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 底6/12 | | |
| 141 | 2-1 | 土陣器 灰 | E31 S0296 | 13.7 3.5 | - ナゲ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫8/12 | 内面に糊が付着 | |
| 142 | 3-6 | 土陣器 灰 | E31 S0296 | 15.6 - | - ハニカ?・ナデ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫4/12 | | |
| 143 | 13-3 | 土陣器 灰 | E25 S0296 | - - | 8.2 ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | 淡 白 | 灰白 ±灰 | 底6/12 | 底・粘 | |
| 144 | 13-2 | 土陣器 灰 | E25 S0296 | - - | 8.2 ロクロナデ・駒村高台ナデ・底部ホロ | 淡 白 | 灰白 ±灰 | 底6/12 | 底・粘 | |
| 145 | 32-2 | 土陣器 灰 | E27 S0247 | 12.6 - | - ロクロナデ・ロクロナデ・ハニカ?・ナシ | 淡 白 | 淡黄褐 白 | 口縫7/1 | | |
| 146 | 3-5 | 土陣器 灰 | E28 S0247 | 15.6 3.3 | - ナゲ・ナシ・ナシ | やや赤 白 | 淡黄褐 白 | 口縫2/12 | | |

第5表 第4次調査区遺物調査表（3）

| 番号 | 実験番号 | 種別等形 | ダップル 標準・葉 口端 | 口側(厘米) | 翼側(厘米) | 翼端(厘米) | 網型・比級の特徴 | 前立 成虫 | 色調 | 生存度 | 特徴記録 | |
|-----|------|--------------|--------------------|--------|--------|---------|----------------------------|----------|--------|--------|--------------|----|
| | | | | | | | | | | | 右端 | 左端 |
| 147 | 6-1 | トントコ 長 | E16 SD267 | 16.5 | 3.6 | — | ナード・オルニ・ケスリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 外型正常に網羽付 | |
| 148 | 4-1 | 山吹 山吹 | G20 G20 | — | — | 9.2 | ミクロチフ・ト・カシラ・ツバメ西面 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 149 | 4-2 | 山吹 山吹 | G20 SD267 | — | — | 8.6 | ミクロチフ・ト・カシラ・ツバメ西面 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 150 | 5-7 | 山吹 秋野草 | E26 SD269 | — | — | 9.3 | ミクロチフ・ツバメ・ツバメ・ツバメ西面 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 151 | 10-6 | 秋野草 秋野草 | E23 E23 | — | — | — | — | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 152 | 34-1 | 土吹葉 花モ | E15 P22 | — | — | — | ハク・ミサキ・ツバメ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 153 | 7-1 | トントコ 長 | G7 P11 | 12.1 | 3.7 | — | T・M・ナデ・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 154 | 7-3 | トントコ 長 | G33 P13 | 19.1 | 2.3 | — | ナード・ケスリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面に毛状の筋跡 | |
| 155 | 33-3 | 土吹葉 花モ | G33 P13 | 16.8 | — | — | ハク・ミサキ・ツバメ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 156 | 7-2 | トントコ 長 | G33 P13 | 91.0 | — | — | ハ・タマ・チ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 157 | 33-1 | トントコ 長 | G33 P12 | 28.2 | — | — | ハク・ミサキ・ツバメ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 158 | 26-3 | 土吹葉 花モ | H6 SD269 | 16.9 | — | — | ハク・ミサキ・ツバメ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 159 | 27-3 | トントコ 花モ | H8 SD269 | — | — | 11.2 | 工具ナデ・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 160 | 21-7 | 白熱 白熱 | 17 17 | — | — | — | — | 赤 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 161 | 31-1 | トントコ 花モ | P10 P10 | — | — | — | ミガキ・ツバメ・ツバメボジ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 歩行 | |
| 162 | 13-1 | 土吹葉 花モ | E6 E6 | 18.2 | — | — | ツバメ・体操藝術文・体操藝術文・ハク・工具ナデ・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 外市に隠す | |
| 163 | 13-2 | トントコ 花モ | U8 SD269 | — | — | 8.1 | ハク・ミサキ・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面に毛状物付 | |
| 164 | 32-2 | 土吹葉 花モ | SD269 SD269 | 9.0 | — | — | ロクロナ・ツバメ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 165 | 28-4 | 東京鳥 東京鳥 | F3 F3 | 12.1 | 4.0 | — | ハクハナ・ツバメ・ハクハナ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 静止三脚姿勢 | |
| 166 | 6-6 | トントコ 花モ | 包含層 包含層 | 11.2 | 3.9 | — | ナード・脚オキニ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 167 | 35-9 | 土吹葉 花モ | P10 SD269 | 14.0 | 3.2 | — | ナード・脚オキニ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 168 | 7-3 | 土吹葉 花モ | 包含層 包含層 | 12.3 | 3.6 | — | 工具ナデ・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 169 | 32-3 | トントコ 花モ | 包含層 包含層 | 15.1 | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 170 | 23-9 | トントコ 花モ | P20 SD269 | 14.2 | 2.6 | — | ナード・外部底面ケスリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 171 | 23-4 | 土吹葉 花モ | P10 SD269 | 13.0 | — | — | 頭腹小引 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 172 | 23-2 | トントコ 花モ | F6 SD269 | 18.0 | — | — | ハクナデ・ケスリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面に下片痕付 | |
| 173 | 23-3 | トントコ 花モ | 包含層 包含層 | — | — | — | ハク・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 外腹に側付 | |
| 174 | 17-2 | 土吹葉 花モ | G6 包含層 | 15.1 | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 175 | 10-1 | トントコ 花モ | D15 包含層 | 19.1 | — | — | ハクナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 176 | 7-1 | トントコ 花モ | 包含層 包含層 | 32.4 | — | — | ハク・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 177 | 9-2 | 土吹葉 花モ | 包含層 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 178 | 6-7 | トントコ 花モ | 17 包含層 | — | — | — | ナード・脚オキニ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 179 | 9-3 | トントコ 花モ | 18 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 180 | 10-7 | 土吹葉 花モ | 18 包含層 | — | — | — | ハク・ナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 181 | 23-6 | トントコ 花モ | F8 包含層 | — | — | — | ハクナデ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 182 | 28-3 | トントコ 花モ | SD20 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 183 | 9-4 | 土吹葉 花モ | H6 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 184 | 12-4 | トントコ 花モ | H32 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 185 | 23-3 | トントコ 花モ | 包含層 包含層 | — | — | — | ナード | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 白跡 | |
| 186 | 8-10 | 土吹葉・土吹 花モ | 包含層 包含層 | 10.4 | 2.2 | — | ロクロチフ・透膜内側 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 透膜内側 | |
| 187 | 6-3 | 土吹葉・土吹 花モ | E22 包含層 | — | — | 6.3 | ロクロチフ・透膜内側 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面に消化物付 | |
| 188 | 8-8 | 土吹葉・土吹 花モ | H21 包含層 | 6.2 | — | — | ロクロチフ・透膜内側・外膜・底面へソリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面に消化物付 | |
| 189 | 15-7 | 土吹葉 花モ | — | — | 1.3 | ナード・透膜ヤ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 透膜・黒帶 | 透膜付 | |
| 190 | 16-2 | 土吹葉 花モ | F33 包含層 | — | — | 3.6 | ナード・透膜ヤ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | HCG | |
| 191 | 10-2 | 土吹葉 花モ | B26 包含層 | — | — | 9.4 | ロクロチフ・透膜内側・底面へソリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 物多量 | |
| 192 | 15-1 | 土吹葉 花モ | F13 包含層 | 12.8 | 2.3 | 7.8 | ロクロチフ・透膜内側・底面へソリ・内膜 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 内面・底面・口5.0mm | |
| 193 | 6-4 | 土吹葉 花モ | F13 包含層 | — | — | 9.7 | ロクロチフ・透膜内側 | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | | |
| 194 | 9-1 | 土吹葉 花モ | 60.1 包含層 | — | — | — | ロクロチフ・ロクロケスリ | 赤 色 | 黒 | 口端3/12 | 口済 | |

第6表 第4次調査区遺物觀察表(4)

4 小結

今回の調査で確認された遺構は、概ね4期に区分することが出来る。

第1期 主として弥生時代後期～古墳時代前期である。遺構は方形周溝墓1基と溝3条のみで、遺物量も極めて少ない。しかし、第1次調査では、この時期の大溝が確認され、多くの遺物も出土している。また、西側の天王山遺跡では、弥生後期の集落も存在していることから、発掘場内遺跡周辺にはこの時期の遺構が広範囲で広がっていたものと考えられる。また、方形周溝墓は詳しい時期は決定できないが、形状からみて中期に遡る可能性も考えられる。

第2期 奈良時代中期を中心とした時期で、土坑1基・溝12条が確認されている。この時期は、多数の溝が掘削された時期である。このうち、調査区東半の溝S D577・S D551・S D545からミニチュア土器が出土していることは注目される。特に東端部に存在するS D577では、鏡形土製品や勾玉形土製品が出土しており、周辺では何らかの祭祀が行われていた可能性が高いと考えられる。ただ、こうした土製模造品は、古墳時代後期が主体と考えられる。S D577でも後期の土師器が僅かに出土していることから、土製品も古墳時代後期まで遡る可能性が考えられる。鏡形と勾玉形土製品の出土は、松阪市草山遺跡^[6]や伊賀市中出向遺跡^[7]の例が知られる。前者は5世紀末に比定されるが、後者は5世紀後半から奈良時代の間とやや時期幅がある。事例が少ない為、詳しい時期は決定できないが、当遺跡のものについても、古墳時代後期から奈良時代の間としておきたい。

また2～3期にあたる掘立柱建物と、道路状遺構と考えられるS D557の関係も注目される。天王山遺跡のある西側の丘陵には7世紀後半から8世紀前半の集落跡が営まれ、多数の掘立柱建物が確認されている。時期はやや後出するものの、こうした集落が丘陵縁辺部にも存在しており、この丘陵沿いに道や溝が走っていたものと考えられる。

第3期 3期は平安時代後期から末期で、遺構数はやや少くなり、井戸1基・溝4条が確認されている。遺構は調査区西端と中央部で確認されており、井戸は丘陵縁辺の集落に伴うものであろう。

第4期 4期は鎌倉時代で、藤澤編年の第5～7型式にあたり、墓1基・溝9条を確認している。第3期・第4期も第2期に引き続き、溝が多數削されている。遺構はS D566を除き、調査区中央から東半部に見られる。

墓についてはS X581の他、時期不明であるがSK521が火葬墓になる可能性が考えられる。両者は大きく離れており位置関係に関連性は見受けられないことから、それぞれ単体でつくられたものであろう。

今回の調査区の特色は、遺構の大半が溝であったことである。溝は概ね丘陵裾方向に沿って南から北に向って流れる西偏する溝と、調査区方向とほぼ直交する東偏する溝が見られるが、いずれも方位に統一性は見られない。遺跡周辺の条里方向は、N-15°-Eであり、これらの溝群は条里方向に合致せず、地形に沿って掘削されたものと考えられる。

また、これらの溝群は、S D557からS D567にかけての西側の溝群と、S D554以東側の溝群に分かれる。掘立柱建物のある調査区西端は、丘陵裾部にあたり地盤の安定した集落縁辺であったと考えられ、西側の溝群は、丘陵裾に沿って流れる溝と考えられる。また、西側の溝群と東側の溝群の間に、大きな溝は見られない。耕作溝があることから畠地や平坦地として利用されて場所であろう。

これまでの調査では、古墳時代前期の大溝が確認されているが、今回の調査ではこの時期の遺構や遺物は少なく、大半は奈良時代以降のものである。この調査区だけでは判断できないが、これらの溝群について、周辺の土地開発を含めて考える必要があり、当地域が、奈良時代以降に積極的に開発された可能性が考えられよう。

(新名)

【註】

- (1) 上村安生「1 伊勢・伊賀地域」(『弥生土器の様式と編年』(東海編) 木耳社、2003年)
- (2) 都城の土器編年については、次の文献を参照した。古代の土器研究会「古代の土器 1 都城の土器集成」(1992年)
- (3) 田中琢「古代・中世農業の地域的特色(4) 畑内」(日本の考古学) 第4回(河出書房、1967年)
- (4) 藤澤良祐「山系発掘研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター、1994年)
- (5) 伊水貢三・谷岡武雄編「伊勢湾岸地域の古代条里」(東京堂出版、1979年)
- (6) 「草山遺跡発掘調査月報No.6」(松阪市教育委員会 1983年) 複本義謙「草山遺跡発掘調査報告書」(松阪市教育委員会 1986年)
- (7) 備前農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告書「三重県埋蔵文化財センター 1997年」

IV 琵琶垣内遺跡第1次調査の成果

1 第1次調査の経過

琵琶垣内遺跡第1次調査は、県道御麻生農園線道路改良工事に伴い、昭和62年度に実施されたものである。調査時の遺跡名は「閑静寺遺跡」と呼称されたが、後に琵琶垣内遺跡の一角として把握されるに至り、改称された。第1次発掘調査は、昭和62年5月7日から同年9月26日まで実施した。最終調査面積は3,800m²である。

2 調査区の層位と遺構

a 調査区の位置と層位

調査区は、総延長550mにおよぶ長大なものである（第2図）。調査区は、県道鳥羽松阪線から旧参宮街道にかけての調査区（G 1～3区）と、農原神社西部から陰陽集落北西部にかけての調査区（G 4～10区）に大きく分かれる（第19・20図）。G 3区とG 5区間にには、調査が実施されなかった区域が存在している。G 4・5区は、前章で見た第4次調査区にほど近い位置である。調査前の標高は、北端のG 1～3区で9.6m前後、南端のG 10区で10.6mほどであり、南から北に向かって緩やかな傾斜となっていた。

調査地は黒色土（黒ボク）を最上部の基盤層としている（第20図）。調査区内を縱断するように数条の溝が確認でき、とくに北部のG 1～3区ではそれが錯綜する状況となっている。

b 遺構の状況

第1次調査区で確認された遺構は、古墳時代以前と、奈良・平安時代以降のものに大別できる。およその状況は遺構一覧表（第7～9表）に示した。

ここで報告する遺構は、調査時の記録類が基礎になっている。そのため、記録が不備な箇所に関しては、遺構一覧表にその旨を記載しているので参考にされたい。

弥生時代以前 調査区内からは、縄文時代から弥生時代後期にかけての遺物が出土しているが、明確な遺構は伴わない。遺跡が形成されている時期とは言

い難い。

古墳時代前期 遺構基盤層となる黒色土を開削して流れるS D28～30・96・97がこの時期の中心となる遺構である（第19図参照）。これらの大溝は、やや蛇行しているために自然流路のように見えるが、遺構の断面（第32図）を見ると、整った逆台形を呈している。したがって、人工的に開削された溝と考えてよいかと思われる。そうすると、平面的に蛇行する形態としたのはなぜかという新たな疑問が生じる。

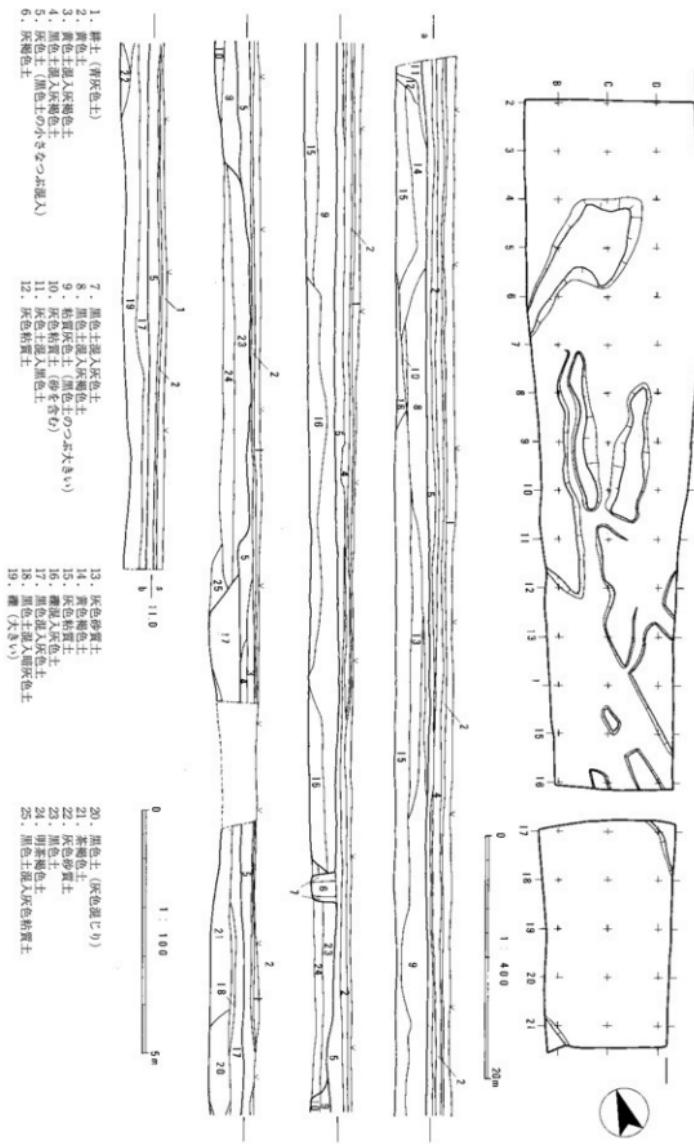
埋土中には縄文時代以降の遺物を含むが、縄文土器・弥生土器については摩滅が激しいため、直接遺構の時期を示すものとは考えにくい。S D97やその上部であるS Z98などから古墳時代前期前半の土器類がまとまって出土しているため、その時期には当初の機能を喪失して埋没はじめていると考えられる。

古墳時代後期 この時期には、S H69・70などの竪穴住居が建てられ、近隣は集落地として利用されている。ただし、S D29・97などには当該時期の遺物が含まれており、流路の機能はわずかに維持されていると考えられる。

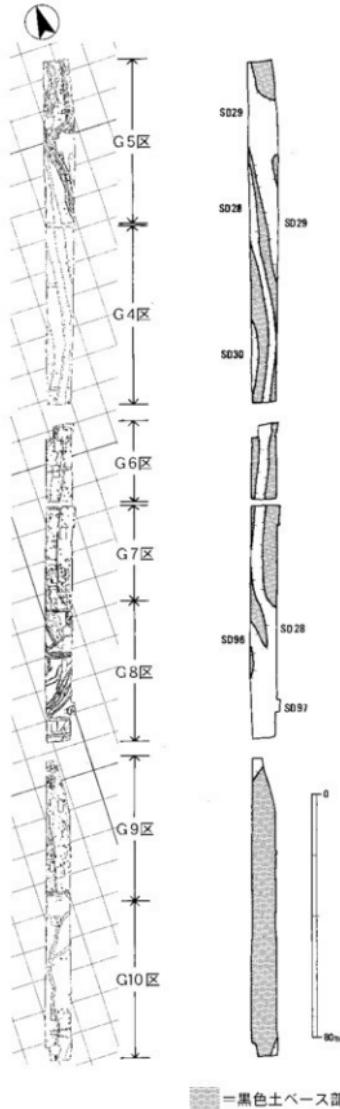
奈良～平安時代前期 7世紀代の遺構・遺物は少ないが、8世紀代に入ると、竪穴住居や井戸が見られるようになる。竪穴住居は、古墳時代前期に大方埋没していたS D97・28・29などの溝と重複して検出されており、8世紀代から平安時代後期頃にかけては掘立柱建物群が確認できる。建物には顯著な規格的配列は見られない。なお、この時期の建物群は、S K51から出土している「下厨前」などの墨書き土器が示すように、何らかの公的機関を構成する施設である可能性がある。

平安時代後期末～鎌倉時代 平安時代中期から後期にかけての時期は、遺構が稀薄で明確ではない。平安時代後期末の11～12世紀頃には、掘立柱建物が確認でき、集落地として継続していた形跡がある。また、遺構は明確ではないものの、旧参宮街道寄りのG 1～3区でこの時期の土器類がややまとまって出土している。

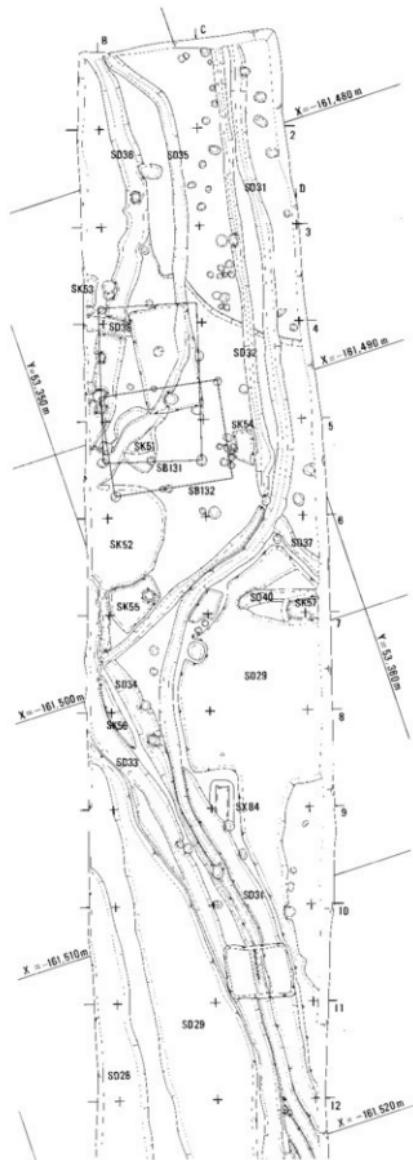
（伊藤）



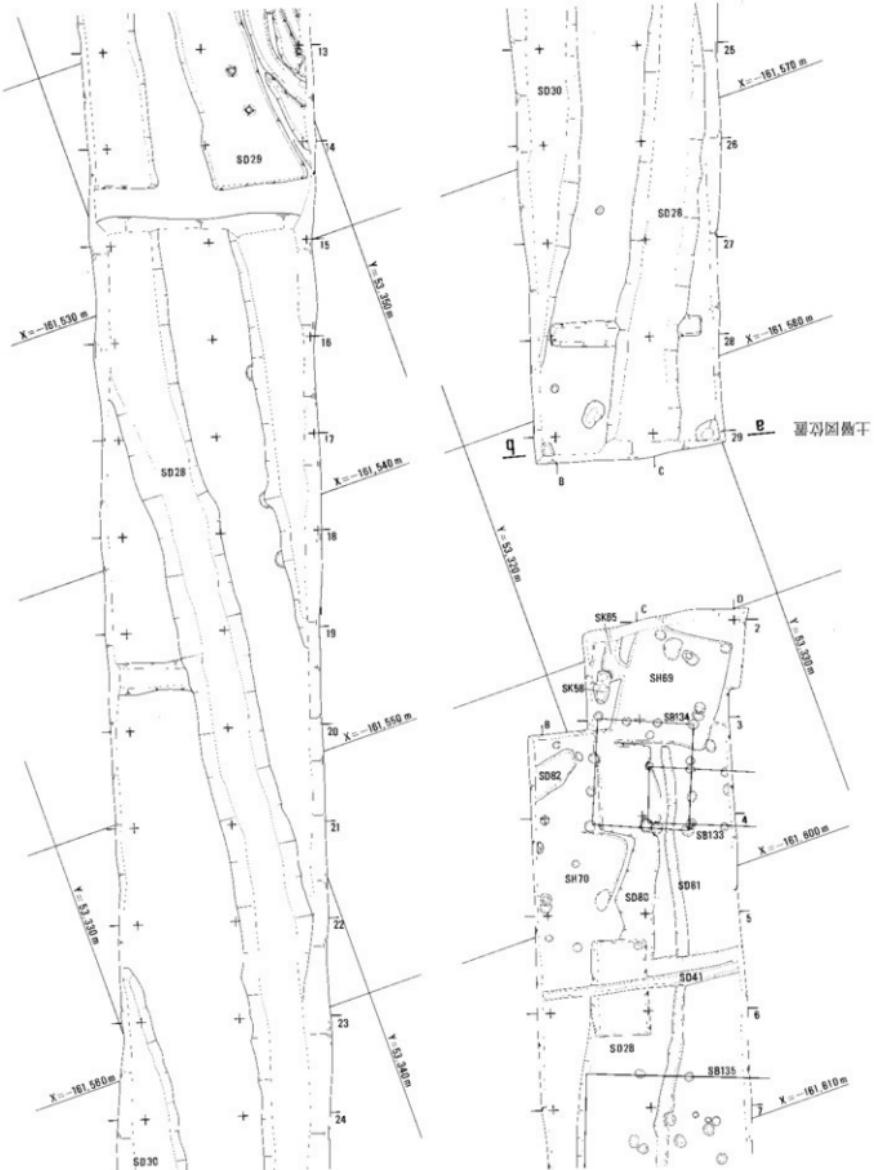
第19図 第1次調査区G1～3区 平面・土層断面図



第20図 第1次調査区G4~10区全体図 (1 : 1,600)

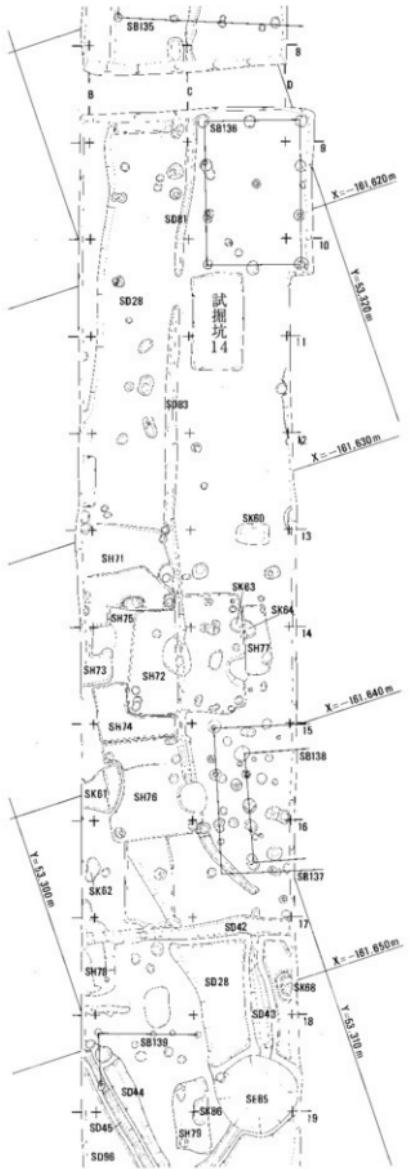


第21図 第1次調査区平面図(1) (1 : 200)



第22図 第1次調査区平面図(2) (1 : 200)

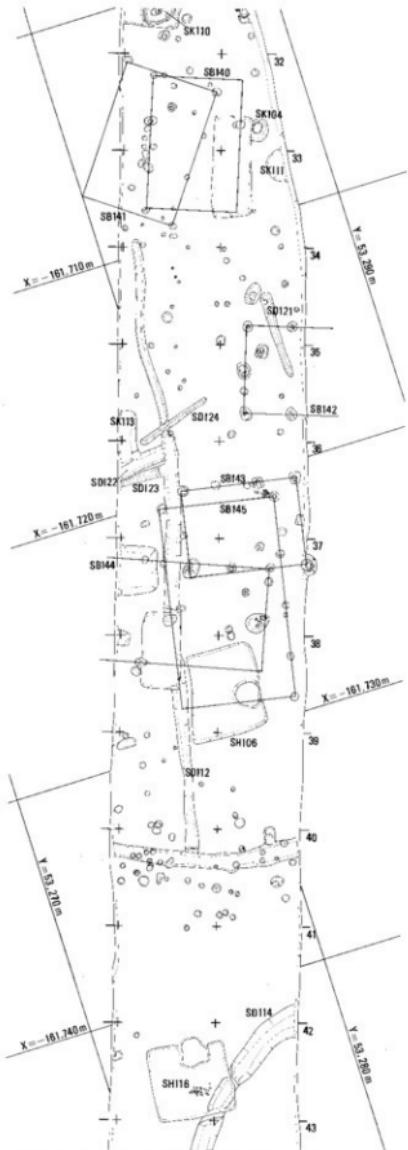
第23図 第1次調査区平面図(3) (1 : 200)



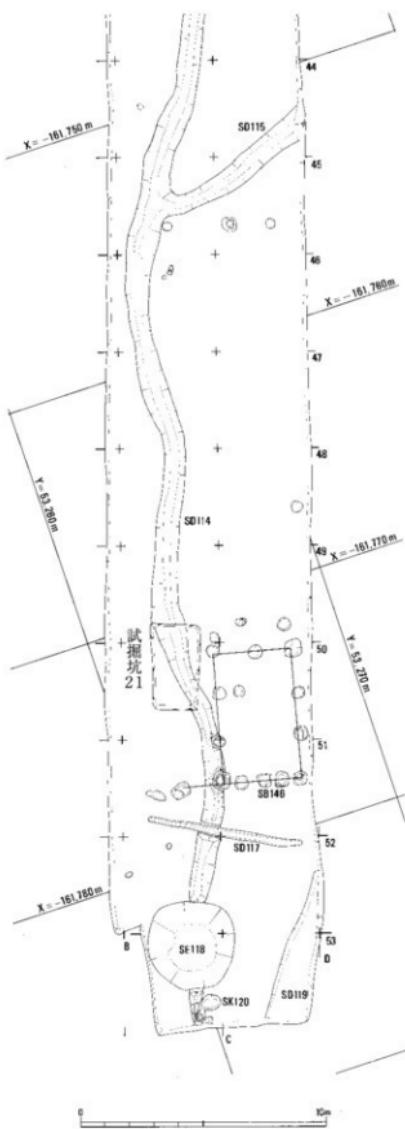
第24図 第1次調査区平面図(4) (1 : 200)



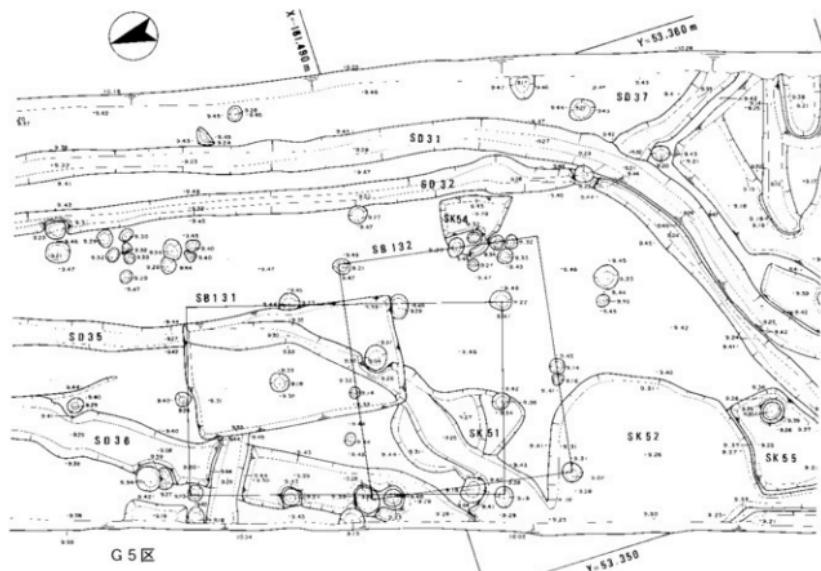
第25図 第1次調査区平面図(5) (1 : 200)



第26図 第1次調査区平面図(6) (1 : 200)

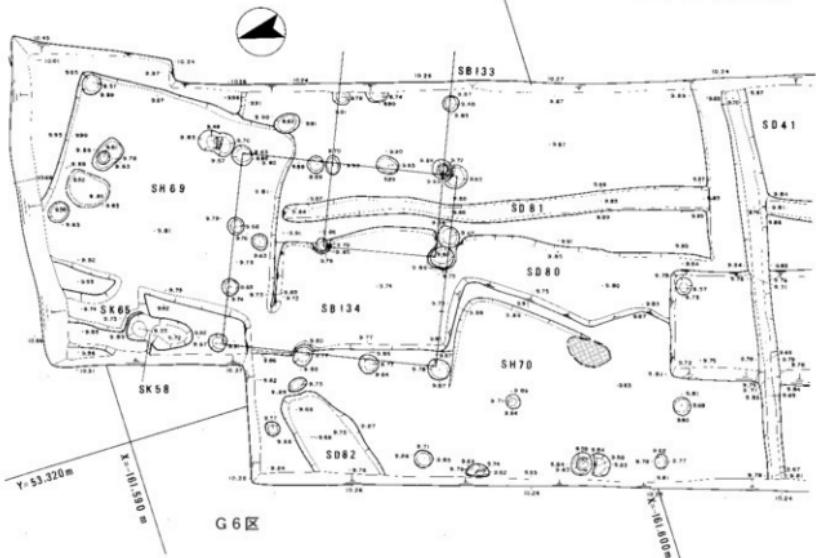


第27図 第1次調査区平面図(7) (1 : 200)



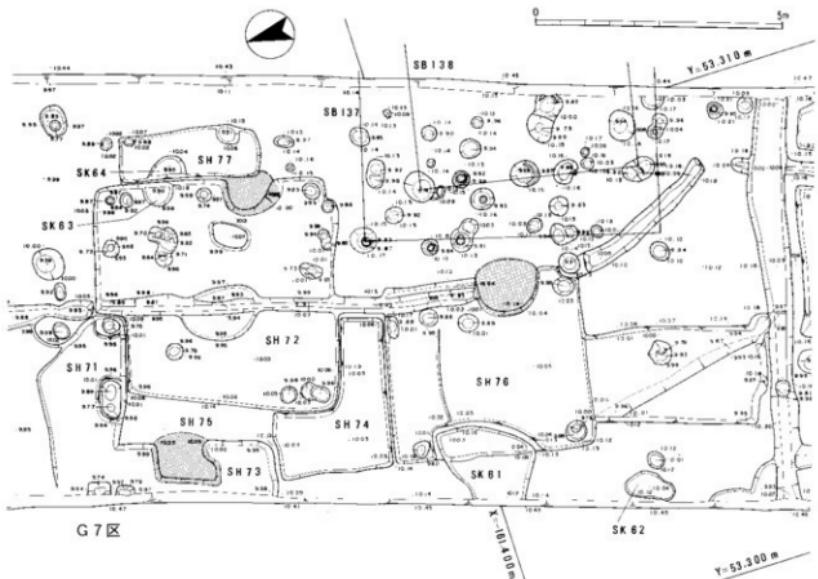
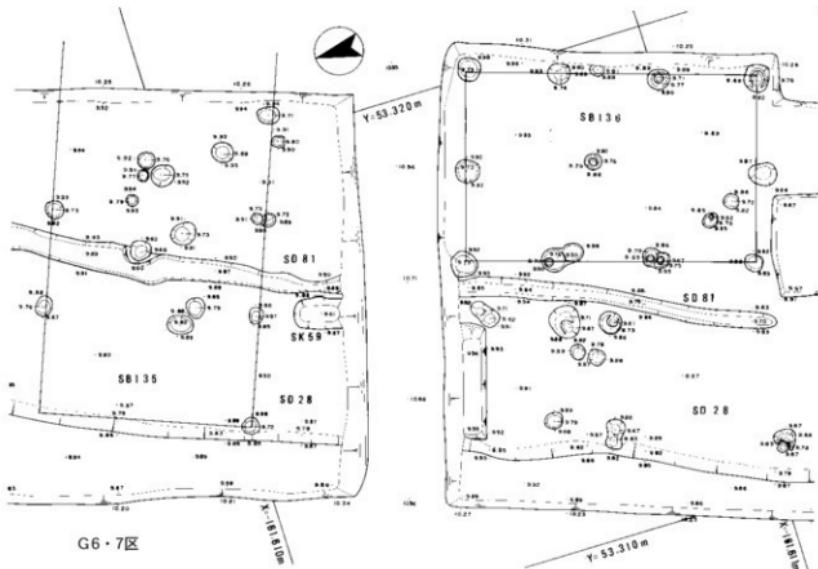
G 5 区

0 5m

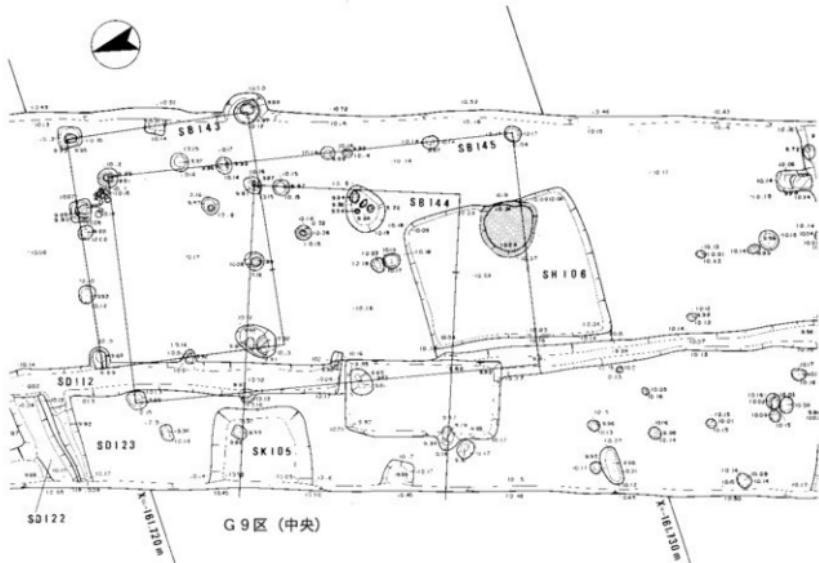
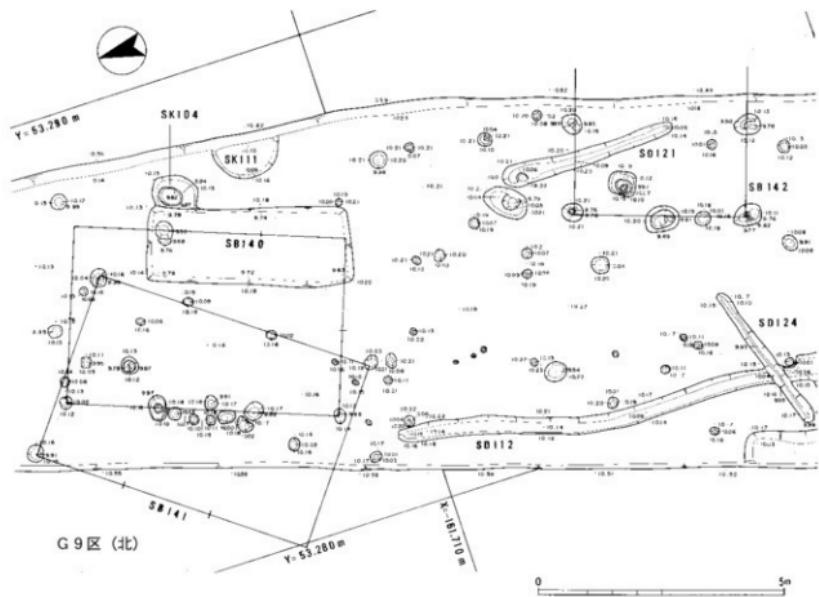


G 6 区

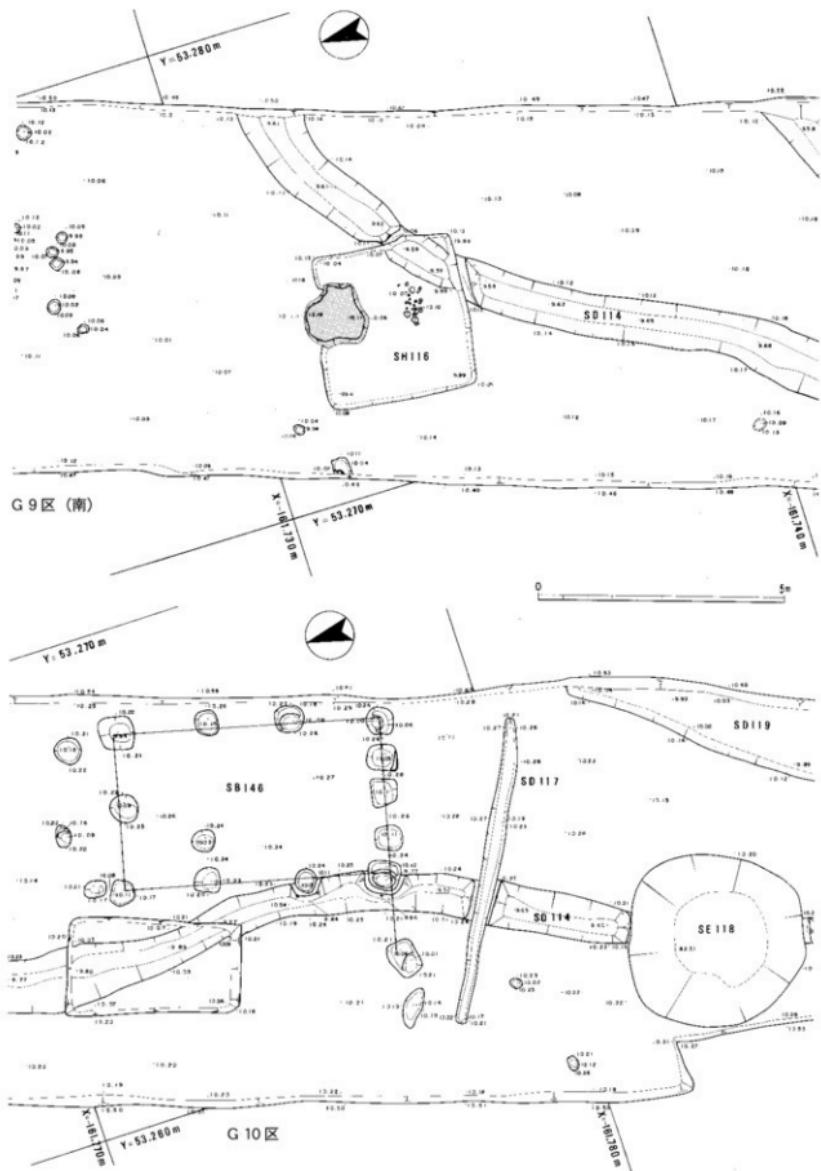
第28図 第1次調査区遺構集中地点詳細図(1) (1 : 100)



第29図 第1次調査区遺構集中地点詳細図(2) (1 : 100)



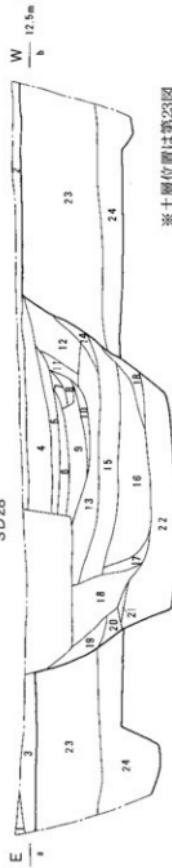
第30図 第1次調査区遺構集中地点詳細図(3) (1 : 100)



第31図 第1次調査区遺構集中地点詳細図(4) (1 : 100)

G4区南壁土層

SD28

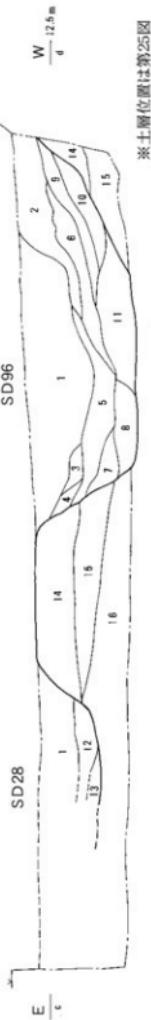


※土層位置は第23図

1. 深灰色土。(礁土)
2. 黄色土。
3. 黑色土混入深灰色土。
4. 深灰色土。(小礫少し含)
5. 深灰色土混入灰黑色土。
6. 黄褐色土。
7. 地上部入灰黑色土。
8. 白色粘質土。
9. 白色粘質土。
10. 黑色粘質土。
11. 黄色土混入深灰色土。
12. 小礫混入灰黑色土。
13. 深灰色土。
14. 黄褐色土。
15. 深灰色土質土。
16. 小礫混入深灰色土。(礁が大きい)(少し)
17. 黄褐色沙質土。
18. 黄褐色沙質土。
19. 黑褐色土質土。
20. 黄褐色土質土。
21. 黄褐色土質土。
22. 小礫混入深灰色土。
23. 黄褐色土質土。
24. 小礫混入深灰色土。

G4区中央土層

SD96



※土層位置は第25図

1. 黄褐色土。
2. 黄褐色土。(礁がブロック混入)
3. 深黄色土(礁少)
4. 黄灰色土。
5. 青灰色土。
6. 暗黒(礁)灰土(礁がブロック混入)
7. 暗灰色砂質土。
8. 淡黄色砂質土(1cm砂粒)
9. 記入繭。
10. 暗灰色砂質土。
11. 暗灰色砂質土(こぶし大礁多い)
12. 黄褐色砂質土。
13. 暗(礁)灰土(礁少)
14. 黑色土(礁少)
15. 黄褐色砂質土。
16. 暗(礁)灰土(礁少)



第32図 第1次調査区大溝SD28・96土層図 (1 : 50)

第7表 琵琶壇内遺跡（第1次）遺構一覧（1）

| 調査番号 | 柱種別 | 地點 | 地区 | グリッド | 座標地図座標 | 特徴・特徴・計測距離など |
|----------|-----|-----|----------|----------|---|--------------|
| SB 1-27 | 軸受柱 | 下明 | G 9 | 306, 018 | N 41° 1' 30" | |
| SB 1-28 | 下明 | G 9 | 306, 012 | | S 41° 1' 40" | |
| SB 1-29 | 上明 | G 9 | 310 | | S 41° 1' 20" | |
| SB 1-30 | 下明 | G 9 | 310 | | S 41° 1' 40" | |
| SB 1-31 | 下明 | G 9 | 310 | | S 41° 1' 20" | |
| SB 1-32 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | N 41° 1' 20" (310, 210, 100-200), N 41° 1' 30" (310, 210, 100-200) | |
| SB 1-33 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | N 41° 1' 30" | |
| SB 1-34 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | N 41° 1' 30" | |
| SB 1-35 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-36 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-37 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-38 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-39 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-40 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-41 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-42 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-43 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-44 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-45 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-46 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-47 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-48 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-49 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-50 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-51 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-52 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-53 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-54 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-55 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-56 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-57 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-58 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-59 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-60 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-61 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-62 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-63 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-64 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-65 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-66 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-67 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-68 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-69 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-70 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-71 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-72 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-73 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-74 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-75 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-76 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-77 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-78 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-79 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-80 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-81 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-82 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-83 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-84 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-85 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-86 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-87 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-88 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-89 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-90 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-91 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-92 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-93 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-94 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-95 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-96 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-97 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-98 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-99 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |
| SB 1-100 | 溝 | 下明 | G 9 | 310 | S 41° 1' 30" | |

第8表 第1次調査区構造一覧(2)

| 通過番号 | 調査次 | 地区 | グリッド | ピット番号 | ピット追跡の時間 | 状物初期 | 400 (400m×400m×底層) | 下極 | J ₁ (%) (底盤) | 備考 |
|---------|-----|------|-----------------------------|--|----------|-------------------|--------------------|-----|-------------------------|----|
| SB 1-31 | 1次 | G 5 | 3B 4A 1B 5A 3B | 4, 5 1, 9 3, 11 2 6 | 平安後期末 | 2(4, 6)×3(6, 6) | | 南北 | N16° E | |
| SB 1-32 | 1次 | G 5 | 1A 4B 3A 2B 5A | 6 8 1 1, 6, 7, 8 1 | | 2(5, 6)×2(4, 4) | | 東西 | N11° E | |
| SB 1-33 | 1次 | G 6 | 3C 4C | 5, 6, 7 1, 3, 5 | | 2(3, 4)×1(2, 6) | | 東西 | N23° E | |
| SB 1-34 | 1次 | G 6 | 2B 3B 3C 4B 4C | 1, 2 3, 4 1, 4, 0, 10 2 2, 4 | | 3(4, 2)×3(4, 8) | | 南北 | N23° E | |
| SB 1-35 | 1次 | G 6 | 7B + C 7B + C | | | 37(6, 8)×27(4, 4) | | 東西 | N21° E | |
| SB 1-36 | 1次 | G 7 | 8C 8D 9C 9D 10D | 1, 2 1 3, 6 2, 3, 4 1 | | 2(4, 6)×3(6, 6) | | 南北 | N17° E | |
| SB 1-37 | 1次 | G 7 | 15B 15C | 1, 4, 10 3, 15 | | 17(2, 6)×3(6, 6) | | 南北? | N16° E | |
| SB 1-38 | 1次 | G 7 | 15B 15C | 6, 17 12, 14 | | ?×2(4, 4) | | 東西? | N14° E | |
| SB 1-39 | 1次 | G 8 | 18B 18C | 1, 1 | | 27(4, 6)×17(2, 4) | ? | 南北? | N14° E | |
| SB 1-40 | 1次 | G 9 | 32B + C 33B | | | 27(3, 6)×3(5, 6) | | 南北 | N21° E | |
| SB 1-41 | 1次 | G 9 | 32 + 33B | | | 2(4, 6)×2(6, 0) | | 南北 | N27° E | |
| SB 1-42 | 1次 | G 9 | 34 + 35B | | | 17(2, 6)×2(4, 4) | | 東西? | N20° E | |
| SB 1-43 | 1次 | G 9 | 36B | 1, 5, | | 3(4, 8)×27(3, 8) | | 東西 | N21° E | |
| SB 1-44 | 1次 | G 9 | 37C | 1, 5, 10 | | 37(5, 2)×2(4, 4) | | 東西 | N22° E | |
| SB 1-45 | 1次 | G 9 | 38B 37C 38C | 3 3, 9 2, 3 | | 27(4, 6)×4(8, 2) | | 南北 | N12° E | |
| SB 1-46 | 1次 | G 10 | 39C 31B 31C | 1, 1, 3, 5, 3 | 悪良? | 2(1, 8)×3(5, 4) | | 南北 | N14° E | |

第9表 第1次調査区掘立柱建物・柱列一覧

3 出土遺物

a 縄文時代の遺物

この時代の土器・土製品が、G 4 区・S D 28を中心にして出土している。これらの多くは、表面が少なからず磨耗を受けており、二次堆積によるものである。おそらく、隣接の台地縁辺部に所在する未知の縄文遺跡から水流によって運搬されてきたものと考えられる。

縄文土器は、中期末から晩期末までの幅がある。定形石器は確認されていない。

中期 口縁部の隆起区画内に横位 2 列の刺突をもつもの（1）と低い隆起上に刺突を施すもの（2）がある。いずれも末葉頃のものであろう。

後期 棒状工具による条線文（3）、巻貝を原体とした凹線文土器（4・5）がある。前者は前葉頃、後者は宮窓式に併行する。6 は小片で不明であるが、低い隆起上に巻貝殻頂による押点を加え、その上には細い沈線、下には凹線または沈線が入る。末葉頃と推定される。

晩期 口縁部がやや外反する深鉢（7～15・18～23）、浅鉢（16）、壺（17）片などの器種に分かれる。このうち深鉢は突帯文を持たないものが目立ち、口唇の刻み目と器面の二枚貝調整に有無の違いはあるものの、大体は後葉の稻荷山式から西之山式頃に位置づけられよう。

18 の器面には「二」ないし「三」の字状の刺突列が巡り、瀬戸内系・谷尻式の影響が窺える。浅鉢は波頂部片で口端が玉縁状となる。壺は口縁内外面に無文の突帯がつき、精製品である。突帯文土器には、西之山式ないし五貫森式（21・22）と後続の馬見塚式（23）がわずかに認められる。

時期不明のもの 20・24 が該当する。20 は口縁部でやや外反して立ち上がる、極薄手の小形深鉢片。半截竹管のような工具で平行線を引き、沈線上や沈線下部にも同一原体先端部の刺突痕が残る。当地域では他に類例を見ないものであり、晩期前半頃の異系統土器であろうか。24 は両端を欠き、橋状把手の一部か、不明な土製品である。横断面が半円形に近く、内面側が平坦に調整されている。おそらく後・晩期に属するものであろう。（奥）

b 遺構出土の遺物

弥生時代以降の出土遺物については、遺構出土遺物と遺構外出土遺物に分けて記述する。

溝 S D 25 出土遺物（25～28） 25 は古墳時代後期頃の小形鉢、26 は奈良時代頃の土師器杯である。27 は古墳時代前期ないし中期頃のミニチュア土器である。28 は短く内彎する高杯か台付壺の脚部と考えられるが、類例がほとんど無い。なお、ここに図示した以外では鎌倉時代の土器が出土しているが、これらがこの遺構の埋土上層部なのか、あるいは上記遺物と混在していたのかどうかはよく分からない。

溝 S D 26 出土遺物（29・30） 29 は弥生時代後期の受口状口縁壺、30 は弥生時代後期末から古墳時代初期頃に見られる、やや内彎する口縁部を呈した壺である。なお、図示した遺物以外にも、奈良時代頃の遺物も出土している。

溝 S D 26・27 出土遺物（31） 31 は古墳時代前期後半に相当する S 字状口縁台付壺（以下、「S 字壺」）で、赤堀次郎氏による分類では D 類に相当し、そのなかでも新しい部類に属する。なお、S D 26・27 からは、奈良時代頃の土器類も出土している。

溝 S D 28 出土遺物（32～39） 32～36 は弥生土器。32 は中期後葉の細縁壺で、外面には簾状文が施されている。35・36 は同じく中期後葉の壺。35 は伊勢地域内でよく見られる形態であり、36 は大形で、近畿地方の影響が見られるものである。37・38 は古墳時代後期後半頃の土師器小形鉢である。39 は奈良時代後半から平安時代初頭頃に見られる志摩式製塙土器である。なお、S D 28 は層位的な状況を観察すると、平安時代まで機能していたとは考えられない。そのため、39 は調査時の誤認による混入と考えるべき遺物である。

溝 S D 29 出土遺物（40～49） 大きく 2 時期のものを見られる。40～42 は古墳時代前期初頭の土器類。41・42 は受口状口縁を呈する壺である。43～45 は古墳時代後期前半頃の土器類。44 は土師器高杯で、脚底部には疑似穿孔ともいえる未貫通の刺突がある。このような事例は、上ノ庄宮ノ腰遺跡（松阪市⁽³⁾）や河田宮ノ北遺跡（鈴鹿市⁽³⁾）など、旧伊勢国内各所で稀に見られる。45 は口縁外面に段を持つもので、外面形は二重口縁を意識しているように見える。46 は

土師器鉢で、内面には円管状工具による刺突が見られ、底部には木葉压痕が見られる。48・49は須恵器蓋杯で、田辺昭三氏による陶邑編年⁽⁴⁾（以下「田辺編年」）のT K47型式に併行するものである。

満 S D 30出土遺物(50・51) いずれも弥生時代中期の土器である。50は壺の体部片で、簾状文が施されている。51は壺で、口縁部外面に刺突文が見える。

満 S D 93出土遺物(52~58) この構造からも、大きく2時期の遺物が出土している。52~56は古墳時代前期中葉頃の土器類。54~56はS字壺で、概ね赤塚分類のC類に相当する。57・58は須恵器。58は壺で、外面には沈線の間に綾杉状に刺突文が施されている。いずれも田辺編年のT K23型式に併行し、古墳時代中期から後期初頭に相当する。

落ち込み S Z 98出土遺物(59~88) S Z 98はS D 97の一部と考えられ、とくに古墳時代前期中葉の土器類が一括廃棄状態で出土している。

59~66は小形器台。脚部に横方向のミガキが施される66は近畿地域からの搬入品かと思われる。それ以外のものは縱方向を基調としたミガキであり、東海地域通有の手法である。65は受部口縁が小さく、長めの脚柱部を有した異質なもの。67~70は高杯。いずれも脚部が広がる形態で、内擣するものは見あたらない。67は小形で、椀形の杯部をなすものと考えられる。71・72は小形の鉢。71は外面に煤が付着しており、煮沸具として使用されている。

73~81は壺。73~75は東海地域に通有の形態で、口縁部外面や体部外面上半に櫛齒状工具による刺突文・横線文・波状文などを施すもの。76~79は二重口縁壺。76~78は伊勢通有の形態。77・78は同一個体かも知れない。79は頸部が直立し、口縁屈曲部が水平な擬口縁となる。これらの要素は近畿地方の影響を受けたものと考えられるが、口縁・体部のミガキ調整は縱方向を基調とした東海地域通有の手法であり、搬入品とは考えにくい。

82~88はS字壺。82・84は赤塚分類のB類に相当するが、83・85・87はC類、86・87はC類からD類にかけての特徴を有している。

満 S D 97出土遺物(89~101) 89は小形器台、90は高杯の脚部である。91は口縁部が内擣する壺で、いわゆる瓢壺。92は小形壺で、内面にベンガラが付

着する。93は壺の底部。94は壺で、口縁部内面にはヘラ描の記号ないしは絵画が見られる。95は口縁部外面に鋸歯文を施した壺で、頸部突帯上の刺突文とその下の横線文とは同一原体で施されている。これらは概ね古墳時代前期前半に相当する。

99は小形丸底壺で、古墳時代前期後半のもの。100は土師器小形鉢、101は須恵器杯身で、いずれも古墳時代後期に相当するものである。98は砂岩製の磨石で、側面にも研磨痕が見られる。所属時期は不明だが、古墳時代前期前半頃のものと思われる。

土坑 S K 56出土遺物(102・103) 102は土師器小形鉢、103は土師器瓶で、いずれも古墳時代後期前半頃のものである。

満 S D 88出土遺物(104~106) 104・105は土師器小形鉢。106は丸底の土師器類壺。いずれも古墳時代後期前半頃のものである。

竪穴住居 S H 69出土遺物(107~109) いずれも土師器で、古墳時代後期前半頃のものである。107は丸底の土師器壺で、口縁部は丸みを帯びており、布留系壺の影響が残っている。108は台付壺でS字壺からの伝統を引き継ぐもの。体部外面上半には棒状工具による沈線が施文風に施されている。109は壺で、台付壺と同様の手法によるものである。

竪穴住居 S H 70出土遺物(110~114) いずれも古墳時代後期初頭頃のもの。110は須恵器杯身、111は須恵器長頸壺。111の長頸壺は口縁部と体部に波状文が見られる。いずれも田辺編年のT K 47型式に併行する。112~114は台付壺。

竪穴住居 S H 72出土遺物(115~118) いずれも土師器壺類で、奈良時代前半のものと考えられる。116は体部が張らない。

竪穴住居 S H 73出土遺物(119・120) 119は平城京分類⁽⁵⁾（以下、「都城分類」）の土師器杯C、120は土師器壺で、いずれも奈良時代前半のものである。

竪穴住居 S H 74出土遺物(121) 奈良時代後半頃の土師器壺を図示した。

竪穴住居 S H 76出土遺物(122) 図示したのは土師器瓶である。調整方法から、奈良時代のものと考えられる。

竪穴住居 S H 106出土遺物(123~127) 123は土師器杯A、124は杯B、125~127は皿Aである。蓋宮

⁽⁶⁾跡における編年のⅠ期第3段階(以下、「斎宮Ⅰ-3」と表記)に相当し、奈良時代前半頃のものである。

井戸 S E 118出土遺物(128~133) 128は須恵器杯蓋。129~132は土師器壺類で、132は底部が平底となる珍しいもの。133は須恵器横瓶である。奈良時代前半頃のものである。

井戸 S E 85出土遺物(134~145) まとまった土器類が出土しており、概ね奈良時代前半頃のものである。134は須恵器杯蓋、135は須恵器壺Kに相当する。136は土師器杯ないしは皿で、底部には墨書きがあるが、小片のため内容は分からぬ。137は土師器の小形横瓶で、底部には円形の穿孔が見られる。須恵器横瓶を模したと考えられ、珍しい。138~144は土師器壺で、口縁部外面に面を有するが、口縁端部は上方に突出しないものである。145は土師器把手付鍋で、把手部は体部内外面の調整後に穿孔し、挿入付加するものである。

土坑 S K 52出土遺物(146~156) 2時期の土器が出土している。146~155は平安時代前期初頭、156は古墳時代後期前半のもの。156は土師器高杯で、杯部が楕形を呈するものである。S K 52のベース土であるS D 29埋土にあった遺物を誤認して取り上げたものと考えられる。146~148は須恵器蓋杯。149・150は土師器杯Aで、斎宮Ⅱ-1・2に相当する。151は土師器皿。152は須恵器短頸壺。153・154は土師器壺、155は把手付鍋である。

土坑 S K 58出土遺物(157) 157は土錘。S K 58の出土遺物は少なく、時期比定が困難であるが、奈良時代から平安時代前期にかけての時期と判断した。

土坑 S K 120出土遺物(158) 土師器杯Gを図示した。底部外面には、方形区画内に「×」字状を描くヘラ記号が見られる。概ね奈良時代前半頃のものと考えられる。

土坑 S K 51・溝 S D 35出土遺物(159~170) ここで示した遺物は、S K 51とS D 35との重複地点から出土した。いずれの遺構とも判断しがたいが、後述するS D 35出土土器と時期的には大きな差がない。

159~164は土師器杯A、164は皿Aである。159の底部外面には「下厨前」、160には「厨前」の墨書きが見られる。いずれも斎宮Ⅰ-4頃のもので、都城

編年では長岡京期前後のものと考えられる。165は高杯で脚部が短いものであり、斎宮Ⅱ-1以降とは考えにくい。杯部外面には星形のヘラ記号がある。166は須恵器四耳壺で、精緻な土器である。167~170は土師器壺類。これらの土器類は、概ね奈良時代末から長岡京期に併行するものであろう。

溝 S D 35出土遺物(171~183) 171・172は土師器杯Aで、斎宮Ⅰ-4にあたる。172の底部外面には「酒」の墨書きがある。173・174は土師器皿A。173は斎宮Ⅰ-4、174は斎宮Ⅱ-1にあたる。174の外面には、少し見にくくが「厨前」の墨書きが見られる。175は高杯であるが、杯部が杯Aに類した形態をなす異質なもの。176~179は須恵器蓋杯類。素地粘土の特徴から、176・178は美濃須衛産の可能性がある。179・180は土師器壺、181・182は把手付鍋で、いずれも挿入付加により把手が付けられている。183は平安時代後期後葉頃(南伊勢中世I a期)^[7]の土師器壺で、他の遺物とは所属時期が大きく異なる。

溝 S D 36出土遺物(184~185) 184は須恵器壺Kで、底部外面に「キ」字状のヘラ記号がある。185は土師器壺である。概ね奈良時代中頃のものである。

溝 S D 31出土遺物(186~190) 186は土師器杯A。内面底部・内面口縁部・外面底部の3箇所に「×」字状のヘラ記号がある。内面底部には螺旋状の暗文が見えるが、口縁部の暗文は明確でない。187も土師器杯A。188は土師器皿A。土師器杯類は概ね斎宮Ⅰ-2・3に併行すると見られる。189は須恵器蓋、190は土師器壺である。

溝 S D 31・32出土遺物(191) S D 31とS D 32の重複地点から出土したもの。図示したのは斎宮Ⅰ-3・4頃の土師器杯Aである。

溝 S D 31・34出土遺物(192) 同じく両遺構の重複地点から出土したもの。192は土師器壺で斎宮Ⅰ-4からⅡ-1あたりの時期に相当する。

溝 S D 32出土遺物(193~202) 193は土師器皿A。底部外面にヘラ記号がある。これと同種のヘラ記号が斎宮跡からも出土している^[8]。斎宮Ⅰ-4に相当する。194は土師器高杯。195~201は土師器壺。体部の張った丸底を呈すると考えられる201は、斎宮Ⅰ-3前後の時期に見られる。202は土師器把手付鍋で、斎宮Ⅱ-1頃のものである。

溝 S D32・S K54出土遺物(203・204) 2遺構の重複地点から出土したもの。203は土師器杯A、204は皿Aで、斎宮II-1に相当する。

土坑 S K54出土遺物(205) 土師質土器(ロクロ土師器)椀である。平安時代後期末(中世南伊勢Ia期)のものである。

溝 S D43出土遺物(206) 土師器把手付鍋ないしは鉢である。奈良時代の範疇で把握できる。

溝 S D48出土遺物(207・208) 207は須恵器杯で、古墳時代後期末から飛鳥時代にかけてのもの。208は土師器壺で、奈良時代前期と考えられる。

溝 S D33出土遺物(209~216) 2時期のものがあり、209・213は古墳時代中期から後期、それ以外は奈良時代のものである。209は土師器小形鉢、213は土師器壺である。210は土師器杯A、211は土師器皿Aで、斎宮I-2頃、都城編年では平城II頃に併行するものであろう。212は土師器高杯の脚部、214・215は土師器壺。216は把手を欠損するものの、形態から見て把手付鍋と考えられる。

溝 S D34出土遺物(217~221) 2時期のものがある。217は古墳時代後期前半の土師器台付壺。218は灰釉陶器瓶、219は須恵器杯Aである。220は土師器杯Aで、斎宮II-3に相当する。221は土師器把手付鍋で、220よりはやや古い時代のものと考えられる。

溝 S D21出土遺物(222・223) 2時期のものがある。222は須恵器壺で、古墳時代後期のもの。223は土師器鍋で、南伊勢中世IIa期に相当し、13世紀前半頃のものである。

G 5区5Bグリッドpit2出土遺物(224) 土師器杯Aで、斎宮I-4頃のものである。

掘立柱建物 S B131出土遺物(225~228) 図示したのは、S B131を構成するピットから出土した土器である。225・226は土師器杯Aで、斎宮I-4に相当する。226の底部外面には「駒酒」の墨書きがある。先述のS K51・S D35がこの遺構と重複しており、そこからの混入と考えられる。227は土師器皿で、南伊勢中世Ia期に相当し、12世紀初頭から中頃のものである。228は陶器椀(山茶椀)である。S B131の時期を示す遺物は227・228と考えてよい。

遺構外出土遺物(229~294) 遺構に伴わない遺物

をここにまとめる。

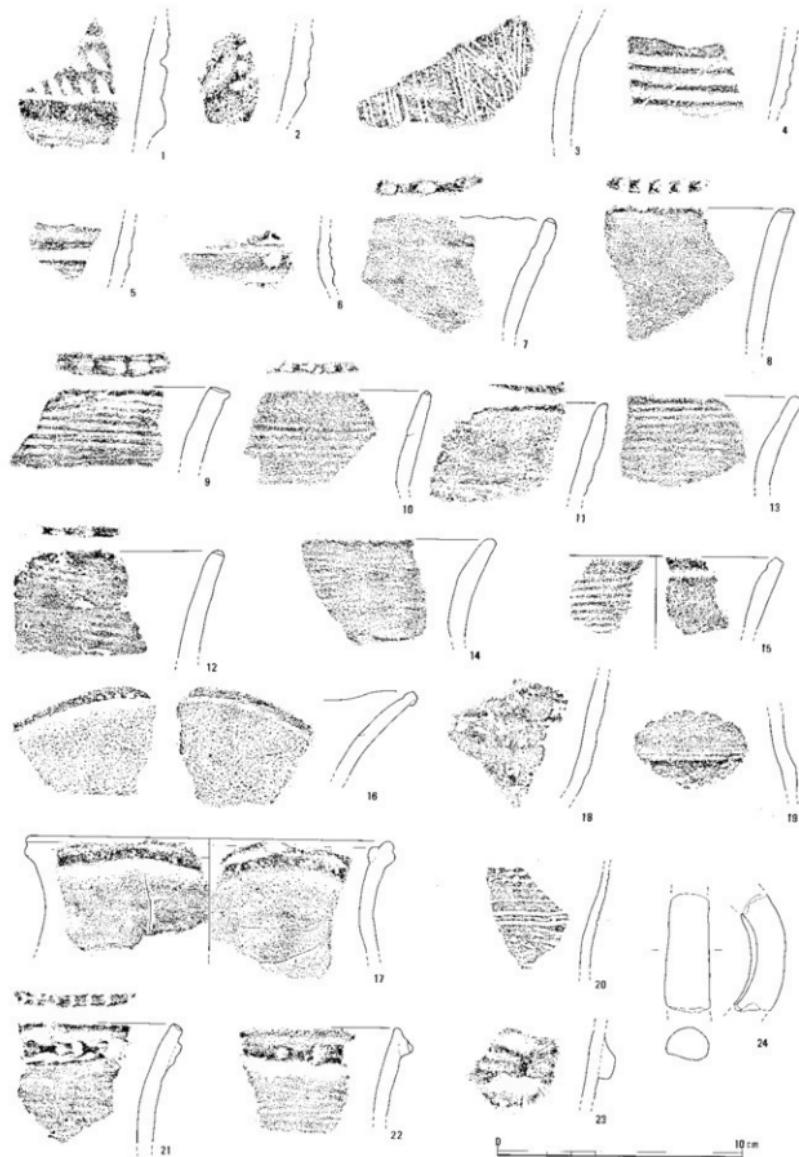
229~234は試掘調査時出土の土器。234は古墳時代後期の須恵器壺の形態であるが、素地の状況は「生焼け須恵器」とも言い難いほど土師器に近い。

235~249はG 1区、250~257はG 2区、258~262はG 3区出土である。弥生時代中期(263)、弥生時代後期末頃(235)のものもあるが、古墳時代後期・奈良時代・平安時代後期末から鎌倉時代中期の土器が中心である。259は奈良時代末期頃の土師器杯片で、底部外面に「仁田」の墨書きがある。

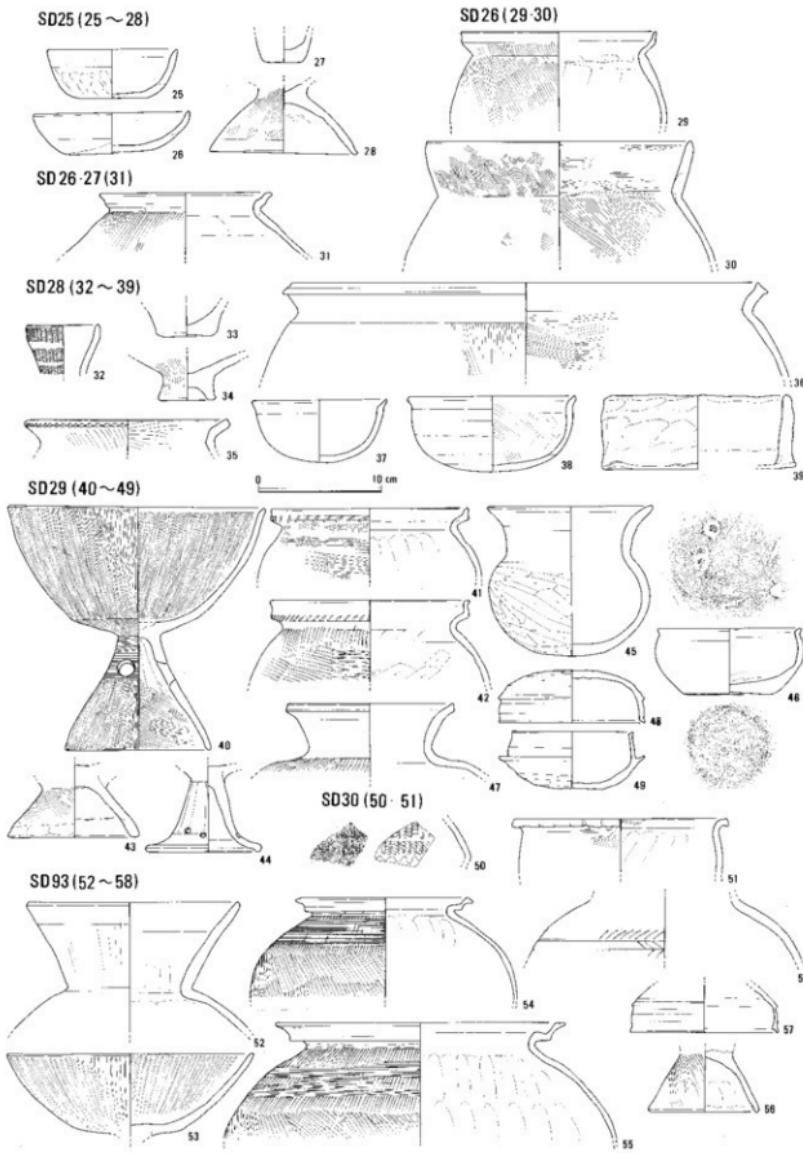
263~294はG 5区からG 9区にかけての調査区から出土したもの。古墳時代前期(284~287)および古墳時代後期(288~291・293)のものは、G 8区付近に集中する。この他では、奈良時代前後のものが万遍なく出土している。273は須恵器杯Bと考えられるが、焼きが甘く、土師質を呈している。292は土製紡錘車の円盤部と考えられる。 (伊藤)

<註>

- (1) 赤塚次郎「廻間式土器」(『廻間跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990年)
- (2) 三重県埋蔵文化財センター「宮ノ腰跡発掘調査報告」(1997年)
- (3) 三重県埋蔵文化財センター「河曲の跡跡」(2004年)
- (4) 田辺昭三「須恵器大成」(角川書店 1981年)
- (5) 都城編年と分類については、古代の土器研究会編『古代の土器 I・都城の土器集成』(1992年)を参照した。
- (6) 斎宮歴史博物館「斎宮跡発掘調査報告」I (2001年)
- (7) 中世の時期区分は、伊藤裕輔「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」(『関東・東海における中世土器(煮炊具)の最近における研究成果』静岡大学 2005年)に據る。
- (8) 斎宮歴史博物館「史跡斎宮跡平成14年度発掘調査概報」「第7次調査」 2004年)

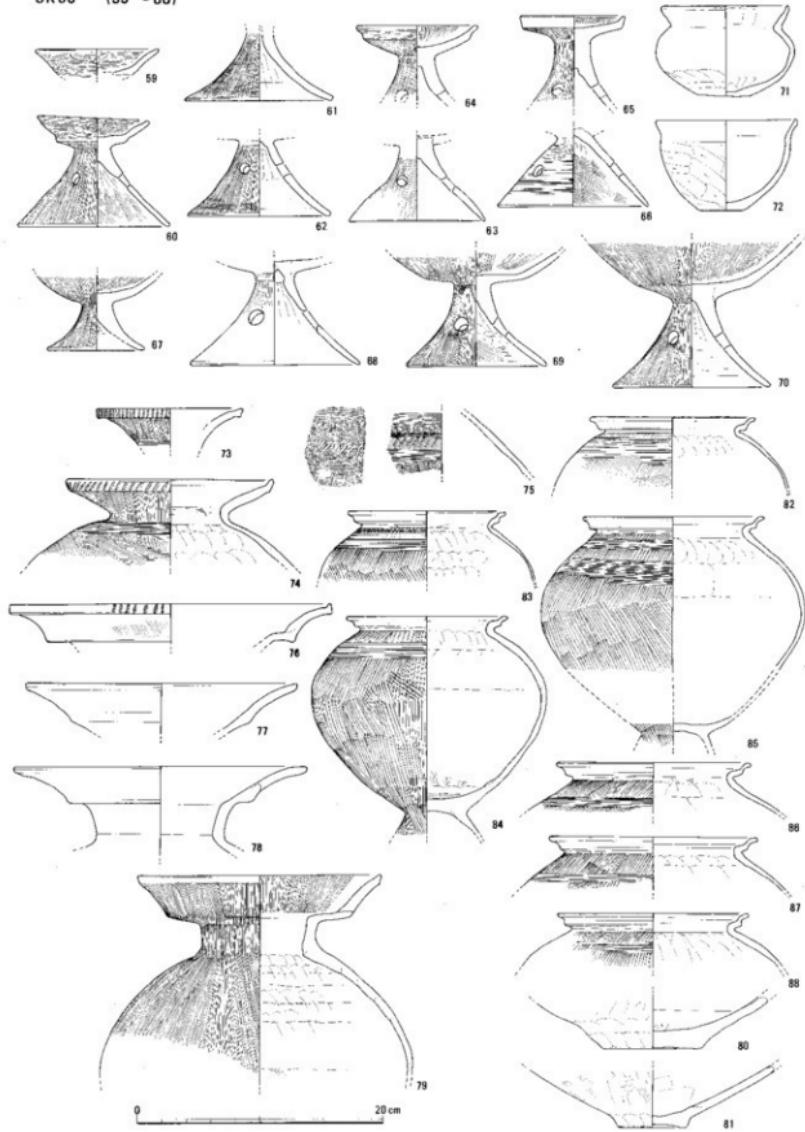


第33図 第1次調査区出土遺物 (1) 繩文土器 (1 : 2)

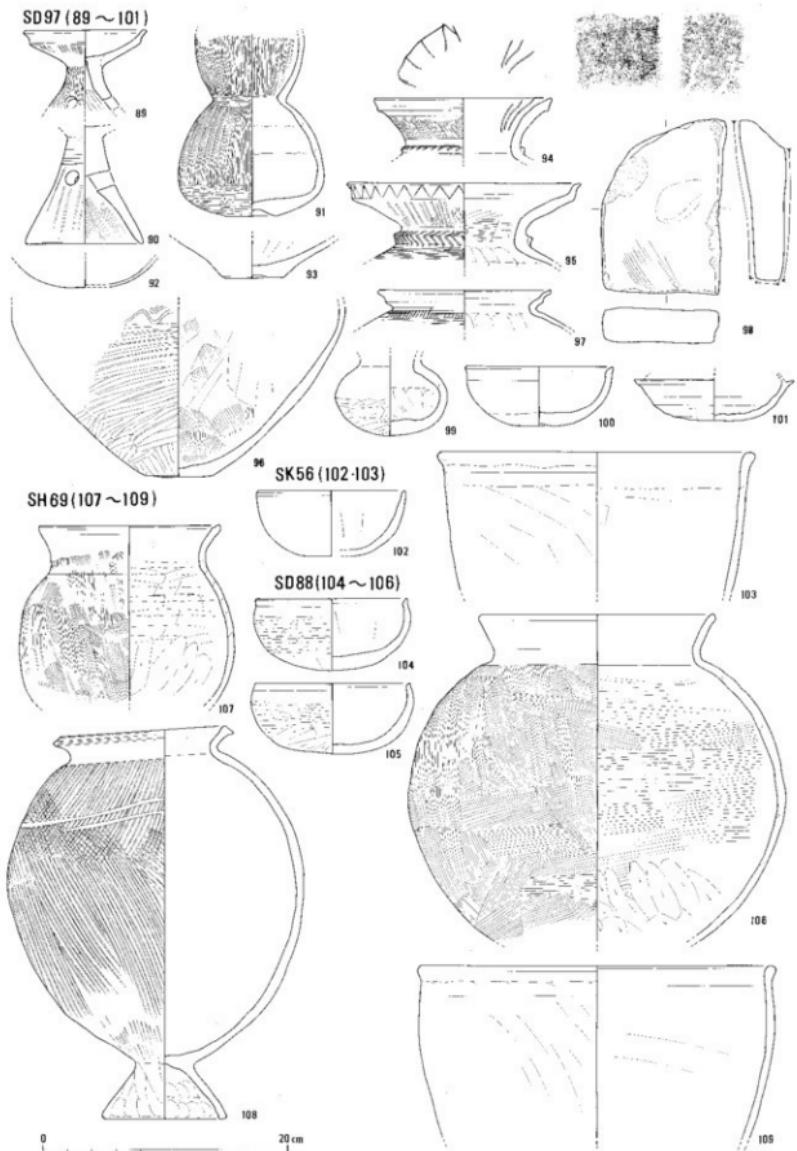


第34図 第1次調査区出土遺物 (2) (1 : 4)

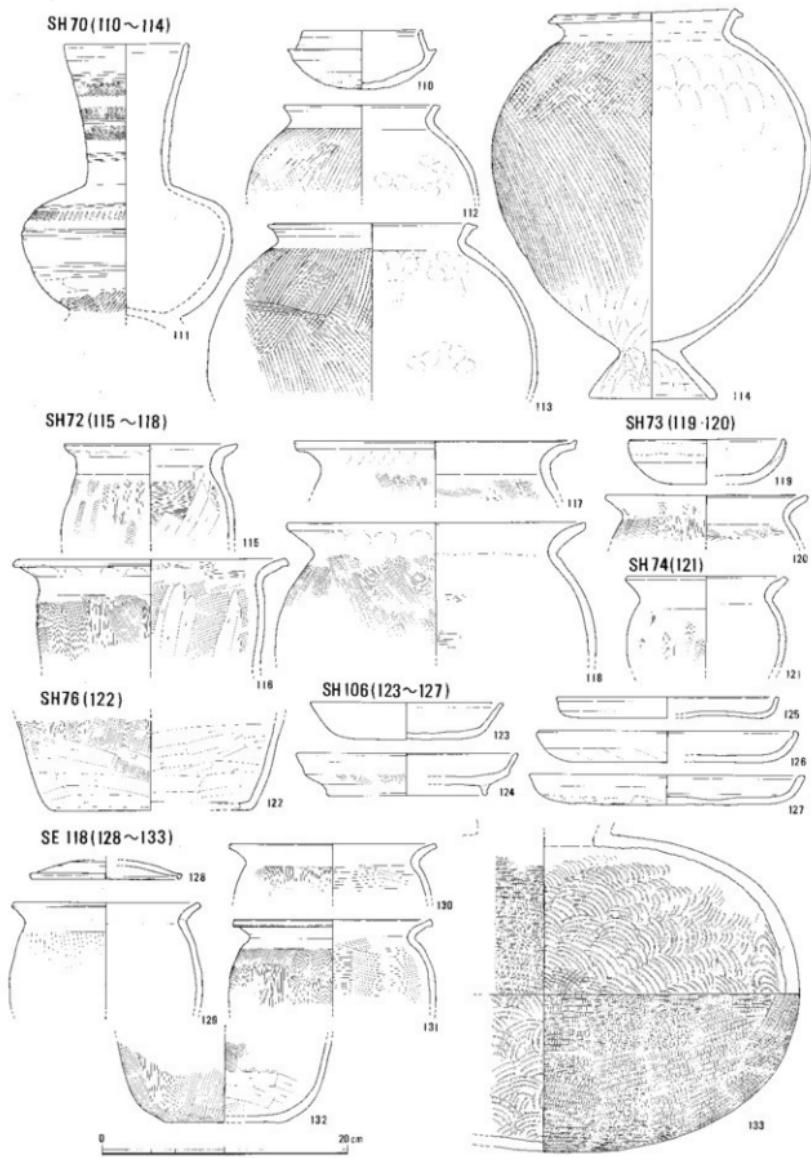
SK98 (59 ~ 88)



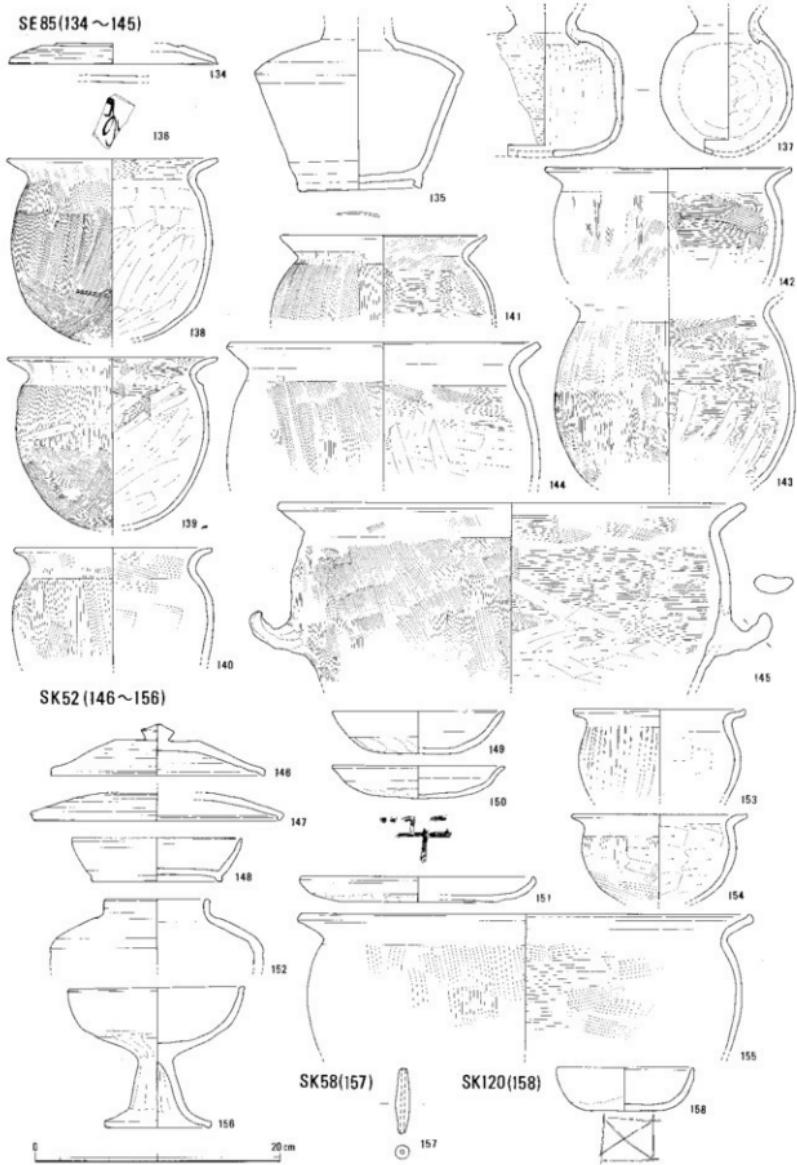
第35図 第1次調査区出土遺物（3）（1：4）



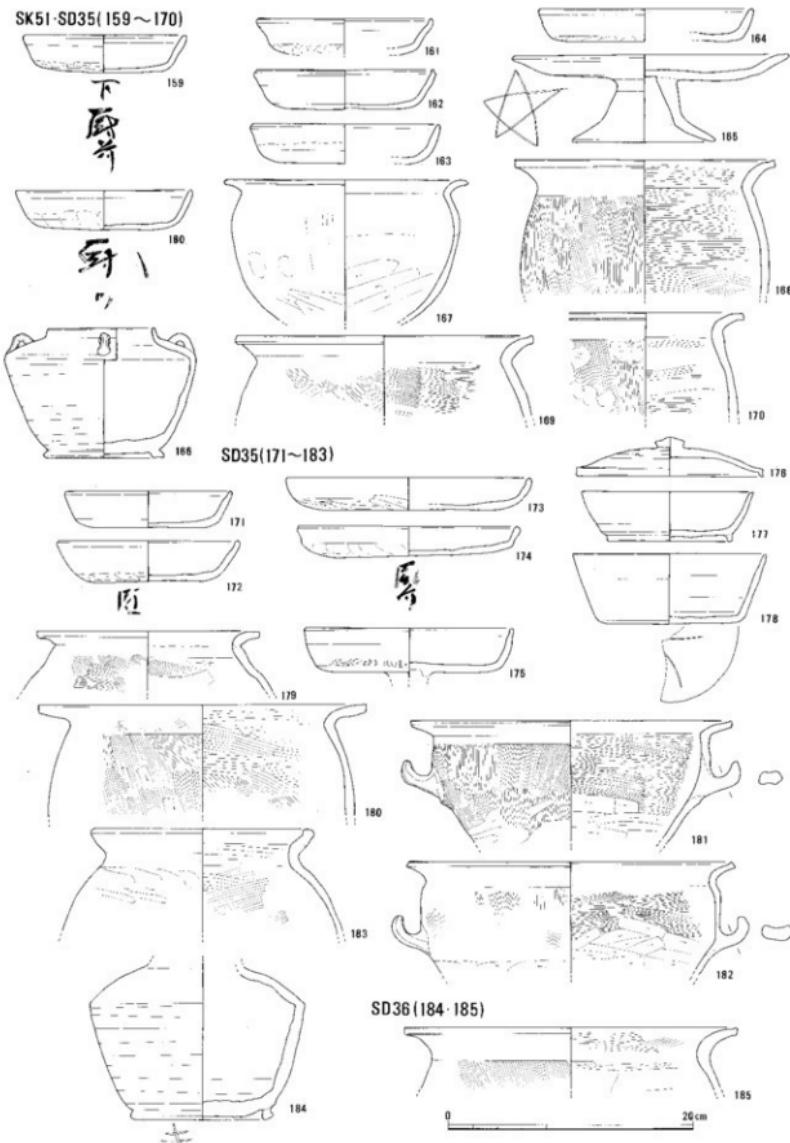
第36図 第1次調査区出土遺物(4) (1 : 4)



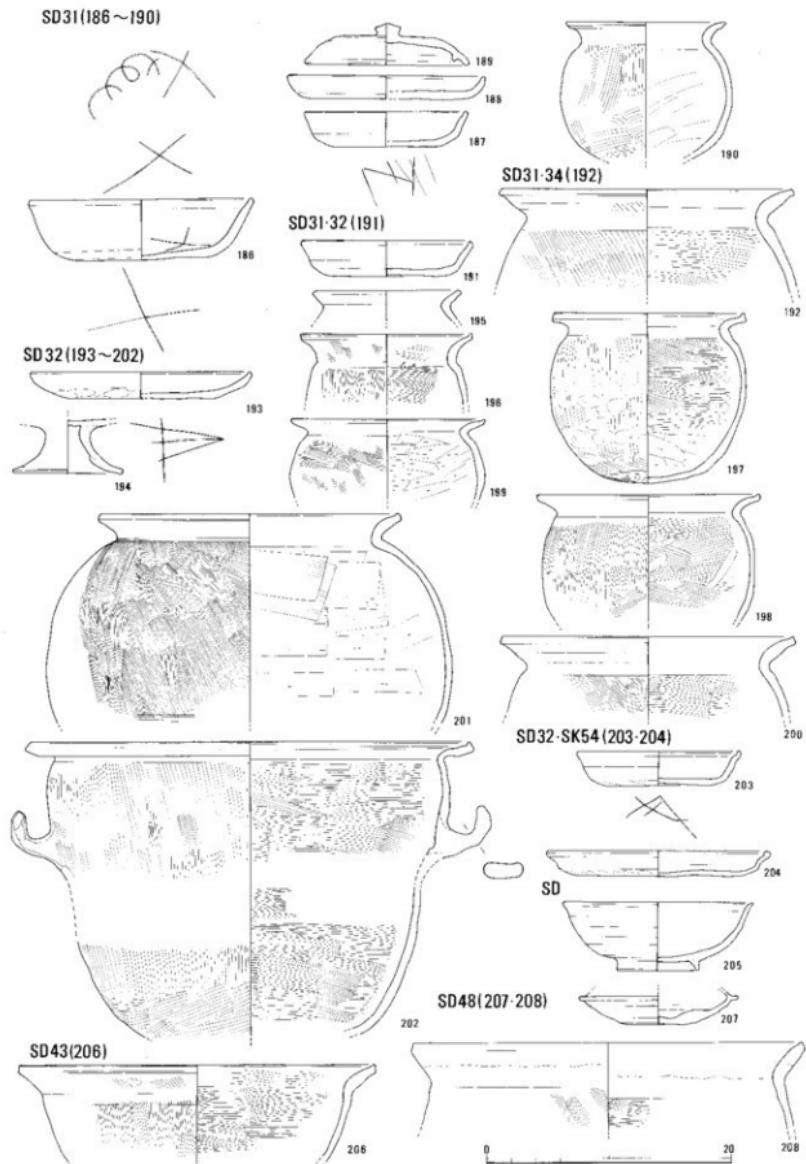
第37図 第1次調査区出土遺物 (5) (1 : 4)



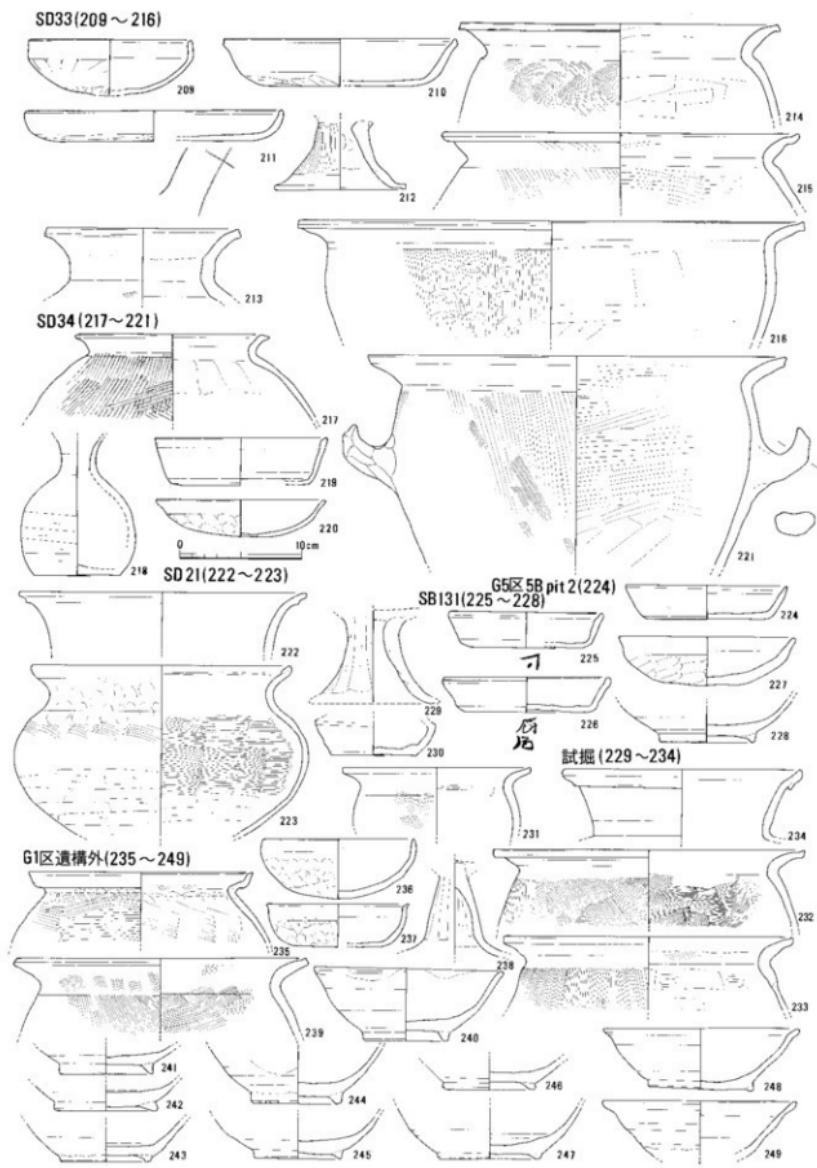
第38図 第1次調査区出土遺物(6) (1:4)



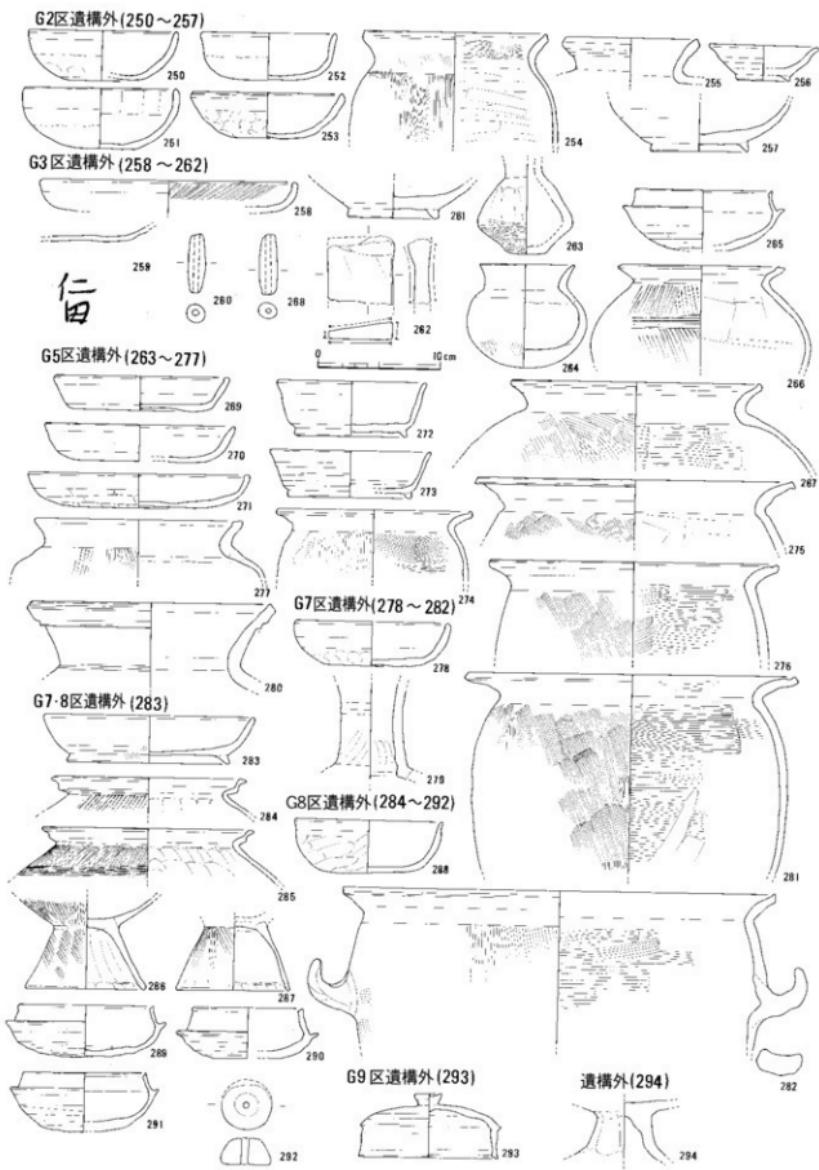
第39図 第1次調査区出土遺物(7) (1:4)



第40図 第1次調査区出土遺物 (8) (1 : 4)



第41図 第1次調査区出土遺物 (9) (1 : 4)



第42図 第1次調査区出土遺物 (10) (1 : 4)

| 序号 | 发现位置 | 层位 | 器物名称 | 特征 | 时代 | 质地 | 保存状况 | 特征字眼 |
|----|------|------|------|-------|----------|---------|---------|----------------|
| 1 | 6601 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | 黑 | 灰陶·素面 | 体薄·中腹凸起 |
| 2 | 6602 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | 黑 | 灰陶·素面 | 体薄·中腹凸起 |
| 3 | 4703 | 西汉上层 | 陶盆 | G6 | 1203 | S1044 | 黑 | 灰陶·素面 |
| 4 | 5601 | 西汉上层 | 陶盆 | G8 | 170 | S1042 | — | 黑·素面 |
| 5 | 5603 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 6 | 5754 | 西汉上层 | 陶盆 | G5 | S1029 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 7 | 5755 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 8 | 6603 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 9 | 6607 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 10 | 8750 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 11 | 8751 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 12 | 5604 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 13 | 5756 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 14 | 5758 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1029 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 15 | 6606 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 16 | 8751 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 17 | 5603 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体厚·深腹·带盖·带耳·素面 |
| 18 | 5605 | 西汉上层 | 陶盆 | G8 | 170 | S1042 | — | 黑·带耳·带盖 |
| 19 | 5603 | 西汉上层 | 陶盆 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 20 | 6706 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 21 | 6606 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 22 | 5607 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 23 | 5603 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 24 | 5606 | 西汉上层 | 陶盆 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 25 | 6603 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 26 | 6102 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1025 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 27 | 6103 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1025 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 28 | 5104 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1025 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 29 | 5003 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 30 | 5601 | 下层壁 | 罐 | G1~3 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 31 | 6603 | 下层壁 | 小陶罐 | G1~3 | S1028~21 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 32 | 4701 | 生土上层 | 陶罐 | G1~3 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 33 | 6106 | 生土上层 | 陶 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 | |
| 34 | 1001 | 下层壁 | 陶 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 | |
| 35 | 4903 | 生土上层 | 陶 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 36 | 1001 | 生土上层 | 陶 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 | |
| 37 | 1003 | 下层壁 | 小陶罐 | G1 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 38 | 1002 | 下层壁 | 小陶罐 | G4 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 39 | 6106 | 上层灰 | 陶罐 | G4 | 100 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 |
| 40 | 4901 | 生土上层 | 陶罐 | G5 | 100 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 |
| 41 | 1003 | 生土上层 | 陶罐 | G5 | 100 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 |
| 42 | 6401 | 下层壁 | 小陶罐 | G5 | S1028 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |
| 43 | 2906 | 下层壁 | 小陶罐 | G5 | S1029 | — | 黑·带耳·带盖 | 体薄·浅腹 |

第10表 第1次調查区出土遺物觀察表(1)

第11表 第1次調査区出土遺物観察表（2）

| 番号 | 発見場所 | 種類 | 事象など | 地名 | 年月日 | 遺物・防護物 | 性質 | 使用 | 色調 | 保存状況 | 備考 | |
|-----|------|------------|------|--------|---------|--------|-------------------|-------------------|----------|----------|--------------|---------------|
| 98 | 十郷西 | 骨器 | G8 | 25C-7E | SK988 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 淡青灰 | 良保1/12 | 小字盤・灰 | |
| 99 | 309 | 十郷西 | 骨器 | G8 | 24C | ST97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 淡青 | 良保1/12 | 3.3.25.4.4. |
| 100 | 103 | 佐生・笠 | 瓦件 | G8 | 21B | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 淡青・紺・淡青灰 | 高保1/12 | 3.3.25.4.4. |
| 101 | 209 | 十郷西 | 墨 | G8 | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保存分 | | |
| 102 | 109 | 上郷西 | 墨 | G8 | 28C-27C | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/2 | 外側に墨、内側にシミ付、墨 |
| 103 | 100 | 上郷西 | 墨 | G8 | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/2 | 墨 | |
| 104 | 249 | 十郷西 | 墨 | G8 | ST97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に内面に線の付? | |
| 105 | 478 | 十郷西 | 墨 | G8 | 21C | ST97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 淡青・碧緑・紺 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり |
| 106 | 198 | 佐生・笠 | 墨 | G8 | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり | |
| 107 | 102 | 十郷西 | 骨 | G8 | 28C-27C | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり |
| 108 | 329 | 新の 利用施設 | G8 | 24D | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/2 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり | |
| 109 | 180 | 上郷西 | 小吹桐 | G8 | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり | |
| 110 | 303 | 十郷西 | 小吹桐 | G8 | SL97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | | |
| 111 | 303 | 新の 利用施設 | 都心 | G8 | 25B | ST97 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり |
| 112 | 99 | 上郷西 | 小吹桐 | G5 | 8B | SL95 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | |
| 113 | 99 | 十郷西 | 墨 | G8 | SL95 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | | |
| 114 | 59 | 上郷西 | 小吹桐 | G8 | SL95 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | | |
| 115 | 59 | 上郷西 | 小吹桐 | G8 | SL95 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | | |
| 116 | 59 | 上郷西 | 小吹桐 | G8 | SL95 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | | |
| 117 | 310 | 十郷西 | 墨 | G8 | 24B | ST98 | C-13.6 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | |
| 118 | 659 | 十郷西 | 墨 | G8 | SC | SH99 | C-13.7 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | |
| 119 | 301 | 上郷西 | 右付木 | G8 | 3C | SL99 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり |
| 120 | 699 | 十郷西 | 墨 | G8 | SL99 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑・灰青 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁に墨の朱文あり | |
| 121 | 102 | 102 | 右付木 | G8 | AC | SH100 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 外側に墨縁付・自然縫合 |
| 122 | 90 | 酒水井 | 右付木 | G8 | AC | SH100 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 123 | 102 | 十郷西 | 墨 | G8 | 4C | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 小字盤・灰 |
| 124 | 170 | 十郷西 | 墨 | G8 | SC | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 小字盤・灰 |
| 125 | 111 | 上郷西 | 右付木 | G8 | DC | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 126 | 699 | 上郷西 | 墨 | G8 | DC | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 127 | 122 | 上郷西 | 墨 | G8 | 14B-2 | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 128 | 699 | 上郷西 | 墨 | G8 | 14B-2 | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 129 | 380 | 上郷西 | 墨 | G7 | 14B-2 | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 130 | 129 | 十郷西 | 墨 | G7 | 14B-2 | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 131 | 350 | 十郷西 | 墨 | G7 | 14B | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 132 | 699 | 上郷西 | 墨 | G7 | 14B | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 133 | 699 | 十郷西 | 墨 | G7 | 14B-2 | SH102 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 134 | 699 | 上郷西 | 墨 | G7 | 15C | SH109 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁に墨縁付・自然縫合 |
| 135 | 250 | 上郷西 | 新A | G9-10 | 3BC | SH1108 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁の為、墨縁不鮮明 |
| 136 | 350 | 十郷西 | 墨A | G9-10 | 3BC | SH1106 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁の為、墨縁不鮮明 |
| 137 | 699 | 十郷西 | 墨A | G8 | 3BC | SH1106 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 墨縁の為、墨縁不鮮明 |
| 138 | 702 | 上郷西 | 墨A | G9-10 | 3BC | SH1106 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 墨縁の為、墨縁不鮮明 |
| 139 | 699 | 十郷西 | 墨A | G9 | 3BC | SH1109 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | |
| 140 | 679 | 上郷西 | 墨A | G10 | 23D | SH1118 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨 | 良保1/12 | 内側に墨縁付・自然縫合 |
| 141 | 380 | 十郷西 | 墨 | G10 | 23D | SH1118 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 内側に墨縁付・自然縫合 |
| 142 | 699 | 十郷西 | 墨 | G10 | 23D | SH1118 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 小吹桐 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 内側に墨縁付・自然縫合 |
| 143 | 131 | 十郷西 | 墨 | G10 | 23D | SH1118 | C-13.8 | ヒョウノ骨、内側有凹部、外側有凸部 | 書 | 墨縁・碧緑 | 良保1/12 | 内側に墨縁付・自然縫合 |

第12表 第1次調査区出土遺物観察表(3)

| 番号 | 発見場所 | 長・實 | 器種など | 地図 | グリッド | 遺物・遺石等 | 目次(No.) | 調査・検定の特徴 | 出土 | 色調 | 既存度 | 特記事項 |
|-----|------|-----|------|-----|--------|--------|---------|------------------|-----|-----|-------|--------------|
| 132 | 1403 | 上田郷 | 瓦 | G10 | 5030 | SAK118 | | 青いガラス 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | |
| 133 | 7001 | 須坂郷 | 織機 | G10 | 5030 | SAK118 | 14010.8 | 青いガラス 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | |
| 134 | 6702 | 須坂郷 | 織机 | G8 | 18+19C | SAK03 | 14010.8 | 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | |
| 135 | 6301 | 須坂郷 | 織机 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 本当に青い瓦 |
| 136 | 201 | 十郷郷 | 円筒土器 | G8 | 18+19C | SAK05 | | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 西に青い瓦、北面に白い片 |
| 137 | 501 | 上田郷 | 鐵鉢 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 鐵鉢 |
| 138 | 2002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | |
| 139 | 2102 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦、北面に白い片 |
| 140 | 9002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 141 | 2103 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 142 | 7001 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 143 | 1401 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 144 | 4501 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 145 | 7001 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 146 | 1101 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 147 | 1804 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 148 | 4501 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 149 | 1001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 150 | 8002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 151 | 2106 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 152 | 1803 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 153 | 9002 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 154 | 7001 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 155 | 2801 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 156 | 4002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 157 | 1801 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 158 | 3002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 159 | 1004 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 160 | 3001 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 161 | 6001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 162 | 8002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 163 | 6003 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 164 | 6001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 165 | 3001 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 166 | 1001 | 須坂郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 167 | 4002 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 168 | 5001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 169 | 6002 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 170 | 6003 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 171 | 4002 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 172 | 7001 | 十郷郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 173 | 4001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 174 | 2001 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |
| 175 | 1003 | 上田郷 | 瓦 | G8 | 18+19C | SAK05 | 14010.8 | 青いガラス片 青いガラス片 | 青い瓦 | 青い瓦 | 既存1/2 | 瓦に青い瓦 |

第13表 第1次調査区出土遺物観察表(4)

| 番号 | 支店名 | 販賣地 | 酒別 | グラフ | 度数・貯蔵年数 | 基準(度) | 製造・醸造の種類 | 船上 | 卸販 | 販売度 | 販賣率 |
|-----|------|-----|------|-----|-------------|------------------------------|----------------|--------|-----|-----|--------|
| 176 | 1105 | 新潟県 | 新潟曲 | G5 | SD005 | (SD10.2 SD10.3) | 無濾過生原酒・純米吟醸・清酒 | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 177 | 1106 | 新潟県 | 新潟曲 | G5 | SD006 | (SD10.2 SD10.3 SD10.4) | 無濾過生原酒・純米吟醸・清酒 | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 178 | 1107 | 新潟県 | 新潟曲 | G5 | SD007 | (SD10.2 SD10.3 SD10.4) | 無濾過生原酒・純米吟醸・清酒 | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 179 | 6405 | 一郎記 | 酒 | G5 | SD005 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 180 | 1001 | 一郎記 | 老 | G5 | SD005 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 181 | 1311 | 新潟 | 越千日月 | G5 | SD005 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 182 | 1802 | 新潟 | 越千日月 | G5 | SD005 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 183 | 4200 | 二郎記 | 酒 | G5 | SD006 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 184 | 7101 | 新潟県 | 森久 | G5 | SD006 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 185 | 6201 | 一郎記 | 老 | G5 | SD006 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 186 | 2004 | 一郎記 | 年A | G5 | SD001 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 187 | 2005 | 一郎記 | 年A | G5 | SD001 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 188 | 6302 | 新潟 | 黒A | G5 | SD011 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒販賣率 |
| 189 | 1011 | 新潟県 | 和田曲 | G5 | SD031 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 190 | 2002 | 一郎記 | 酒 | G5 | SD031 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 191 | 1205 | 一郎記 | 酒 | G5 | SD031-32 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 192 | 2003 | 一郎記 | 老 | G5 | SD031-32 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 193 | 0201 | 新潟 | 黒A | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 194 | 1007 | 新潟 | 高所 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 195 | 2001 | 一郎記 | 酒 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 196 | 1011 | 一郎記 | 酒 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 197 | 3001 | 一郎記 | 老 | G5 | SD032 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 198 | 6001 | 一郎記 | 老 | G5 | SD032 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 199 | 2002 | 新潟 | 東 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 200 | 2002 | 新潟 | 東 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 201 | 2201 | 一郎記 | 黒 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 202 | 0201 | 一郎記 | 越千日月 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 203 | 3005 | 一郎記 | 年A | G5 | SD032-NR034 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 204 | 6001 | 一郎記 | 黒A | G5 | SD032-NR034 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 205 | 3001 | 一郎記 | 黒A | G5 | SD031 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 206 | 3001 | 一郎記 | 黒A | G5 | SD031 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 207 | 2001 | 新潟県 | 新潟 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 208 | 0201 | 一郎記 | 東 | G5 | SD032 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 209 | 6205 | 一郎記 | 小山田 | G5 | SD033 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 210 | 6206 | 一郎記 | 年A | G5 | SD033 | (SD10.0 SD10.1) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 211 | 6602 | 新潟 | 黒A | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 212 | 3002 | 一郎記 | 高所 | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 213 | 6002 | 一郎記 | 黒 | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 214 | 6201 | 一郎記 | 東 | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 215 | 3001 | 一郎記 | 東 | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 216 | 3001 | 一郎記 | 黒 | G5 | SD033 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 217 | 6201 | 新潟 | 小山田 | G5 | SD034 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 218 | 3001 | 新潟縣 | 東 | G5 | SD034 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |
| 219 | 6602 | 新潟県 | 黒A | G5 | SD034 | (SD10.0) | 無・ハーフモルト | セレクション | 日本酒 | 日本酒 | 日本酒 |

第14表 第1次調査区出土遺物観察表（5）

第15表 第1次調査区出土遺物觀察表（6）

| 遺物 編號 | 地點 名稱 | 出 土 地 點 | 層 位 標 記 | 地 質 特 性 | 形 狀 規 格 | 材 質 與 性 能 | 形 狀 規 格 | 材 質 與 性 能 | 形 狀 規 格 | 材 質 與 性 能 |
|----------|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|
| 264 | 399 | 上層階 | 小河底灰土 | G5 | 9.3 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 265 | 400 | 上層階 | 灰土 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 266 | 398 | 上層階 | 白灰土 | G5 | 1.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 267 | 401 | 上層階 | 黑 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 268 | 400 | 上層階 | 黑 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 269 | 400 | 上層階 | 黑 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 270 | 400 | 上層階 | 黑 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 271 | 400 | 上層階 | 黑 | G5 | 6.0-7.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 272 | 398 | 深水沟 | 砂土 | G5 | 7.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 273 | 399 | 深水沟 | 砂土 | G5 | 2.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 274 | 400 | 上層階 | 黑 | G5 | 2.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 275 | 398 | 上層階 | 黑 | G5 | 2.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 276 | 402 | 上層階 | 黑 | G5 | 10-15 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 277 | 100 | 上層階 | 黑 | G5 | - | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 278 | 399 | 上層階 | 灰土 | G7 | - | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 279 | 400 | 深水沟 | 灰土 | G7 | 1.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 280 | 400 | 深水沟 | 黑 | G7 | - | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 281 | 400 | 上層階 | 黑 | G7 | - | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 282 | 400 | 上層階 | 黑 | G7 | - | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 283 | 400 | 上層階 | 有孔 | G7-100-100G | 1.0 | 圓筒。直口。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 284 | 748 | 上層階 | 白灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 285 | 100 | 上層階 | 白灰土 | G8 | A | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 286 | 749 | 上層階 | 白灰土 | G8 | 1.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 287 | 749 | 上層階 | 白灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 288 | 749 | 上層階 | 白灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 289 | 748 | 上層階 | 白灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 290 | 398 | 深水沟 | 灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 291 | 400 | 深水沟 | 灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 292 | 399 | 上層階 | 灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 293 | 100 | 上層階 | 灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |
| 294 | 100 | 上層階 | 灰土 | G8 | 2.0 | 圓筒。 | 1.7x3.7 (1.7x3.7) | 陶土 燒土 | 直筒形 | 更換-復舊 |

第16表 第1次調查區出土遺物觀察表 (7)

V 調査のまとめと検討

1 時期別の遺跡変遷

4次にわたる発掘調査により、琵琶塙内遺跡は縄文時代頃に遺跡の兆候を見せ、中世前期にまで至る遺跡であることが判明した。当遺跡全体の動向を知るために、まずは調査成果に即して大まかな変遷を辿っておこう。なお、報告書は刊行されていないが、すでに調査が終了している第3次調査の成果についても必要に応じて触れておく。

縄文時代 遺構は見られないが、中期から晩年にかけての土器片が少量見られた（第1次）。当遺跡のやや上流にある山添遺跡からは前・中期の竪穴住居などが確認されている⁽¹⁾が、人の生活痕跡は当遺跡にまでは及んでいないものと考えられる。

弥生時代 前期の遺物は見られない。中期中葉から後葉頃になると、少量ながら比較的良好な土器が見られる（第1次）。とくにまとまった出土ではないが、周辺に小規模な居住地が存在する可能性が考えられる。また、当遺跡の丘陵寄りでは方形周溝墓が見られ（第4次）、丘陵寄りに集落の展開していることが推測される。これは、後期に至って琵琶塙内遺跡の西に隣接する天王山遺跡⁽²⁾に集落が形成されることへつながっている可能性がある。

古墳時代 前期初頭頃の土器が、当遺跡内を北流する流路内からまとまって出土している（第1次）。この流路は弥生時代後期頃に開削された可能性が高いもので、最終的には古墳時代後期頃まで一部機能を残すものの、後述するように当該時に本来の機能をほぼ停止している。前期段階の竪穴住居は今のところ確認されていないが、先述の天王山遺跡では前期初頭頃までは集落の形成が確認できる。なお、山添遺跡からも当該時期の溝が確認されている。

中期の様相は判然としないが、後期前葉頃になると、竪穴住居が確認できる（第1次）。当遺跡で明確な居住を示す最初の時期といえる。ただし、集落は数件程度の小規模なものと考えられる。

飛鳥・奈良時代 飛鳥時代（7世紀）のものは少ないが、奈良時代（8世紀）になると、遺跡全体に大

量の遺構・遺物が広がる。竪穴住居・掘立柱建物・井戸などが確認でき（第1・3・4次）、集落の形成が明らかである。後述のように、奈良時代末期頃には「厨」の文字が見える墨書き器が多く出土しており（第1次）、官衙との関係が想定できる。

平安時代 この時期の前半期には、前代から継続する集落が形成されている（第1次）が、その規模はやや小さくなっているようである。後半期にも建物の存在は確認できる（第1次）が、集落の広がりは不鮮明となる。西方の丘陵裾部には、導水路と思われる溝も開削されている（4次）。

鎌倉時代以降 13世紀前半頃までの土器類が確認できる（第1・4次）が、集落の状況はやはり明確ではない。13世紀中葉から15世紀代の土器類は出土していないため、この段階の当地は集落地としては利用されなかつたものと考えられる。なお、15世紀末から16世紀にかけての集落は、隣接する山添遺跡で確認されている。

2 古墳時代以前の大溝とその意義

a 導水路としての大溝

琵琶塙内遺跡では、S D28・29・30・96・97などの遺跡を北流する溝が確認された。古墳時代以前の時期で、当遺跡を最も特徴付ける遺構といつてもよいであろう。これらの溝は、次のような特徴がある。
①断面形は、整った逆台形ないしはV字形を呈する。
②埋土は砂礫層で構成されており、水流のあったことが確實である。

③台地上の黒ボク土を開削している。

④溝は蛇行し、かつ、複数の溝が交わらずに平行して走っている。

以上のことから、これらの溝は人工的に開削されたものであり、その機能は水路と考えてよいであろう。平行して走る複数の溝という状態からは、これらはかなり計画的な意味を持って開削されたと考えられる。

水路と見た場合、基本的には導水路と考えられる。第1・4次の調査区土層を見ると、砂礫層の上部に

黄色系粘質シルトと黒色土（黒ボク）の堆積が見られる。この様相は、やや粘性が強いものの、明野台地の一角である斎宮跡の堆積土と大きな差はないようと思われる。つまり、琵琶垣内遺跡の地質は、単純な氾濫平野のそれではなく、台地縁辺部を含んでいる可能性が高いことを物語っている。⁽³⁾ このように見ると、湧水の少ない地に対する灌漑用水路として開削されたのがこれらの溝であり、やや上流の櫛田川から引水し、下流の灌漑用として利用されたものと見られる。

以上の状況を前提にすれば、S D97の規模がひときわ大きいことの意味が読み取れる。つまり、S D97は幹線導水路であり、そこから支線として分かれるのがS D96・28などと考えられるのである。

では、溝を蛇行させることにはどのような意味があるのであろうか。これについては、水流を緩やかにするという目的も考えられるが、S D28が最も東に膨らむ位置（G 4 区）は、地形的に見ると西側丘陵尾根が突出する位置に相当しているため（第2図参照）、地形的な制約も絡んでいると考えられる。

以上のように、琵琶垣内遺跡で確認された大溝は、灌漑用導水路と見られる。したがって、地形的に見て、調査区付近あるいはやや下流に水田などの可耕地が存在するものと推測できる。

b 大溝の時期

出土遺物の状況から判断すると、大溝は弥生時代中期頃に開削された可能性も考えられるが、遺物量が少なく、断定できない。遺構に入る遺物の中心が古墳時代前期後半であることから、おそらくは弥生時代後期頃から古墳時代前期前半にかけての時期に開削され、古墳時代前期前半の段階では機能していたものと考えられる。

3 古墳時代前期の土器類

この時期の土器は、S Z98に良好な資料がある。この遺構出土土器は、S字壺では赤塚次郎氏分類のC・D類を中心としている。高杯は脚柱部が短く、緩やかに外反しながら開くもので、「堀田式」の特徴は備えていない。S字壺には若干の型式差が見られるものの、出土状況から見る限り、廃棄時の一括性は高く、前期中葉頃の良好な資料として扱うこと

ができるであろう。

この土器群に後続するのが、古墳通りB遺跡井戸S E 53出土資料⁽⁴⁾である。この土器群も一括性が高いが、高杯が欠如している。そのため、明確に判断しにくいが、S字壺はD類である。古墳通りB遺跡の資料は、雲出川流域に見られる「堀田式」に併行するものと考えられ、前期後半のものと見てよいであろう。

琵琶垣内遺跡では第1次調査の66・79などのようない、近畿地方との関係を伺わせる資料がある。古墳通りB遺跡の資料中にも、近畿地方の布留系壺が3点出土している。これらの布留系土器類は、布留式そのものではないであろうが、極めて密接なつながりを想定させるものである。

この一方、雲出川流域では、雲出島貴遺跡⁽⁵⁾と堀田遺跡⁽⁶⁾などに布留式土器そのものが見られるものの、いずれも前期前半頃のものである。前期後半の雲出川流域では、布留式を融合させた土器群（「堀田式」）の成立が見られるものの、琵琶垣内遺跡を含む櫛田川流域では、「堀田式」と同様な融合現象は確認できない。

以上のこととは、同じ伊勢中部地域とはいえ、雲出川流域と櫛田川流域の土器相は同一視できないことを示唆すると考えられる。それは、とくにS字壺D類併行期以降の時期に顕在化するように思われる。

櫛田川流域における古墳時代前期の土器類は、その初頭頃の資料は充実しているものの、それ以降の資料は少ない。資料が充実した際には、東海地域といいうマクロレベルでの異同だけでなく、伊勢地域内での異同をも視野に入れた検討を深化させる必要があろう。

4 墨書土器「下厨前」と古代の集落

a 古代伊勢道・飯野郡条里と琵琶垣内遺跡

琵琶垣内遺跡は、古代の国都御制では飯野郡櫛田郷内に相当すると考えられる。隣接する多気郡では、斎宮跡をはじめとする古代の遺跡が多数調査されているものの、飯野郡内の古代遺跡は、堀町遺跡以外はあまり知られていない。琵琶垣内遺跡を代表する時期がこの時期であり、この点からも、当遺跡は注目できる資料を提示している。

この時期の当遺跡における集落は、出土土器を見る限り、奈良時代前期（斎宮編年^{〔1〕}1-3、都城編年^{〔11〕}では平城Ⅲ併行期）にはじまり、奈良時代末頃（斎宮I-4）にそのピークを迎える。平安時代前期（斎宮II-2）頃に衰退はじめる、という状況と考えられる。

当遺跡の状況を考えるなかで看過できないのが、古代伊勢道と飯野郡条里の存在である。古代伊勢道は飯野郡条里方向に合致するもので、遺跡北部を東西に貫く旧参宮街道がその跡地と考えられている。両者の主軸はE 15° Sである。

伊勢道および飯野郡条里に合致する主軸となる建物にはS B 131・138・139・146があり、いずれも第1次調査区である。このうち、時期的に最も遅いと考えられるのはS B 146で、奈良時代の範疇と考えられる。所属時期が明確なのはS B 131で、これは平安時代後期末頃である。以上のことから、古代伊勢道および飯野郡条里に合致する建物は、奈良時代から平安時代後期末頃までの間に見られるということができる。ただし、検出した建物には、古代伊勢道および飯野郡条里に合致しないものの方が多いことには、注意が必要である。

第1次調査区のG 3区とG 5区間は、古代伊勢道のすぐ近隣にあるが、この間は発掘調査されていない。残念と言うほか無いが、少なくとも出土遺物が減少していた区域だったのである。これらの状況も踏まえれば、琵琶垣内遺跡と伊勢道とは、それほど密接に関連しているとは言い難いと言わざるを得ない。

b 出出土器の傾向

古代における琵琶垣内遺跡の出土土器は、斎宮跡で出土する土器類にはほぼ一致している。とくに杯皿類・壺類の傾向は、同一傾向を示すと見てよいであろう。第1次調査区の187・193・203・211などの土器器杯皿類に見られる焼成前ヘラ記号は、斎宮跡第7次調査区のS K8740・8782に見られる記号^{〔12〕}と類似したものである。

斎宮跡出土の土器器類は、大きくは古代の有爾郷域内で生産されているものと考えられる。したがって、琵琶垣内遺跡は有爾郷產土器の供給地域と考えて大過ないと考えられる。

有爾郷產土器については、この地内で数多く確認されている二等辺三角形状を呈した土器焼成遺構に注目が集まり、生産遺構の集中という側面からの研究深化が著しい。これに関わり、有爾郷產土器と考えられる6・7世紀頃の丸底甕に関する分布の検討も深化を見せており^{〔13〕}。しかし、8世紀以降の有爾郷產土器に関する分布論的検討はほとんど深化していない。これは、この時期の土器研究が斎宮跡で自己完結している状況も大きい関係している。近年の調査によると、有爾郷產土器は、おばけた遺跡（旧志摩国、三重県鳥羽市）や西肥留遺跡（旧伊勢国一志郡、三重県松阪市）からも出土が確認できる。

有爾郷產土器は、その色調や口縁部形態など、比較的認識しやすい要素が揃っており、分布を追いかけるには適した資料である。古代の土器器分布域を検討することは、有爾郷產土器の供給エリアを知ることはもちろん、古代における「流通」の問題にまで踏み込むことができる非常に重要な課題であると認識する。

c 墨書き土器「下厨前」

琵琶垣内遺跡では、第1次調査区を中心に多数の墨書き土器が出土している。なかでも、「下厨前」・「厨前」・「厨酒」などといった墨書きが見られることが注目できる。土器の示す時期は、斎宮I-4期からII-1期に併行する時期であり、概ね8世紀末から9世紀初頭頃と見てよい。

「厨」は、一般的には厨房を示す語であるが、ここでいう厨とは「御厨」、すなわち、政務的・宗教的機関への貢納品を生産する地を示していると考えられる。具体的には、神宮ないしは斎宮寮に関わる御厨に關係すると考えるのが自然であろう。

「厨」墨書き土器の出土地点は、第1次調査区のG 5区に集中しており、隣接する第4次調査区での出土は見られない。つまり、かなり局地的に出土しているといえる。なお、第1次調査区のG 5区付近は、小規模ながらも建物跡が確認されている場所である。

さて、飯野郡地内の神宮領御厨には「櫛田河原御厨」がある。斎宮寮御厨は明確ではない。櫛田河原御厨は、「神宮雜例集」^{〔14〕}・「神風鈔」^{〔15〕}・「外宮神目録」^{〔16〕}などに記載があり、外宮領と考えられる。

櫛田河原御厨に關係する可能性がある地名とし

て、山添町付近にある「上川原、下川原」の小字が注目できる。この小字地名が御厨と関係しているとするならば、当遺跡とは少し距離が離れており、直接結びつけることは妥当ではない。

以上のように、文献史料に記載された御厨にそのまま発掘資料を当てはめるのは無理がある。したがって、墨書き土器「下厨前」が具体的に何を示すのかは、今のところ結論を保留せざるを得ないのが現状である。

しかし、墨書きされた土器がいずれも有爾郷産土師器と見られることや、当遺跡と斎宮跡とが古代伊勢道で直接つながっていることを踏まえるならば、「下厨前」が斎宮寮に関係した施設を示す可能性は残しておくべきであろう。いすれにしても、当遺跡は神宮ないしは斎宮寮に貢納する供物の供給地として機能していたものと考えておく。

5 琵琶垣内遺跡発掘調査の意義

琵琶垣内遺跡の発掘調査は、今回報告する2次分を含めて合計4次にわたっている。旧飯野郡内の平地部を調査した事例としては、極めて大規模なものといえる。

発掘調査によって明らかとなったのは、主に古墳時代前期前後の導水路、古墳時代後期の集落跡、奈良時代後期から平安時代後期にかけての集落跡である。この3時期については、近隣の遺跡との関係を、とくに注目していく必要があろう。

古墳時代前期の動向は、近年不時発見され、発掘調査の結果、弥生時代後期を中心とする大規模環濠集落であることが判明した村竹コノ遺跡との関係が注目できる。弥生集落の廃絶前に前後して形成される大規模導水路は、飯野郡低地部、とくに櫛田川近傍地域の開発と密接に関わっていると考えられる。

琵琶垣内遺跡の古代集落は、まさにこのような動向を背景としたものと見ることができる。すなわち、古墳時代のはじまり頃を契機に、櫛田川近傍地域の開発が進展していった。琵琶垣内遺跡とは櫛田川を挟んで対岸にあたる古墳通りB遺跡で確認された精緻な井戸も、大局的にはこの状況と無縁ではなかろう。そしてその後に、それに目をつけた神宮ないしは斎宮寮によって、墨書き土器「下厨前」に代表され

供物供給地として展開していったのではないだろうか。

琵琶垣内遺跡の発掘調査成果をもとに、この地で人々がいかに暮らしてきたのかを以上のように見てみた。もちろん、人の歴史が平稳に進歩のみを示すものではなく、その間には様々な苦難があったに違いないが、それを克服することで、今へと繋がっていることは確かであろう。

今後は、この発掘調査資料から得た貴重な情報をもとに、いかなる歴史を紡いでいくのかが我々に問われているのである。

(伊藤)

<註>

- (1) 平成13年度三重県埋蔵文化財センター調査
- (2) 三重県埋蔵文化財センター『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』(2006年)
- (3) 地質学的な見地からは、当地は氾濫平野にあたるとされている(建設省国土地理院『土地条件調査報告書(伊勢清山西部地域)』1969年)
- (4) 赤塚次郎「畠間式土器」(『畠間遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990年)
- (5) 三重県埋蔵文化財センター「古墳通りB遺跡・古墳通り古墳群発掘調査報告」(2000年)
- (6) 三重県埋蔵文化財センター「鶴抜」Ⅲ(2001年)
- (7) 三重県埋蔵文化財センター「堀田第3～5次調査」(2002年)
- (8) 伊藤裕作「伊勢における古墳時代前期後半の土師器に関する覚書」(『研究紀要』第14号 三重県埋蔵文化財センター 2005年)
- (9) この3時期の資料は、近年調査が進展している村竹コノ遺跡(松阪市上川町)、三重県埋蔵文化財センター調査)で良好である。
- (10) 斎宮歴史博物館「斎宮跡発掘調査報告」I (2001年)
- (11) 郡城編年と分類については、古代の土器研究会編「古代の土器1 郡城の土器集成」(1992年)を参照した。
- (12) 古代伊勢道と飯野郡豪里については、伊藤裕作「斎宮寮・伊勢道・豪里」(『斎宮歴史博物館研究紀要』14 2004年)を参照されたい。
- (13) 斎宮歴史博物館「史跡斎宮跡平成14年度発掘調査概報」(第7次調査) 2004年)
- (14) 上村安生「各地域の土師器生産と土師器焼成遺構・東海」「(古代の土器生産と焼成遺構」1997年)
- (15) 考古学フォーラム座談会3 「長門衆とその時代」(『考古学フォーラム』11, 1999年)
- (16) 三重県埋蔵文化財センター「おばだけ遺跡(第5次)発掘調査報告」(2006年)
- (17) 平成16年度三重県埋蔵文化財センター調査資料。
- (18) 『神宮雑例集』(『群書類従』第一輯神祇部)
- (19) 『神祇鈔』(『群書類従』第一輯神祇部)
- (20) 『外宮神領目録』(『続々群書類従』第一)



調査前風景（東から）



S X505（西から）

写真図版2

第四次調査区
遺構(2)



上層面西半部完掘状況（東から）



上層面東半部完掘状況（西から）



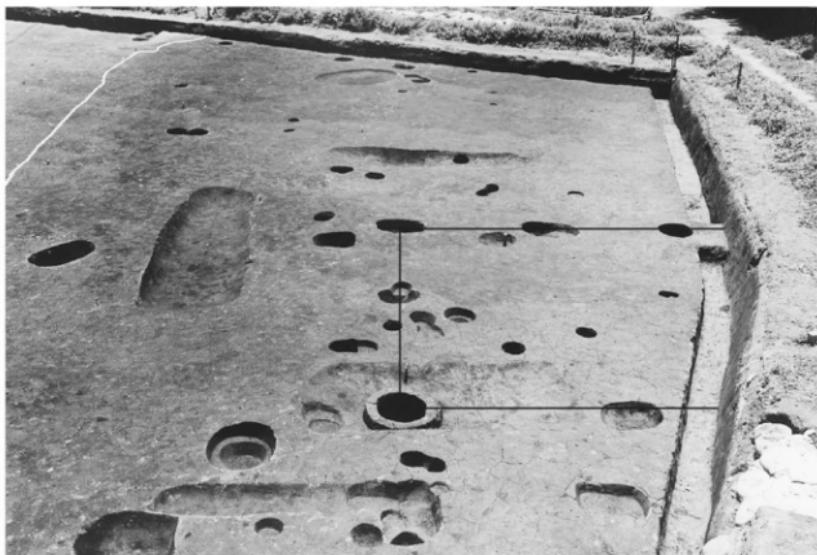
下層面西半部完掘状況（東から）



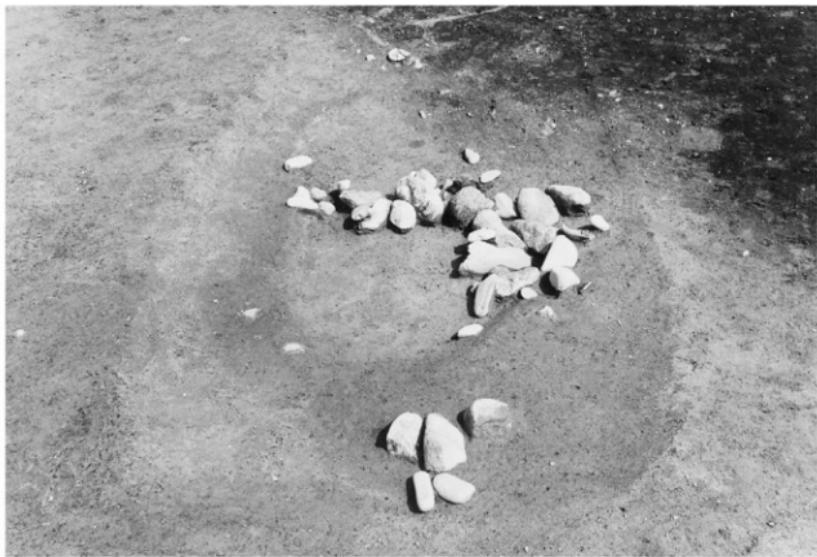
下層面東半部完掘状況（東から）

写真図版4

第四次調査区
遺構(4)



SB594 (北から)



SX581 (南から)



耕作溝群（東から）



耕作溝断面（南から）

写真図版6

第四次調査区

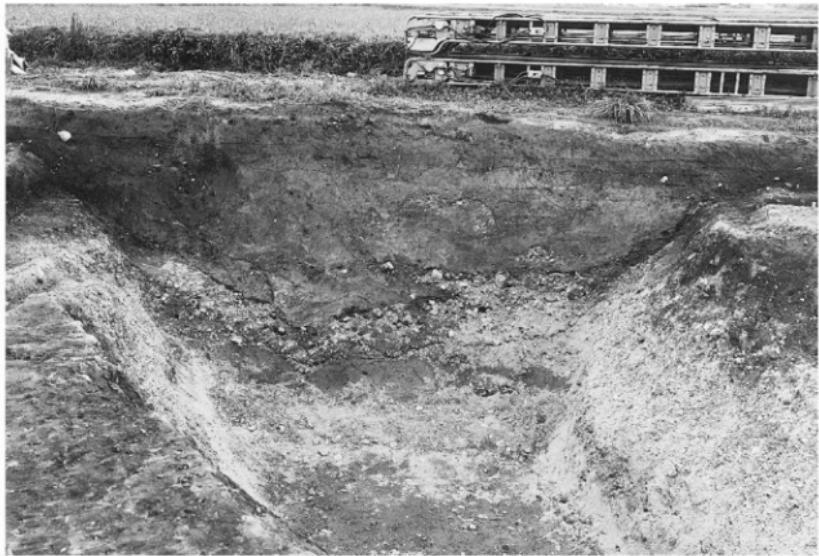
遺構
(6)



SD 545断面（北から）



SD 573・592断面（北から）



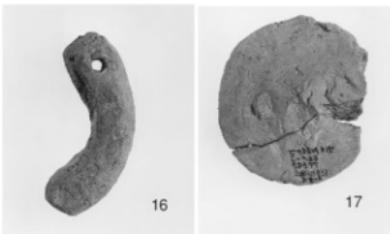
SD 590断面（北から）



SD 591断面（南から）

写真図版8

第四次調査区
遺物(1)





52



55



61



62



69



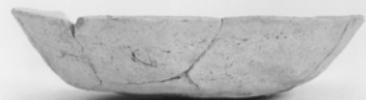
94



71



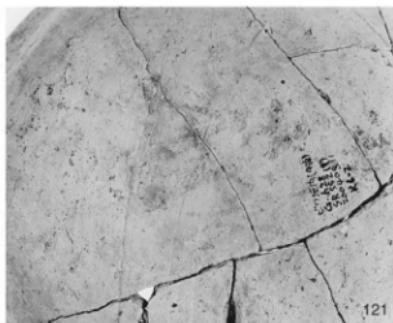
105



106



115



121



157



130



162



調査区を南西上空から望む（右上は柳田川）



調査区全景（北上空から）

写真図版12

第一次調査区
遺構

(2)



G1～3区全景（北から）



G5区全景（北から）



G9区全景（南から）



G4区南端 SD 28土層断面（北から）

写真図版14

第一次調査区
遺構

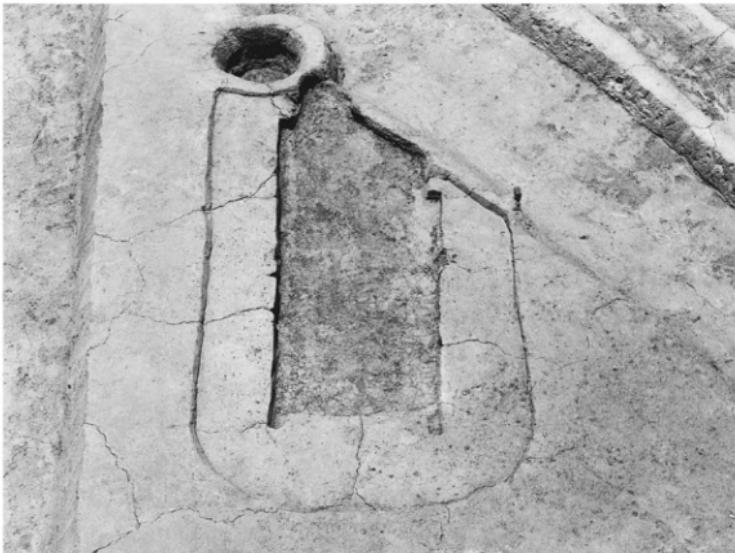
(4)



G6・7区全景（北から）



G6・7区全景（南から）



G5区木棺基 SX84 (北から)



G8区全景 (北から)

写真図版16

第一次調査区

遺構
(6)



G10区全景（北から）



G10区全景（南から）



28



46



40



54



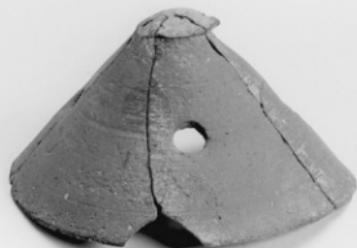
45



60

写真図版18

第一次調査区
遺物(2)



66



74



72



79



91



95



98



写真図版20

第一次調査区
遺物(4)



135



158



137



159



138



160





205



220



263



272



226



293



234



289

報 告 書 抄 錄

三重県埋蔵文化財調査報告 271

**琵琶垣内遺跡（第1・4次）
発掘調査報告**

2006（平成18）年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 東海印刷株式会社

